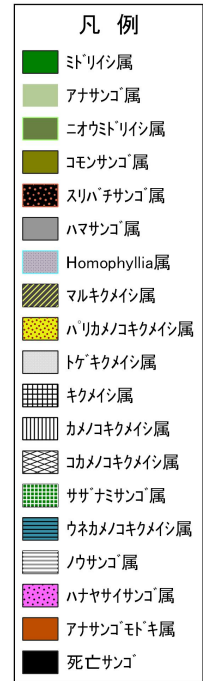
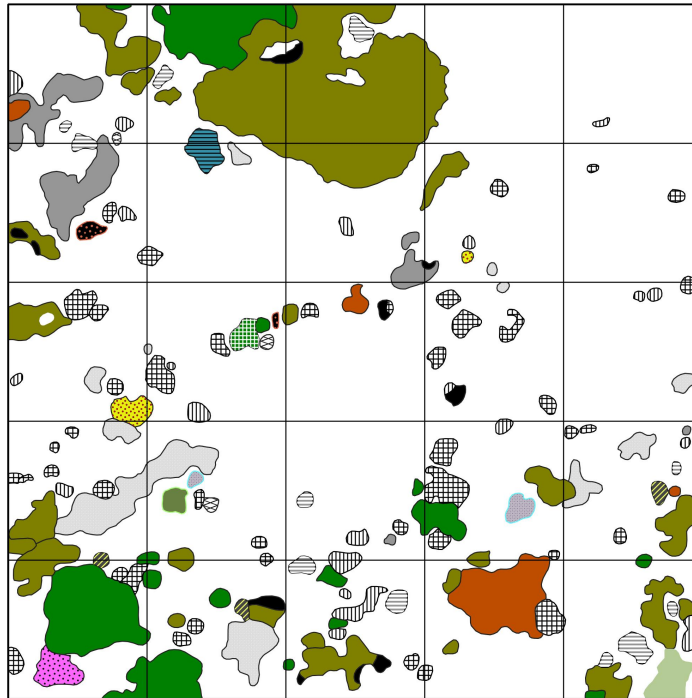


C13

秋季



C13

冬季

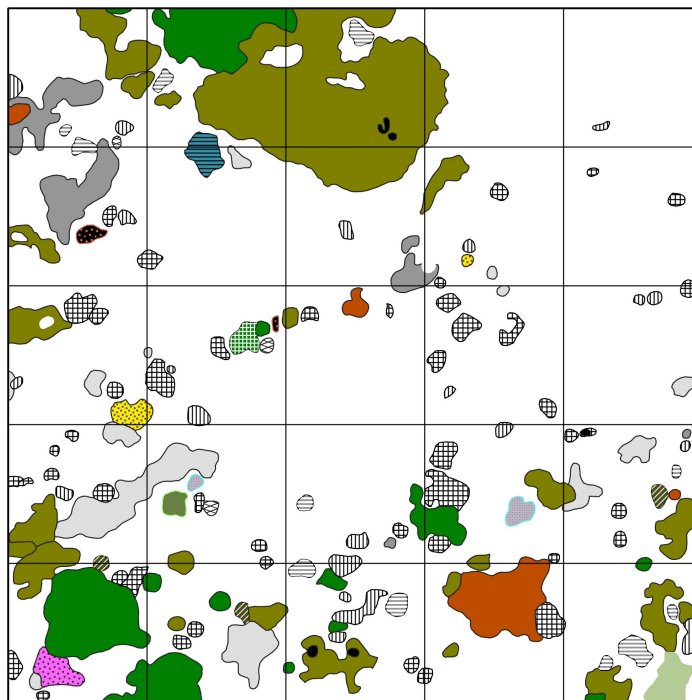


図-6.12.13 (2) サンゴ類生息状況 (定点調査: 5m×5m) (C13:令和3年度)

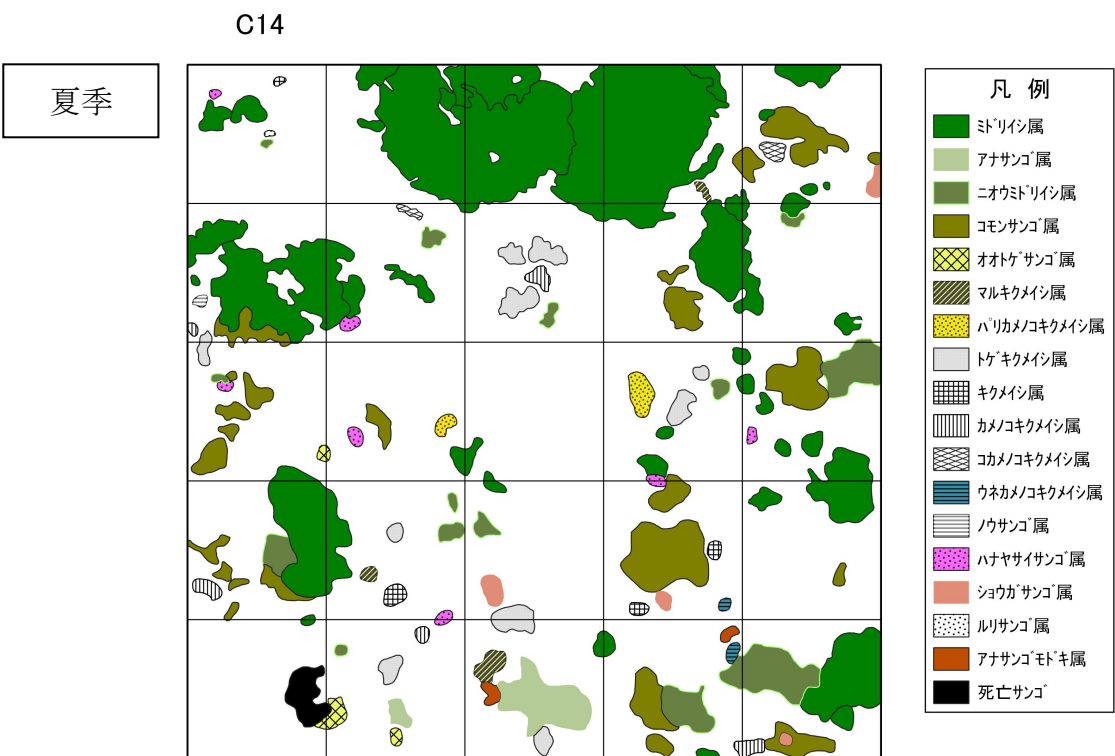
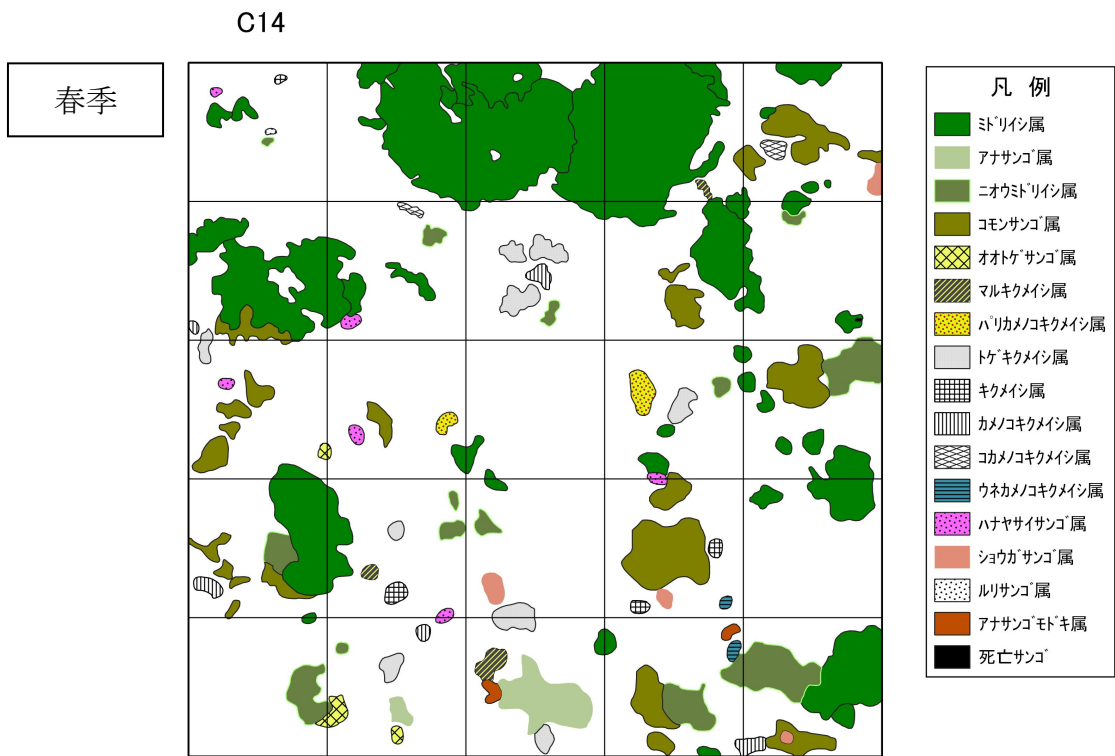


図-6.12.14 (1) サンゴ類生息状況 (定点調査: 5m×5m) (C14:令和3年度)

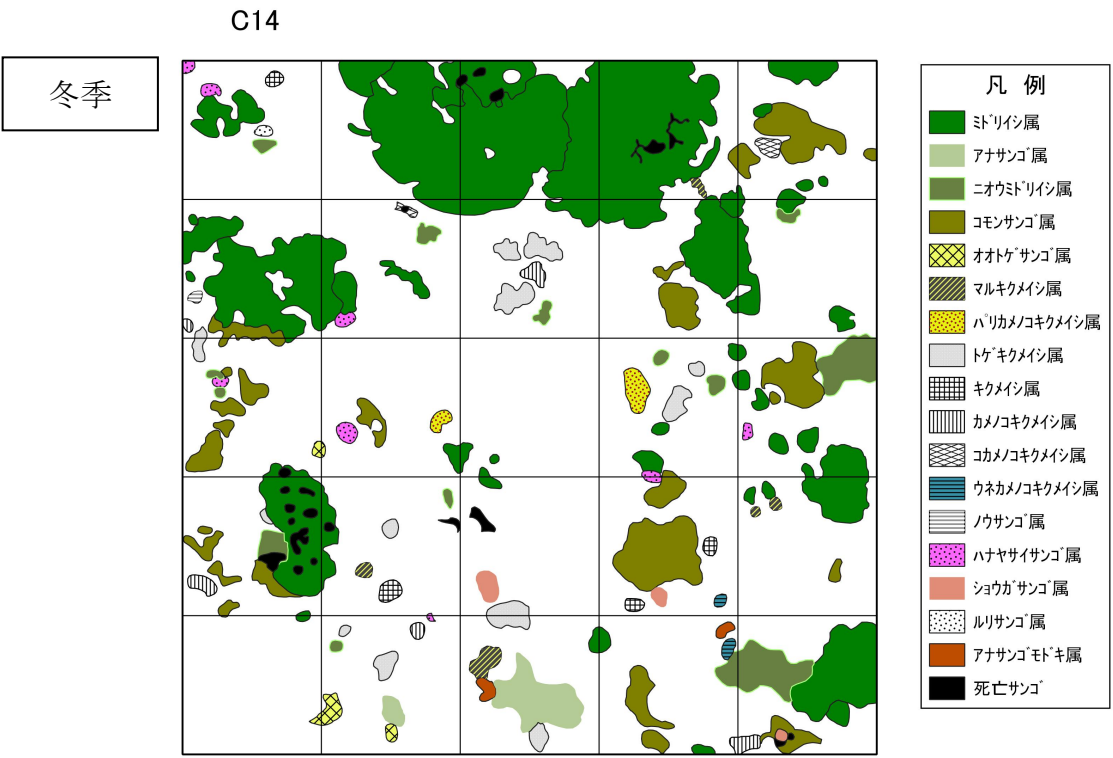
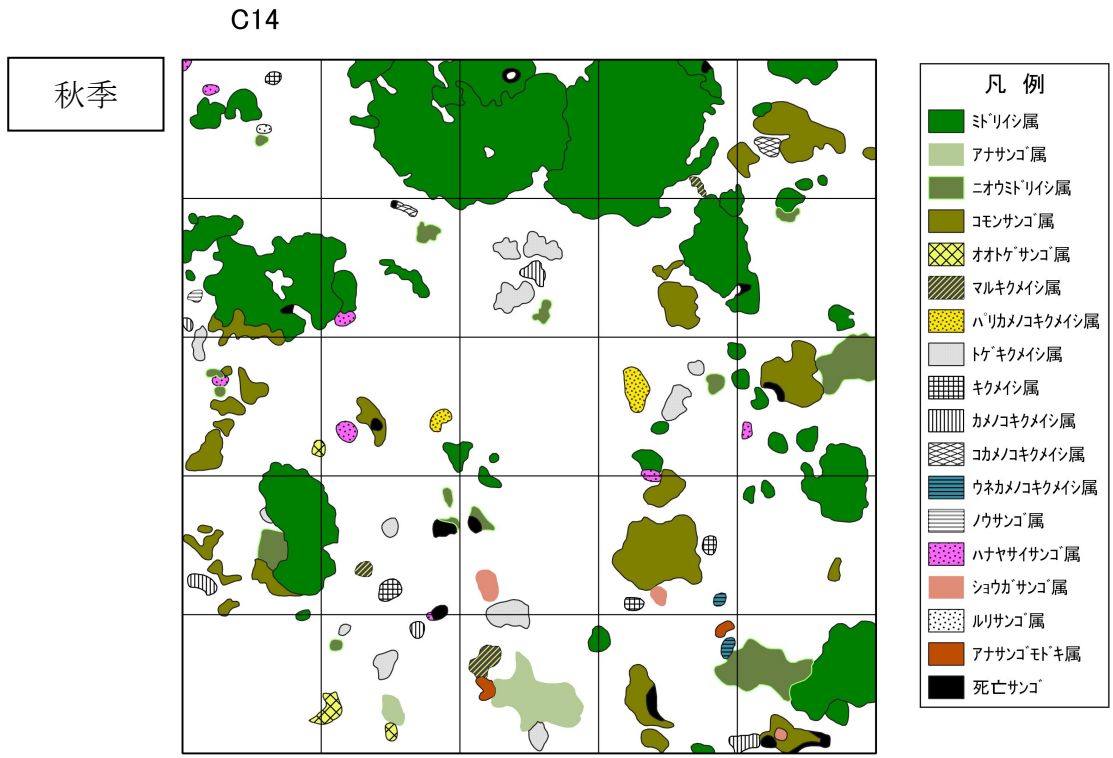


図-6.12.14 (2) サンゴ類生息状況 (定点調査: 5m×5m) (C14:令和3年度)

表-6.12.17 (1) サンゴ類・海藻草類定点調査結果概要 (春季)

調査地点	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7
調査日	令和3年5月25日	令和3年5月28日	令和3年5月25日	令和3年5月25日	令和3年5月22日	令和3年5月22日	令和3年5月23日
水深	8.6m	7.0m	3.9m	3.8m	7.9m	4.8m	10.1m
底質概観	岩盤、巨礫	巨礫、砂	巨礫	岩盤	岩盤	岩盤	巨礫
浮泥堆積状況	I	I	I	I	I	I	I
生存被度	<5%	<5%	<5%	15%	<5%	25%	<5%
死亡被度	0%	<5%	<5%	<5%	0%	<5%	0%
出現種類数	13	12	10	17	16	20	6
主な出現種 (被度5%以上)	-	-	-	シドリイ属(テープル状) 10%	-	シドリイ属(テープル状) 20%	-
成育型	V	V	V	II	V	II	V
サンゴ加入度	I	I	I	I	I	II	I
草状ミドリイソの最大径(cm)	63, 48, 44, 33	-	-	289	-	328	-
オニヒトデの観察個体数	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
サンゴ食巻貝類による食害の状況	I (なし)	I (なし)	I (なし)	I (なし)	I (なし)	I (なし)	I (なし)
その他食害の状況	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
病気の状況	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
白化段階	0	0	0	0	0	0	0
被度	65%	45%	70%	55%	20%	45%	35%
出現種類数	64	55	52	57	62	51	54
藻場被度	<5%	10%	<5%	<5%	<5%	<5%	15%
主な藻場構成種	ホナダツリ属 <5%	ホハモト 10%	ホハモト <5%	ホハモト <5%	ホハモト <5%	ホナダツリ属 <5%	ホナダツリ属 15%
	ホハモト <5%		ホハモト <5%	ホハモト <5%	ホハモト <5%	ホハモト <5%	ホハモト <5%
	ホハモト <5%			マクサ <5%			
食害の状況	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
付着藻類被度	10%	<5%	<5%	<5%	<5%	<5%	<5%
被度	<5%	<5%	<5%	0%	<5%	<5%	<5%
主な出現種	カヅサミ科 <5%	カサト科属 <5%	カサト科属 <5%	-	カサト科属 <5%	カサト科属 <5%	カヅサミ科 <5%
					カヅサミ科 <5%		
備考	特外周辺にテープル状大型ツゴアリ。	特になし	特になし	特になし	特外周辺にテープル状大型ツゴアリ。	特になし	特になし

注) 1.水深は、概高表示。
 2.底質：岩盤、巨礫 (等身大以上)、巨礫 (等身大~人頭大)、大礫 (人頭大~こぶし大)、小礫 (こぶし大~米粒大)、砂礫、砂、砂泥、泥
 3.浮泥堆積状況：「I」：海底面をほとんど覆わない、II：はたぐと覆る、III：浮泥がまばらに堆積している、IV：浮泥が一様に(厚く)堆積している」
 4.被度：<5%、<5%、<5%、それ以上を5%ステップで示す。
 5.主な出現種は被度の上位3種を示す。
 6.成育型：I (枝状)、II (テープル状)、III (葉状)、IV (特定種属)、V (多様種属)、VI (ワカサギ属)
 7.サンゴ加入度 (個体数 / m²)：I (なし)、II (<5個体)、III (<5個体)
 8.サンゴ食巻貝類による食害の状況：I (食害目立たない)、II (食害目立たない)、III (大きく食害のある個体が見られ)、IV (観察個体が目立ち、貝類が散らされる)
 9.白化の段階：1：1~10%、2：10~50%、3：50~90%、4：>90%

表-6.12.17 (2) サングコ類・海藻草類定点調査結果概要 (春季)

調査地点	C8	C9	C10	C11	C12	C13	C14
調査日	令和3年5月28日	令和3年5月26日	令和3年5月26日	令和3年5月26日	令和3年5月23日	令和3年5月23日	令和3年5月24日
水深	4.3m	3.6m	3.9m	5.3m	10.8m	9.3m	7.7m
底質概観	岩盤	岩盤	岩盤	岩盤	岩盤	岩盤	岩盤
浮泥堆積状況	II	I	I	I	I	I	I
生存被度	<5%	10%	<5%	30%	20%	15%	20%
死亡被度	<5%	<5%	0%	<5%	<5%	0%	<5%
出現種類数	14	17	10	19	25	19	21
主な出現種 (被度5%以上)	-	ミドリイ属(テープ状)	-	ミドリイ属(テープ状)	ミドリイ属(被覆状)	ミドリイ属(被覆状)	ミドリイ属(テープ状)
		5%		25%	10%	5%	10%
					5%		5%
サングコ類							
成育型	V	II	V	II	V	V	II
サングコ加入度	I	I	I	II	II	II	II
草状ミドリイの最大径(cm)	-	238, 50, 40, 34, 25	-	256, 240, 105, 100, 80	100, 15	108, 100, 70, 68, 60	150, 110, 90, 80, 80
オニヒトデの観察個体数	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
サングコ食巻貝類による食害の状況	I	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)
その他食害の状況	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
病気の状況	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
白化段階	0	0	0	0	0	0	0
被度	60%	55%	50%	60%	40%	55%	45%
出現種類数	58	55	42	65	67	41	59
藻場被度	<5%	<5%	<5%	<5%	<5%	10%	<5%
主な藻場構成種	ホウライワ属 サバモト サバノキ	サバモト サバノキ サバノキ	サバモト サバノキ サバノキ	サバモト サバノキ サバノキ	サバモト サバノキ サバノキ	サバモト サバノキ サバノキ	サバモト サバノキ サバノキ
食害の状況	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
付着藻類被度	<5%	10%	20%	0%	<5%	<5%	<5%
被度	<5%	<5%	0%	<5%	<5%	0%	0%
主な出現種	ウツギミ科	ウツギミ科	ウツギミ科	ウツギミ科	ウツギミ科	ウツギミ科	ウツギミ科
	<5%	<5%	-	<5%	<5%	-	-
備考	特になし	特になし	おたワ属に浮泥が堆積。	特になし	特外周辺にテープ状大型サングコあり。	特外周辺にテープ状大型サングコあり。	特になし

注) 1.水深は、標高表示。
 2.底質：岩盤、板石、巨藻(等身大以上)、巨藻(等身大以下)、大藻(人頭大~こぶし大)、小藻(こぶし大~米粒大)、砂泥、砂、砂泥、泥
 3.浮泥堆積状況：「I」：海底面をたたくても落ちない、II：はたくと落ちる、III：浮泥がまばらに堆積している、IV：浮泥が一様に(厚く)堆積している」
 4.被度：<5%、<5%、<5%、それ以上を5%ヒッチで示す。
 5.主な出現種は被度の上位3種を示す。
 6.成育型：I(枝状ミドリイ属)、II(テープ状ミドリイ属)、III(被状、テープ状ミドリイ属)、IV(特定種属)、V(多細胞属)、VI(ワトコ属)
 7.サングコ加入度(個体数/㎡)：I(なし)、II(<5個体)、III(<5個体)、IV(<5個体)
 8.サングコ食巻貝類による食害の状況：I(食害目立たない)、II(食害のある個体がある)、III(大きく食害のある個体がある)、IV(観察個体が目立ち、貝類が置き残される)
 9.白化の段階：0：<10%、1：10~20%、2：20~30%、3：30~40%、4：>40%

表-6.12.18 (1) サンゴ類・海藻草類定点調査結果概要 (夏季)

調査地点	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7
調査日	令和3年8月24日	令和3年8月24日	令和3年9月24日	令和3年9月3日	令和3年9月2日	令和3年9月3日	令和3年8月30日
水深	8.6m	7.0m	3.9m	3.8m	7.9m	4.8m	10.1m
底質概観	岩盤、巨藻	巨藻、砂	巨藻	岩盤	岩盤	岩盤	巨藻
浮泥堆積状況	I	I	I	I	I	I	I
生存被度	<5%	<5%	<5%	15%	<5%	25%	<5%
死亡被度	0%	<5%	<5%	<5%	0%	<5%	0%
出現種数	13	13	10	19	16	20	8
主な出現種 (被度5%以上)	-	-	-	シトリア属(テブ*状) 10%	-	シトリア属(テブ*状) 20%	-
成育型	V	V	V	II	V	II	V
サンゴ加入度	I	I	I	I	I	I	I
車状ミドリイシの最大径(cm)	63, 48, 44, 33	-	-	291	-	328	-
オニヒトデの観察個体数	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
サンゴ食巻貝類による食害の状況	I (なし)	I (なし)	I (なし)	I	I (なし)	I	I (なし)
その他食害の状況	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
病気の状況	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
白化段階	0	0	0	0	0	0	0
被度	5%	3%	5%	5%	3%	4%	2%
出現種数	54	60	49	60	58	58	35
藻場被度	<5%	<5%	<5%	<5%	<5%	<5%	<5%
主な藻場構成種	シトリア属 クレハ*モ	クレハ*モ	クレハ*モ	シトリア属 マカサ	クレハ*モ	マカサ シトリア属	シトリア属 クレハ*モ ヒラキ*モ
食害の状況	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
付着藻類被度	20%	20%	20%	<5%	<5%	<5%	<5%
被度	<5%	<5%	0%	0%	<5%	<5%	<5%
主な出現種	クマ*ミ科	クマ*ミ科	-	-	カサ*ミ科	カサ*ミ科	クマ*ミ科
備考	特外周辺にテブ*状大型ヤコ*あり。	特になし	特になし	特になし	特外周辺にテブ*状大型ヤコ*あり。	特になし	特になし

注) 1.水深は、標準水深。
 2.底質：巨藻、砂、石（等身大以上）、巨藻（等身大～10cm）、小藻（10cm～20cm）、小藻（20cm～30cm）、砂、砂、砂、泥
 3.浮泥堆積状況：「I」：海底面をほとんど覆っていない、II：はたらくと覆る、III：浮泥がまばらに堆積している、IV：浮泥が一様に厚く堆積している」
 4.被度：<5%、5%、それ以上を5%ビッチで示す、III：浮泥がまばらに堆積している、IV：浮泥が一様に厚く堆積している」
 5.主な出現種は被度の上位3種を示す。
 6.成育型：I（枝状シトリア属）、II（枝状、テブ*状シトリア属）、III（多岐脚状）、IV（多岐脚状）、V（多岐脚状）、VI（ワコー*状）
 7.サンゴ加入度（個体数/100）：I（なし）、II（5個体）、III（5個体）
 8.サンゴ食巻貝類による食害の状況：I（食害目立たない）、II（食害目立たない）、III（大きく食害のある個体が見られる）、IV（大きく食害のある個体が目立つ）、V（大きく食害のある個体が目立つ）、VI（大きく食害のある個体が目立つ）
 9.白化の段階：0：<5%、1：5～10%、2：10～50%、3：50～90%、4：>90%

表-6.12.19 (1) サンゴ類・海藻草類定点調査結果概要 (秋季)

調査地点	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7
調査日	令和3年10月6日	令和3年10月11日	令和3年10月4日	令和3年10月27日	令和3年10月11日	令和3年10月27日	令和3年10月11日
水深	8.6m	7.0m	3.9m	3.8m	7.9m	4.8m	10.1m
底質概観	岩盤、巨藻	巨藻、砂	巨藻	岩盤	岩盤	岩盤	巨藻
浮泥堆積状況	I	I	I	I	I	I	I
生存被度	<5%	<5%	<5%	15%	<5%	25%	<5%
死亡被度	0%	<5%	<5%	<5%	0%	<5%	0%
出現種数	15	12	12	18	16	20	9
主な出現種 (被度5%以上)	-	-	-	シクリイ属(テプム状)	-	シクリイ属(テプム状)	20%
サンゴ類	V	V	V	II	V	II	V
サンゴ加入度	I	I	I	I	I	I	I
車床ミドリイシの最大径(cm)	78, 61, 54, 45, 14	-	-	289	-	333	-
オニヒトデの観察個体数	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
サンゴ食巻貝類による食害の状況	I (なし)	I (なし)	I (なし)	I	I (なし)	I (なし)	I (なし)
その他食害の状況	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
病気の状況	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
白化段階	0	0	0	0	0	0	0
被度	3%	20%	55%	45%	15%	35%	30%
出現種数	50	52	66	57	59	47	42
藻場被度	<5%	<5%	<5%	<5%	<5%	<5%	<5%
主な藻場構成種	クレハモク	クレハモク	クレハモク	シクリイ属	クレハモク	シクリイ属	シクリイ属
海草類	<5%	<5%	ハハクハ属	ハハクハ属	ハハクハ属	ハハクハ属	<5%
食害の状況	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
付着藻類被度	<5%	20%	<5%	<5%	20%	<5%	10%
被度	<5%	0%	0%	0%	<5%	<5%	<5%
主な出現種	ワシツギミ科	-	-	-	カタトコ属	シクリイ属	ワシツギミ科
備考	特外周辺にテプム状大型ヤゴあり。	特になし	特になし	特になし	特外周辺にテプム状大型ヤゴあり。 ワシツギミ類に部分死を確認。	特になし	特になし

注) 1. 水深は、標準水深。
 2. 底質：巨藻、砂、石（等身大～10cm）、小磯（等身大～10cm）、大磯（等身大～10cm）、小磯（等身大～10cm）、大磯（等身大～10cm）、砂、砂、砂、泥
 3. 浮泥堆積状況：「I」：海底面をほとんど覆っていない、II：はたらくと覆る、III：浮泥がまばらに堆積している、IV：浮泥が一様に（厚く）堆積している」
 4. 被度：<5%、5%、それ以上を5%のステップで示す。
 5. 主な出現種は被度の上位3種を示す。
 6. 成育型：I（株状シクリイ属）、II（多層型）、III（多層型）、IV（多層型）、V（多層型）、VI（ワシツギミ属）
 7. サンゴ加入度（個体数/㎡）：I（なし）、II（5個体）、III（5個体）
 8. サンゴ食巻貝類による食害の状況：I（食害目立たない）、II（食害目立たない）、III（大きく食害のある個体がある）、IV（大きく食害のある個体がある）、V（多層型）、VI（ワシツギミ属）
 9. 白化の段階：1：0～10%、2：10～50%、3：50～90%、4：90%

表-6.12.20 (1) サンゴ類・海藻草類定点調査結果概要 (冬季)

調査地点	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7
調査日	令和3年12月3日	令和3年12月3日	令和3年12月3日	令和3年12月7日	令和3年12月2日	令和3年12月7日	令和3年12月2日
水深	8.6m	7.0m	3.9m	3.8m	7.9m	4.8m	10.1m
底質概観	岩盤、巨藻	巨藻、砂	巨藻	岩盤	岩盤	岩盤	巨藻
浮泥堆積状況	I	I	I	I	I	I	I
生存被度	<5%	<5%	<5%	15%	<5%	25%	<5%
死亡被度	<5%	<5%	<5%	<5%	<5%	<5%	0%
出現種数	14	13	12	19	16	20	9
主な出現種 (被度5%以上)	-	-	-	シノリイ属(フープ)状	-	シノリイ属(フープ)状	-
サンゴ類							
成育型	V	V	V	II	V	II	V
サンゴ加入度	II	II	I	I	I	I	I
草状ミドリインの最大径(cm)	78, 61, 54, 45, 14	-	-	289	-	333	-
オニヒトデの観察個体数	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
サンゴ食巻貝類による食害の状況	I (なし)	I (なし)	I (なし)	I	I (なし)	I	I (なし)
その他食害の状況	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
病気の状況	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
白化段階	0	0	0	0	0	0	0
被度	40%	15%	60%	55%	20%	40%	20%
出現種数	52	52	57	54	55	50	36
藻場被度	<5%	<5%	<5%	<5%	<5%	<5%	<5%
主な藻場構成種	ホバ*モ属 ホバ*モ属	ホバ*モ属 ホバ*モ属	ホバ*モ属 ホバ*モ属	ホバ*モ属 ホバ*モ属	ホバ*モ属 ホバ*モ属	ホバ*モ属 ホバ*モ属	ホバ*モ属 ホバ*モ属
食害の状況	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
付着藻類被度	<5%	20%	<5%	<5%	20%	<5%	10%
被度	<5%	<5%	<5%	0%	<5%	<5%	<5%
主な出現種	ウツギ*ミ科	ウツギ*ミ科	ウツギ*ミ科	-	ウツギ*ミ科	ウツギ*ミ科	ウツギ*ミ科
備考	例外周辺にフープ*状大型サンゴあり。	キリイ属、カリコキリイ属の部分死を数群体確認。	特になし	特になし	例外周辺にフープ*状大型サンゴあり。	特になし	特になし

注) 1. 水深は、潮高表示。
 2. 底質：岩盤、巨藻 (等身大以上)、巨藻 (等身大以下)、大藻 (人頭大以下)、小藻 (こぶし大以下)、小藻 (こぶし大以下)、砂、砂泥、泥。
 3. 浮泥堆積状況：I：海底面をほとんど覆わない、II：はたらくと覆う、III：浮泥がまばらに堆積している、IV：浮泥が一面に(厚く)堆積している。
 4. 被度：<5%、5%、それ以上を80ピッチで示す。
 5. 主な出現種は被度の上位3種を示す。
 6. 成育型：I (枝状ミドリイソ)、II (フープ*状ミドリイソ)、III (枝状、フープ*状ミドリイソ)、IV (特定期間)、V (多岐形)、VI (ワタシイソ)。
 7. サンゴ加入度 (個体数 / m²)：I (なし)、II (5個体)、III (25個体)。
 8. ウツギ*ミ科による食害の状況：I (食害目立たない)、II (食害のある群体が散見)、III (大きく食害のある群体が散見)、IV (食害のある群体が目立ち、貝殻が散見される)。
 9. 白化の段階：0：0%、1：10%、2：10~50%、3：50~90%、4：90%。

表-6.12.20 (2) サンゴ類・海藻草類定点調査結果概要 (冬季)

調査地点	C8	C9	C10	C11	C12	C13	C14
調査日	令和3年12月11日	令和3年12月11日	令和3年12月11日	令和3年12月5日	令和3年12月5日	令和3年12月5日	令和3年12月5日
水深	4.3m	3.6m	3.9m	5.3m	10.8m	9.3m	7.7m
底質概観	岩盤、大礫	岩盤	岩盤	岩盤	岩盤	岩盤	岩盤
浮泥堆積状況	I	I	I	I	I	I	I
生存被度	<5%	10%	<5%	30%	20%	15%	20%
死亡被度	<5%	<5%	0%	<5%	<5%	0%	<5%
出現種数	15	18	13	21	28	22	20
主な出現種 (被度5%以上)	-	シノリイ属(テブ*様)	-	シノリイ属(テブ*様) 25%	シノリイ属(被覆状) 10%	モモコ属(被覆状) 5%	シノリイ属(テブ*様) 10%
				コモンゴ*属(被覆状) 5%			シノリイ属(被覆状) 5%
サンゴ類							
成育型	V	II	V	II	V	V	II
サンゴ加入度	I	I	I	II	II	II	II
草状ミドリイソの最大径(cm)	-	239, 54, 41, 34, 27	-	257, 240, 105, 100, 80	100, 16	119, 117, 80, 76, 60	138, 114, 93, 85, 84
オニヒトデの観察個体数	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
サンゴ巻貝類による食害の状況	I (なし)	I	I (なし)	I (なし)	I (なし)	I (なし)	I (なし)
その他食害の状況	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
病気の状況	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
白化段階	0	0	0	0	0	0	0
被度	55%	30%	35%	50%	45%	60%	40%
出現種数	44	52	48	61	49	47	51
藻類被度	<5%	<5%	<5%	<5%	<5%	<5%	<5%
主な藻類構成種	ホシガ*ワ属 キハ*モ ホ*ワ属	ホシガ*ワ属 キハ*モ ホ*ワ属	ホシガ*ワ属 キハ*モ ホ*ワ属	ホシガ*ワ属 キハ*モ ホ*ワ属	ホシガ*ワ属 キハ*モ ホ*ワ属	ホシガ*ワ属 キハ*モ ホ*ワ属	ホシガ*ワ属 キハ*モ ホ*ワ属
食害の状況	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
付着藻類被度	<5%	10%	20%	0%	<5%	20%	<5%
被度	<5%	<5%	<5%	<5%	<5%	0%	0%
主な出現種	ウツギ*ミ科	ウツギ*ミ科	ウツギ*ミ科	ウツギ*ミ科	ウツギ*ミ科	-	-
				ウツギ*ミ科			
				ウツギ*ミ科			
				ウツギ*ミ科			
備考	特になし	特になし	特になし	特になし	特外周辺にテブ*様大型サゴ*あり。	特外周辺にテブ*様大型サゴ*あり。	特になし

注) 1. 水深は、潮高表示。
 2. 底質：岩盤、大礫 (等身大以上)、巨礫 (等身大以上)、巨礫 (等身大以下)、大礫 (等身大以下)、小礫 (等身大以下)、砂礫、砂、砂泥、泥
 3. 浮泥堆積状況：I：海底面をほとんど覆らない、II：はたらくと覆る、III：浮泥がまばらに堆積している、IV：浮泥が一面に(厚く)堆積している。
 4. 被度：<5%、5%、それ以上を80ピッチで示す。
 5. 主な出現種は被度の上位3種を示す。
 6. 成育型：I (枝状シノリイ/被占)、II (テブ*様シノリイ/被占)、III (枝状、テブ*様シノリイ/被占)、IV (特異型被占)、V (多様型被占)、VI (ワ*ワ*被占)
 7. サゴ加入度 (個体数 / m²)：I (なし)、II (5個体)、III (5個体)
 8. ウツギ*ミ科による食害の状況：I (食痕目立たない)、II (食痕のある個体がある)、III (食痕のある個体がある)、IV (食痕のある個体がある)
 9. 白化の段階：0：0%、1：10%、2：10~50%、3：50~90%、4：90%

表-6.12.21 (1) サンゴ類・海藻草類分布調査結果 (スポット法：春季)

調査地点	St.1	St.2	St.3	St.4	St.5	St.6	St.7	
調査日	令和3年5月9日	令和3年5月9日	令和3年5月9日	令和3年5月14日	令和3年5月9日	令和3年5月9日	令和3年5月9日	
底質概観	大礫、岩盤	巨礫、岩盤	岩盤、砂礫	岩盤、巨礫	巨礫、転石	砂、巨礫	岩盤、小礫	
浮泥堆積状況	I	I	I	I	I	I	I	
被度	<5%	<5%	<5%	10%	<5%	<5%	<5%	
主な出現種	シドリイ属(テブム状) <5% サカレヤコ属 <5% カノキヤコ属 <5%	サナシヤコ属 <5% サカレヤコ属 <5% カノキヤコ属 <5%	サナシヤコ属 <5% サカレヤコ属 <5% カノキヤコ属 <5%	シドリイ属(テブム状) 10% サカレヤコ属(被覆状) <5% カノキヤコ属 <5%	シドリイ属(テブム状) <5% サカレヤコ属 <5% カノキヤコ属 <5%	カノキヤコ属 <5% サカレヤコ属 <5% カノキヤコ属 <5%	カノキヤコ属 <5% サカレヤコ属 <5% カノキヤコ属 <5%	<5%
成長型	V	V	V	II	V	V	V	
白化段階	0	0	0	0	0	0	0	
加入度	I	I	I	I	I	I	I	
シドリイ属(テブム状)のサナシヤコ属(5群体以上)	50, 40, 34	40	22, 18	100, 80, 40, 40, 20	27	-	21	
被度	15%	50%	40%	40%	50%	20%	45%	
主な出現種	アジガサ属 5% サコモ目(無節サコモ類) 5% フタコサ 5%	フタコサ 20% アジガサ属 20% フタコサ <5%	フタコサ 25% フタコサ 5% アジガサ属 <5%	サコモ目(無節サコモ類) 10% アジガサ属 10% アジガサ属 5%	フタコサ 20% フタコサ 15% アジガサ属 <5%	アジガサ属 15% サコモ目(無節サコモ類) <5%	アジガサ属 15% サコモ目(無節サコモ類) <5%	
被度	0%	<5%	<5%	0%	0%	0%	<5%	
主な出現種	-	ヒダガリ属 <5%	ヒダガリ属 <5%	-	-	-	ヒダガリ属 <5%	
被度	0%	0%	0%	0%	0%	0%	<5%	
主な出現種	-	-	-	-	サトハチ属 <5%	-	サトハチ属 <5%	
サトハチの観察個体数	0	0	0	0	0	0	0	
サトハチの食害	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	
特記事項	特になし	特になし	特になし	周囲に1mを超えるテブム状サコモあり。	特になし	特になし	特になし	

注) 1. 水深は、標準表示。
 2. 浮泥堆積状況: I: 海底面をほとんど濡らない、II: はたと濡る、III: 浮泥がまばらに堆積している、IV: 浮泥が一律に(厚く)堆積している
 3. 底質: 岩盤、転石(等身大以上)、巨礫(等身大~入頭大)、大礫(入頭大~こぶし大)、小礫(こぶし大~米粒大)、砂礫、砂、砂泥、泥
 4. 被度: <5%、それ以上を5%ポイントで示す。
 5. サコモ類成長型: I(枝球シドリイ属占)、II(枝球、テブム状シドリイ属占)、III(枝球、サコモ目シドリイ属占)、IV(特定類属占)、V(多量混成)、VI(ワケロウ属占)
 6. 白化の段階: I(0%~10%、2: 10%~50%、3: 50%~90%、4: >90%)
 7. サコモ加入度(群体数/m²): I(なし)、II(5群体)、III(≥5群体)
 8. サコモ食害目によるサコモ類の食害: I(食害目立たない)、II(食害のある群体がある)、III(大きく食害のある群体がある)、IV(死体のみ見られる)、V(死体が見られる)
 9. St.1~33では目視観察、R1~11ではROV方式で調査を実施した。

表-6.12.21 (2) サンゴ類・海藻草類分布調査結果 (スポット法：春季)

調査地点	St. 8	St. 9	St. 10	St. 11	St. 12	St. 13	St. 14	
調査日	令和3年5月9日	令和3年5月9日	令和3年5月13日	令和3年5月9日	令和3年5月13日	令和3年5月14日	令和3年5月14日	
底質概観	砂、巨礫	巨礫、砂	巨礫、砂	岩盤、小礫	岩盤、砂礫	岩盤	岩盤、砂	
浮泥堆積状況	I	I	I	I	I	I	II	
被度	<5%	<5%	<5%	<5%	<5%	5%	<5%	
主な出現種	ハヤシゴ 属 <5% ツバキ 属 <5% カノコキリ 属 <5% カノコキリ 属 <5%	ツバキ 属 <5% カノコキリ 属 <5% ツバキ 属 <5% カノコキリ 属 <5%	ツバキ 属 <5% カノコキリ 属 <5% ツバキ 属 <5% カノコキリ 属 <5%	ツバキ 属 <5% カノコキリ 属 <5% ツバキ 属 <5% カノコキリ 属 <5%	ツバキ 属 <5% カノコキリ 属 <5% ツバキ 属 <5% カノコキリ 属 <5%	ツバキ 属 <5% カノコキリ 属 <5% ツバキ 属 <5% カノコキリ 属 <5%	ツバキ 属 <5% カノコキリ 属 <5% ツバキ 属 <5% カノコキリ 属 <5%	ツバキ 属 <5% カノコキリ 属 <5% ツバキ 属 <5% カノコキリ 属 <5%
成育型	V	V	V	V	V	II	V	
白化段階	0	0	0	0	0	0	0	
加入度	I	I	I	I	I	II	I	
シトリア属(テブクノ目)の割合(上位5群体)(%)	-	-	27	110	73, 56, 41, 29	120, 50, 30, 22, 11	-	
被度	15%	50%	30%	30%	40%	30%	50%	
主な出現種	ツバキ 属 5% ツバキ 属 <5% ツバキ 属 <5%	ツバキ 属 35% ツバキ 属 5% ツバキ 属 <5%	ツバキ 属 10% ツバキ 属 <5% ツバキ 属 <5%	ツバキ 属 (無節ツバキ) 15% ツバキ 属 <5% ツバキ 属 <5%	ツバキ 属 (無節ツバキ) 15% ツバキ 属 <5% ツバキ 属 <5%	ツバキ 属 (無節ツバキ) 15% ツバキ 属 <5% ツバキ 属 <5%	ツバキ 属 (無節ツバキ) 15% ツバキ 属 <5% ツバキ 属 <5%	
被度	<5%	<5%	5%	<5%	<5%	<5%	<5%	
主な出現種	ツバキ 属 <5%	ツバキ 属 <5%	ツバキ 属 <5%	ツバキ 属 <5%	ツバキ 属 <5%	ツバキ 属 <5%	ツバキ 属 <5%	
被度	<5%	<5%	0%	<5%	0%	<5%	0%	
主な出現種	ツバキ 属 <5%	ツバキ 属 <5%	ツバキ 属 <5%	ツバキ 属 <5%	ツバキ 属 <5%	ツバキ 属 <5%	ツバキ 属 <5%	
本エビの観察個体数	0	0	0	0	0	0	0	
ツバキ食虫目類によるツバキ類の食害	I (なし)	I (なし)	I (なし)	I (なし)	I (なし)	I (なし)	I (なし)	
特記事項	特になし	特になし	岩盤上は局所的にツバキ類繁茂。気泡を持ったツバキ類を確認。	ツバキ類を1個体確認。	特になし	周囲に目を越えるツバキ類あり。	局所的にツバキ類が繁茂する巨礫あり。	

注) 1. 水深は、標準表示。
 2. 浮泥堆積状況：I：海底面をほとんど濡らない、II：はたと濡る、III：浮泥がまばらに堆積している、IV：浮泥が一律に(厚く)堆積している
 3. 底質：巨礫、砂、小礫(等身大～入頭大)、大礫(入頭大～こぶし大)、小礫(こぶし大～米粒大)、砂礫、砂、砂泥、泥
 4. 被度：<5%、それ以上を5%ピッチで示す。
 5. ツバキ類成育型：I(枝状)、II(テブクノ目)、III(枝状、テブクノ目)、IV(特定類)、V(多種混成)、VI(ワケモノ)属占
 6. 白化の段階：I(0%～10%)、II(10%～50%)、III(50%～90%)、IV(90%～100%)
 7. ツバキ加入度(群体数/m²)：I(なし)、II(≤5群体)、III(≥5群体)
 8. ツバキ食虫目類によるツバキ類の食害：I(食害目立たない)、II(食害のある群体がある)、III(大きく食害のある群体がある)、IV(死滅群体が目立ち、IV(死滅群体が目立ち、貝集団が見られる))
 9. St.1～33では目視観察、R1～11ではROV方式で調査を実施した。

表-6.12.21 (4) サンゴ類・海藻草類分布調査結果 (スポット法：春季)

調査地点	St.22	St.23	St.24	St.25	St.26	St.27	St.28
調査日	令和3年5月13日	令和3年5月10日	令和3年5月10日	令和3年5月10日	令和3年5月15日	令和3年5月15日	令和3年5月10日
底質概観	岩盤	岩盤	岩盤	岩盤	岩盤	岩盤	岩盤
浮泥堆積状況	I	I	I	I	I	I	I
被度	30%	15%	10%	45%	10%	45%	45%
主な出現種	シトリア属(テアム状) 10%	シトリア属(テアム状) 5%	シトリア属(テアム状) <5%	シトリア属(テアム状) 40%	シトリア属(テアム状) <5%	シトリア属(テアム状) 40%	シトリア属(テアム状) 30%
サンゴ類	シトリア属(被覆状) 10%	シトリア属(被覆状) 5%	シトリア属(被覆状) <5%	シトリア属(被覆状) <5%	シトリア属(被覆状) <5%	シトリア属(被覆状) <5%	シトリア属(被覆状) 10%
海藻草類	シトリア属(樹枝状) 5%	シトリア属(樹枝状) <5%	シトリア属(樹枝状) <5%	シトリア属(樹枝状) <5%	シトリア属(樹枝状) <5%	シトリア属(樹枝状) <5%	シトリア属(樹枝状) <5%
成育型	II	V	V	II	V	II	V
白化段階	0	0	0	I	0	I	0
加入度	II	I	I	II	II	III	II
シトリア属(テアム状)の 割合(上位5群体)(%)	110, 90, 70	110	-	240, 200, 180, 100, 100	100, 30, 28, 23	320, 200, 120, 100, 80	240, 180, 180, 120, 100
被度	40%	30%	50%	35%	50%	30%	20%
海藻草類	シトリア属(被覆状) 20%	シトリア属(被覆状) 10%	シトリア属(被覆状) 15%	シトリア属(被覆状) 20%	シトリア属(被覆状) 15%	シトリア属(被覆状) 15%	シトリア属(被覆状) 5%
主な出現種	シトリア属(被覆状) 10%	シトリア属(被覆状) 5%	シトリア属(被覆状) 10%	シトリア属(被覆状) 10%	シトリア属(被覆状) 10%	シトリア属(被覆状) 10%	シトリア属(被覆状) 5%
被度	<5%	<5%	<5%	<5%	<5%	<5%	<5%
藻類	シトリア属(被覆状) <5%	シトリア属(被覆状) <5%	シトリア属(被覆状) <5%	シトリア属(被覆状) <5%	シトリア属(被覆状) <5%	シトリア属(被覆状) <5%	シトリア属(被覆状) <5%
被度	<5%	<5%	<5%	<5%	<5%	<5%	<5%
主な出現種	シトリア属(被覆状) <5%	シトリア属(被覆状) <5%	シトリア属(被覆状) <5%	シトリア属(被覆状) <5%	シトリア属(被覆状) <5%	シトリア属(被覆状) <5%	シトリア属(被覆状) <5%
観察個体数	0	0	0	0	0	0	0
サンゴ類による サンゴ類の食害	I (なし)	I (なし)	I (なし)	I (なし)	I (なし)	I (なし)	I (なし)
特記事項	特になし	特になし	特になし	特になし	特になし	特になし	特になし

注) 1. 水深は、標準表示。
 2. 浮泥堆積状況：「I」：海底面をほとんど濡らない、II：はたと濡る、III：浮泥がまばらに堆積している、IV：浮泥が一律に(厚く)堆積している」
 3. 底質：岩盤、転石(等身大以上)、巨礫(等身大～入頭大)、大礫(入頭大～こぶし大)、小礫(こぶし大～米粒大)、砂礫、砂、砂泥、泥
 4. 被度：<5%、それ以上を5%ピッチで示す。
 5. サンゴ類成育型：I(枝状)、II(テアム状)、III(被覆状)、IV(特定種被覆状)、V(多種混成)、VI(ワケモノ被覆状)
 6. 白化の段階：I(0%～10%)、II(10%～50%)、III(50%～90%)、IV(90%～100%)
 7. サンゴ加入度(群体数/㎡)：I(なし)、II(5群体)、III(≧5群体)
 8. サンゴ食害目録によるサンゴ類の食害：I(食害目立たない)、II(食害のある群体が散見)、III(大きく食害のある群体が目立つ)、IV(死滅群体が目立ち、貝集団が散見される)
 9. St.1～33では目視観察、R1～R11ではROV方式で調査を実施した。

表-6.12.21 (5) サンゴ類・海藻草類分布調査結果 (スポット法：春季)

調査地点	St.29	St.30	St.31	St.32	St.33
調査日	令和3年5月10日	令和3年5月10日	令和3年5月10日	令和3年5月10日	令和3年5月15日
底質概観	岩盤、小礫	岩盤、大礫	岩盤、砂	岩盤、砂	岩盤
浮泥堆積状況	I	I	I	I	I
被度	10%	5%	45%	5%	20%
主な出現種	シノリウ属(テブム状) 5% キヤク属 <5% トゲキリウ属 <5%	シノリウ属(テブム状) <5% キヤク属 <5% トゲキリウ属 <5%	シノリウ属(テブム状) 40% キヤク属 <5% トゲキリウ属 <5%	シノリウ属(テブム状) <5% キヤク属 <5% トゲキリウ属 <5%	シノリウ属(テブム状) 10% キヤク属 <5% トゲキリウ属 <5%
成育型	II	V	II	II	II
白化段階	0	0	0	0	0
加入度	I	II	II	II	II
シノリウ属(テブム状)のサイズ上位5群体の被度	60, 53, 47, 37	42, 23	500, 400, 100, 90, 40	110, 41	70, 44, 43, 20, 13
被度	30%	35%	20%	60%	30%
主な出現種	フクロヤシ 15% キヤクモ目(無節キヤクモ類) 5% アシナガキ属 <5%	フクロヤシ 10% キヤクモ目(無節キヤクモ類) 10% アシナガキ属 <5%	微小紅藻類 10% キヤクモ目(無節キヤクモ類) 5% アシナガキ属 <5%	微小紅藻類 20% 藍藻類 15% キヤクモ目(無節キヤクモ類) 10%	微小紅藻類 15% キヤクモ目(無節キヤクモ類) 5% アシナガキ属 <5%
被度	<5%	0%	0%	0%	0%
主な出現種	ホトケリウ属 <5%	-	-	-	-
被度	<5%	0%	0%	0%	0%
主な出現種	ウツリウ属 <5%	-	-	-	-
被度	<5%	0%	0%	0%	0%
主な出現種	イ(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)
特記事項	特になし	特になし	特になし	特になし	食事の可能性のある最近死亡した2群体を確認。

注) 1. 水深は、標高表示。
 2. 浮泥堆積状況：I：海底面をほとんど濡らさない、II：はたくと濡る、III：浮泥がまばらに堆積している、IV：浮泥が一般に(厚く)堆積している
 3. 底質：岩盤、軽石(等身大以上)、巨礫(等身大～人頭大)、大礫(人頭大～こぶし大)、小礫(こぶし大～米粒大)、砂礫、砂、砂泥、泥
 4. 被度：5%、それ以上を5%ピッチで示す。
 5. キヤク類成育型：I(枝状シノリウ属占)、II(テブム状シノリウ属占)、III(枝状、テブム状シノリウ属占)、IV(特定類属占)、V(多種混成)、VI(ワトロウ属占)
 6. 白化の段階：I(0～<1%、2：10～50%、3：50～90%、4：>90%)
 7. キヤク加入度(群数/㎡)：I(なし)、II(<5群体)、III(≧5群体)
 8. キヤク食巻目類によるキヤク類の食害：I(食巻目立たない)、II(食巻のある群体が散見)、III(大きく食巻のある群体が目立つ)、IV(大きく食巻のある群体が目立つが100個体以上の群体はみられない)、V(散見群体が目立ち、具集団が散見される)
 9. St.1～33では目視観察、RI～IIではRUV方式で調査を実施した。

表-6.12.22 (1) サング類・海藻草類分布調査結果 (ROV 方式：春季)

調査地点	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
調査日	令和3年5月4日	令和3年5月4日	令和3年5月3日	令和3年5月3日	令和3年5月3日	令和3年5月3日	令和3年5月19日
水深	17.5m	28.6m	29.1m	23.1m	29.6m	27.5m	23.1m
底質概観	大礫・砂	砂礫・大礫	砂礫・巨礫	砂礫・巨礫	砂礫・巨礫	砂	砂・大礫
浮泥堆積状況							
被度	5~25%	<5%	<5%	<5%	<5%	0%	<5%
主な出現種	カノコキカイ属 5~25% キカイ属 <5% ノコキカイ属 <5%	バカササコ属 <5% カノコキカイ属 <5% シハササコ属 <5%	バカササコ属 <5% カノコキカイ属 <5% シハササコ属 <5%	バカササコ属 <5% カノコキカイ属 <5% シハササコ属 <5%	バカササコ属 <5% カノコキカイ属 <5% シハササコ属 <5%	特になし	カノコキカイ属 <5%
成育型	V	V	V	V	V	-	V
白化段階	0	0	0	0	0	0	0
加入度	I	I	I	I	I	I	I
シドリ属(オウノ目)の ヤス'上位5群体(cm)	10, 15, 15, 20, 30(推定値)	なし	なし	15(推定値)	なし	なし	なし
被度	50~75%	25~50%	25~50%	25~50%	5~25%	0%	5~25%
主な出現種	フタササコ属 5~25% ヒカササコ属 5~25% 藍藻綱 5~25%	藍藻綱 5~25% フタササコ属 5~25% 微小紅藻綱 5~25%	藍藻綱 5~25% フタササコ属 5~25% ワササコ属 <5%	藍藻綱 5~25% フタササコ属 5~25% ワササコ属 5~25%	藍藻綱 5~25% フタササコ属 5~25% ワササコ属 <5%	特になし	ワササコ属 5~25% フタササコ属 <5% 藍藻綱 <5%
被度	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
主な出現種							
被度	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
主な出現種							
被度	0	0	0	0	0	0	0
主な出現種							
被度	I	I	I	I	I	-	I
主な出現種	塊状や被覆状のサング類が自立つ。海藻類は礁上に生育。	特になし	着生基盤が少ないためサング類は少ない。サング類が生育するのは、点在する巨礫にわずかに着生するのみ。	着生基盤が少ないためサング類は少ない。サング類が生育するのは、点在する巨礫にわずかに着生するのみ。	着生基盤が少ないためサング類は少ない。サング類が生育するのは、点在する巨礫にわずかに着生するのみ。	砂地が広がっており、サング、藻類ともにほとんど確認されない。	砂地に点在する大礫上にサングがわずかに生息する。

注) 1. 水深は、T.M.S.L.(東京湾平均海面) 表示。
 2. 浮泥堆積状況：「I」：海底面をのりも覆らない、II：はたくと覆る、III：浮泥がまばらに堆積している、IV：浮泥が一樣に(厚く)堆積している」
 3. 底質：岩盤、転石(等身大以上)、巨礫(等身大~こぶし大)、小礫(こぶし大~米粒大)、砂礫、砂、砂泥、泥
 4. 被度：0%、5%未満、5%以上25%未満、25%以上50%未満、50%以上75%未満、75%以上100%で表す。
 5. サング類成育型：I(後状に付着)、II(フタササコ状に付着)、III(後状、フタササコ状に付着)、IV(特定種優占)、V(多種混成)、VI(ワササコ優占)
 6. 白化の段階：1(0)、2(10~50%)、3(50~90%)、4(90%)
 7. サング加入度(群体数/㎡)：I(なし)、II(<5群体)、III(≧5群体)
 8. サング食巻員類によるサング類の食害：I(食害目立たない)、II(食害のある群体がある)、III(大きく食害のある群体が目立つ)、IV(食害のある群体が目立つが100個体以上の食害はみられない)、V(絶滅群体が目立ち、食害が散見される)。
 9. St. 1~33では目視観察、R1~11ではROV方式で調査を実施した。

表-6.12.22 (2) サングコ類・海藻草類分布調査結果 (ROV 方式：春季)

調査地点	R8	R9	R10	R11
調査日	令和3年5月3日	令和3年5月3日	令和3年5月3日	令和3年5月3日
水深	26.4m	26.5m	23.7m	26.2m
底質概観	砂	砂	砂礫・大礫	砂
浮泥堆積状況				
被度	0%	0%	<5%	0%
主な出現種	特になし	特になし	キナンド風 <5%	特になし
			オノノキマシ風 <5%	
			アハチサゴ風 <5%	
成育型	-	-	V	-
白化段階	0	0	0	0
加入度	I	I	I	I
シドリク属(テブ'状)の ヤシ上位5群体(cm)	なし	なし	なし	なし
被度	0%	0%	5~25%	0%
主な出現種	特になし	特になし	アサギ風 5~25%	特になし
			カササギ 5~25%	
			藍藻綱 5~25%	
被度	0%	0%	0%	0%
主な出現種	-	-	-	-
被度	0%	0%	0%	0%
主な出現種	-	-	-	-
サングコ類				
海藻草類				
藻場				
ソフ				
ルト				
コ				
類				
1				
ラ				
サングコ類の観察個体数	0	0	0	0
サングコ類の食害	I	I	I	I
特記事項	砂地が広がっており、サングコ、藻類ともにほとんど確認されない。	砂地が広がっており、サングコ、藻類ともにほとんど確認されない。アサギ科の魚類が砂地から多数額を出す。	特になし	砂地が広がっており、サングコ、藻類ともにほとんど確認されない。

注) 1. 水深は、T.M.S.I.(東京湾平均海面)表示。
 2. 浮泥堆積状況：「I」：海底面をのりでも覆らない。「II」：はたらくと濁る。「III」：浮泥がまばらに堆積している。「IV」：浮泥が一樣に(厚く)堆積している」
 3. 底質：岩盤、礫石(等身大以上)、巨礫(等身大~10cm以上)、大礫(10cm以上)、小礫(こぶし大~こぶし大)、小礫(こぶし大~米粒大)、砂礫、砂、砂泥、泥
 4. 被度：0%、5%未満、5%以上25%未満、25%以上50%未満、50%以上75%未満、75%以上100%で表す。
 5. サングコ類成育型：I(後状シドリク風占)、II(テブ'状シドリク風占)、III(後状、テブ'状シドリク風占)、IV(特定種優占)、V(多種混成)、VI(ワトコ'が優占)
 6. 白化の段階：1:0、<1%、1:1~10%、2:10~50%、3:50~90%、4:>90%
 7. サングコ加入度(群体数/㎡)：I(なし)、II(<5群体)、III(≧5群体)
 8. サングコ加入度(群体数/㎡)の食害：I(食害目立たない)、II(食害のある群体がある)、III(大きく食害のある群体がある)、IV(大きく食害のある群体が目立つ)、V(100個体以上の群体がある)、VI(観察されない)、VII(観察されない)
 9. St.1~33では目録観察、R1~11ではROV方式で調査を実施した。

表-6.12.23 (1) サンゴ類・海藻草類分布調査結果 (スポット法：夏季)

調査地点	St.1	St.2	St.3	St.4	St.5	St.6	St.7
調査日	令和3年8月20日	令和3年8月19日	令和3年8月19日	令和3年8月19日	令和3年8月19日	令和3年8月19日	令和3年8月19日
水深	13.9m	17.0m	15.9m	2.7m	12.6m	16.3m	4.6m
底質概観	大礫、岩盤	巨礫、岩盤	岩盤、砂礫	岩盤、巨礫	巨礫、砂礫	砂、巨礫	岩盤、小礫
浮泥堆積状況	I	I	I	I	I	I	I
被度	<5%	<5%	<5%	10%	<5%	<5%	<5%
主な出現種	シドリイシ属(テブ*状) カノコキイシ属 アサギイシ属	コモヤシ属(被覆状) アサギイシ属 カノコキイシ属	コモヤシ属 アサギイシ属 シドリイシ属(テブ*状)	シドリイシ属(テブ*状) コモヤシ属 アサギイシ属	ササギイシ属 アサギイシ属 カノコキイシ属	カノコキイシ属 アサギイシ属 シドリイシ属(テブ*状)	シドリイシ属 アサギイシ属 カノコキイシ属
成育型	V	V	V	II	V	V	V
白化段階	0	0	0	0	0	0	0
加入度	I	I	I	I	I	I	I
シドリイシ属(テブ*状)の ヤス上位5群体の(cm)	60.55	25	-	180, 80, 70	-	-	23
被度	20%	50%	30%	40%	40%	20%	30%
主な出現種	フカエボシ* サゴ*モ目(無節サゴ*モ類) アサギイシ属	フカエボシ* サゴ*モ目(無節サゴ*モ類) アサギイシ属	フカエボシ* サゴ*モ目(無節サゴ*モ類) アサギイシ属	フカエボシ* サゴ*モ目(無節サゴ*モ類) アサギイシ属	フカエボシ* サゴ*モ目(無節サゴ*モ類) アサギイシ属	フカエボシ* サゴ*モ目(無節サゴ*モ類) アサギイシ属	フカエボシ* サゴ*モ目(無節サゴ*モ類) アサギイシ属
被度	<5%	<5%	0%	0%	0%	<5%	<5%
主な出現種	ホシダリイシ属					ホシダリイシ属	ホシダリイシ属
被度	0%	0%	0%	0%	0%	0%	<5%
主な出現種							ホシダリイシ属
オニヒシの観察個体数	0	0	0	0	0	0	0
サゴ*食巻貝類による サゴ*類の食害	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)
特記事項	特になし	特になし	特になし	周囲に1mを超えるテブ*状サゴ*あり。	周囲に1mを超えるテブ*状サゴ*あり。	特になし	特になし

注) 1. 水深は、標高表示。
 2. 浮泥堆積状況：「I」：海底面をほとんど濡らさない、II：はたもと濡る、III：浮泥がまばらに堆積している、IV：浮泥が一様に堆積している」
 3. 底質：岩盤、板石(等身大以上)、巨礫(等身大～人頭大)、大礫(人頭大～こぶし大)、小礫(こぶし大～米粒大)、砂礫、砂、砂泥、泥
 4. 被度：5%、それ以上を5%ヒツツで示す。
 5. サゴ*類成育型：I(枝状シドリイシ属)、II(テブ*状シドリイシ属)、III(枝状、テブ*状シドリイシ属)、IV(特定類優占)、V(多様混成)、VI(ワケボリ優占)
 6. 白化の段階：I(0)、II(1～10%)、III(10～50%)、IV(50～90%)、V(90～100%)
 7. サゴ*加入度(群数/㎡)：I(なし)、II(<5群体)、III(≧5群体)
 8. サゴ*食巻貝類によるサゴ*類の食害：I(食痕目立たない)、II(食痕のある群体がある)、III(大きく食痕のある群体がある)、IV(大きく食痕のある群体がある)、V(大きく食痕のある群体がある)
 9. St.1～333では目視観察、R1～11ではROW方式で調査を実施した。

表-6.12.23 (2) サンゴ類・海藻草類分布調査結果 (スポット法：夏季)

調査地点	St. 8	St. 9	St. 10	St. 11	St. 12	St. 13	St. 14	
調査日	令和3年8月19日	令和3年8月19日	令和3年8月19日	令和3年8月19日	令和3年8月19日	令和3年8月19日	令和3年8月16日	
水深	16.4m	12.4m	13.6m	4.6m	8.5m	6.8m	4.5m	
底質概観	砂、巨礫	巨礫、砂	巨礫、砂	岩盤、小礫	岩盤、砂礫	岩盤	岩盤、砂	
浮泥堆積状況	II	I	I	I	I	I	II	
被度	<5%	<5%	<5%	<5%	<5%	5%	<5%	
主な出現種	スハナシヤコノ属 <5% ヤマトシヤコノ属 <5% カノコシヤコノ属 <5%	スハナシヤコノ属 <5% カノコシヤコノ属 <5% ヤマトシヤコノ属 <5%	スハナシヤコノ属 <5% カノコシヤコノ属 <5% ヤマトシヤコノ属 <5%	スハナシヤコノ属 <5% カノコシヤコノ属 <5% ヤマトシヤコノ属 <5%	スハナシヤコノ属 <5% カノコシヤコノ属 <5% ヤマトシヤコノ属 <5%	スハナシヤコノ属 <5% カノコシヤコノ属 <5% ヤマトシヤコノ属 <5%	スハナシヤコノ属 <5% カノコシヤコノ属 <5% ヤマトシヤコノ属 <5%	スハナシヤコノ属 <5% カノコシヤコノ属 <5% ヤマトシヤコノ属 <5%
成育型	V	V	V	V	V	II	V	
白化段階	0	0	0	0	0	0	0	
加入度	I	I	I	I	II	I	I	
スハナシヤコノ属(5'x5')のヤマトシヤコノ属上位5群体の(個)	-	-	22	53, 38	45, 22	130, 67, 66, 55, 40	-	
被度	15%	40%	30%	30%	40%	30%	50%	
主な出現種	フクロシヤコノ属 5% アジノシヤコノ属 <5% フクロシヤコノ属 <5%	フクロシヤコノ属 15% ヤマトシヤコノ属 10% フクロシヤコノ属 5%	フクロシヤコノ属 10% ヤマトシヤコノ属 <5% フクロシヤコノ属 <5%	フクロシヤコノ属 15% ヤマトシヤコノ属 <5% フクロシヤコノ属 <5%	フクロシヤコノ属 10% ヤマトシヤコノ属 <5% フクロシヤコノ属 <5%	フクロシヤコノ属 10% ヤマトシヤコノ属 <5% フクロシヤコノ属 <5%	フクロシヤコノ属 10% ヤマトシヤコノ属 <5% フクロシヤコノ属 <5%	フクロシヤコノ属 15% アジノシヤコノ属 10% フクロシヤコノ属 5%
被度	<5%	<5%	<5%	<5%	<5%	<5%	<5%	
主な出現種	ホトシヤコノ属 <5%	ホトシヤコノ属 <5%	ホトシヤコノ属 <5%	ホトシヤコノ属 <5%	ホトシヤコノ属 <5%	ホトシヤコノ属 <5%	ホトシヤコノ属 <5%	
被度	0%	0%	0%	<5%	<5%	<5%	0%	
主な出現種	-	-	-	フクロシヤコノ属 <5%	フクロシヤコノ属 <5%	フクロシヤコノ属 <5%	-	
オニシヤコノ属の観察個体数	0	0	0	0	0	0	0	
ヤマトシヤコノ属類によるヤマトシヤコノ属類の食害	I (なし)	I (なし)	I (なし)	I (なし)	I (なし)	I (なし)	I (なし)	
特記事項	特になし	特になし	特になし	ヤマトシヤコノ属が一部欠落。	特になし	特になし	特になし	

注) 1. 水深は、標高表示。
 2. 浮泥堆積状況：「I」：海底面をいとも覆わない、II：はたもとを覆う、III：浮泥がまばらに堆積している、IV：浮泥が一様に堆積している」
 3. 底質：岩盤、巨礫(等身大以上)、巨礫(等身大〜人頭大)、大礫(人頭大〜こぶし大)、小礫(こぶし大〜米粒大)、砂礫、砂、砂泥、泥
 4. 被度：5%、それ以上を5%ヒツツで示す。
 5. ヤマトシヤコノ属成育型：I(枝状スハナシヤコノ属)、II(ブドウ状スハナシヤコノ属)、III(枝状、ブドウ状スハナシヤコノ属)、IV(多量混成)、V(ブドウ状スハナシヤコノ属)
 6. 白化の段階：I(0)、II(1)、III(2)、IV(3)、V(4) : 10〜50%、3 : 50〜90%、4 : 90%
 7. ヤマトシヤコノ属加入度 (群数 / m²) : I (なし)、II (<5群体)、III (<5群体)
 8. ヤマトシヤコノ属類によるヤマトシヤコノ属類の食害：I(食害目立たない)、II(食害のある群体がある)、III(大きく食害のある群体がある)、IV(大きく食害のある群体がある)、V(大きく食害のある群体がある)
 9. St. 1〜333では目視観察、R1〜11ではROW方式で調査を実施した。

表-6.12.23 (3) サンゴ類・海藻草類分布調査結果 (スポット法：夏季)

調査地点	St. 15	St. 16	St. 17	St. 18	St. 19	St. 20	St. 21
調査日	令和3年8月16日	令和3年8月16日	令和3年8月16日	令和3年8月16日	令和3年8月16日	令和3年8月16日	令和3年8月16日
水深	15.3m	9.0m	1.7m	10.3m	4.4m	9.9m	15.9m
底質概観	砂、火礫	岩盤	岩盤	岩盤、砂礫	岩盤	岩盤	岩盤
浮泥堆積状況	I	I	I	I	I	I	I
被度	<5%	20%	40%	10%	40%	5%	20%
主な出現種	トゲキリシクシ属 (<5%) キナシキリシクシ属 (<5%) カノコキリシクシ属 (<5%)	シドリシクシ属 (テープノミ) 15% シドリシクシ属 (<5%) カノコキリシクシ属 (<5%)	シドリシクシ属 (テープノミ) 35% シドリシクシ属 (<5%) カノコキリシクシ属 (<5%)	シドリシクシ属 (テープノミ) 5% シドリシクシ属 (被覆状) <5% カノコキリシクシ属 (<5%)	シドリシクシ属 (枝状) 15% シドリシクシ属 (テープノミ) 15% シドリシクシ属 (被覆状) <5%	シドリシクシ属 (テープノミ) <5% シドリシクシ属 (被覆状) <5% シドリシクシ属 (<5%)	シドリシクシ属 (<5%) シドリシクシ属 (<5%) シドリシクシ属 (<5%)
成育型	V	II	II	V	III	II	V
白化段階	0	0	0	0	0	0	0
加入度	I	I	II	II	II	II	I
シドリシクシ属 (テープノミ) の ヤスミ上位5群体の (cm)	-	120, 80, 40, 34, 23	180, 150, 100, 80, 80	95	300, 120, 110, 50	70, 45, 40, 37, 30	-
被度	10%	30%	35%	20%	40%	30%	40%
主な出現種	フナギ 10% フナギ 10% ヤスミ 10%	フナギ 10% フナギ 10% シドリシクシ属 (無節ヤスミ) 5%	シドリシクシ属 (無節ヤスミ) 10% フナギ 5% フナギ 5%	フナギ 10% フナギ 5% フナギ 5%	シドリシクシ属 (無節ヤスミ) 20% フナギ 10% フナギ 10%	フナギ 10% フナギ 10% フナギ 10%	フナギ 20% フナギ 5% フナギ 5%
被度	0%	0%	0%	0%	<5%	0%	0%
主な出現種	-	-	-	-	フナギ	-	-
被度	0%	0%	0%	<5%	0%	0%	0%
主な出現種	-	-	-	フナギ	-	-	-
観察個体数	0	0	0	0	0	0	0
ヤスミ類による食害	I (なし)	I (なし)	I (なし)	I (なし)	I (なし)	I (なし)	I (なし)
特記事項	特になし	特になし	本ヒゲと思われる食痕あり。	特になし	本ヒゲと思われる食痕あり。	周所的に高被度なフナギ類の群集あり。	特になし

注) 1. 水深は、標高表示。
 2. 浮泥堆積状況：「I」：海底面をのりもつた状態、II：はたきと濁る、III：浮泥がまばらに堆積している、IV：浮泥が一様に(厚く)堆積している」
 3. 底質：岩盤、炬石(等身大以上)、巨礫(等身大〜人頭大)、大礫(人頭大〜こぶし大)、小礫(こぶし大〜米粒大)、砂礫、砂、砂泥、泥
 4. 被度：5%、それ以上を5%ヒツチで示す。
 5. ヤスミ類成育型：I(枝状シドリシクシ属)、II(テープノミシドリシクシ属)、III(枝状、テープノミシドリシクシ属)、IV(多量混成)、V(ワケノミシドリシクシ属)
 6. 白化の段階：0：<1%、1：1〜10%、2：10〜50%、3：50〜90%、4：>90%
 7. ヤスミ類加入度 (群数 / m²)：I (なし)、II (<5群体)、III (<5群体)
 8. ヤスミ類加入度によるヤスミ類の食害：I (食痕目立たない)、II (食痕のある群体がある)、III (大きく食痕のある群体がある)、IV (大きく食痕のある群体がある)、V (大きく食痕のある群体がある)、VI (ワケノミシドリシクシ属による食害)
 9. St. 1〜333では目視観察、R1〜11ではROW方式で調査を実施した。

表-6.12.23 (4) サンゴ類・海藻草類分布調査結果 (スポット法：夏季)

調査地点	St.22	St.23	St.24	St.25	St.26	St.27	St.28
調査日	令和3年8月16日	令和3年8月16日	令和3年8月20日	令和3年8月20日	令和3年8月20日	令和3年8月20日	令和3年8月20日
水深	7.2m	14.3m	17.4m	3.1m	11.3m	2.7m	3.8m
底質概観	岩盤	岩盤、砂	岩盤	岩盤	岩盤	岩盤	岩盤
浮泥堆積状況	I	I	I	I	I	I	I
被度	30%	15%	10%	45%	10%	45%	45%
主な出現種	シドリイシ属(テープル状) シドリイシ属(被覆状) シドリイシ属(樹枝状)	シドリイシ属(テープル状) ハコヤコギイシ属 ハコヤコギイシ属	シドリイシ属(被覆状) シドリイシ属(被覆状) シドリイシ属(被覆状)	シドリイシ属(テープル状) ハコヤコギイシ属 シドリイシ属(被覆状)	シドリイシ属(テープル状) シドリイシ属(被覆状) シドリイシ属(被覆状)	シドリイシ属(テープル状) シドリイシ属(被覆状) シドリイシ属(被覆状)	シドリイシ属(テープル状) シドリイシ属(被覆状) ハコヤコギイシ属
成育型	II	V	V	II	V	II	V
白化段階	0	0	0	I	0	I	0
加入度	II	I	I	II	I	II	II
シドリイシ属(テープル状)の ヤス上位5群体の(cm)	80, 70, 63, 54, 53	60, 34, 34, 26	73	240, 200, 180, 100, 100	100, 30, 25, 20	310, 130, 127, 120, 110	213, 195, 140, 122, 100
被度	40%	30%	40%	35%	60%	30%	20%
主な出現種	イワカサキ サゴモ目(無節サゴモ類) ハコヤコギイシ属	フクロサキ シドリイシ属(被覆状) シドリイシ属(被覆状)	フクロサキ シドリイシ属(被覆状) シドリイシ属(被覆状)	シドリイシ属(被覆状) シドリイシ属(被覆状) シドリイシ属(被覆状)	シドリイシ属(被覆状) シドリイシ属(被覆状) シドリイシ属(被覆状)	シドリイシ属(被覆状) シドリイシ属(被覆状) シドリイシ属(被覆状)	シドリイシ属(被覆状) シドリイシ属(被覆状) シドリイシ属(被覆状)
被度	0%	<5%	0%	0%	0%	<5%	<5%
主な出現種		シドリイシ属					
被度	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
主な出現種							
観察個体数	0	0	0	0	0	0	0
サゴモ類による サゴモ類の食害	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)
特記事項	特になし	特になし	特になし	食害と思われる群体を確認。 ハコヤコギイシ属の加入群体を複数確認。	特になし	特になし	特になし

注) 1. 水深は、標高表示。
 2. 浮泥堆積状況：I：海底面をほとんど覆わない、II：はたもとを覆う、III：浮泥がまばらに堆積している、IV：浮泥が一様に堆積している。
 3. 底質：岩盤、巨石(等身大以上)、巨礫(等身大～人頭大)、大礫(人頭大～こぶし大)、小礫(こぶし大～米粒大)、砂礫、砂、砂泥、泥
 4. 被度：<5%、それ以上を5%ヒツチで示す。
 5. サゴモ類成育型：I(枝状シドリイシ属)、II(テープル状シドリイシ属)、III(樹枝状シドリイシ属)、IV(特定類優占)、V(多量混成)、VI(ワケサゴモ優占)
 6. 白化の段階：I(0)、II(1)、III(2)、IV(3)、V(4)、VI(5) (0～100%)
 7. サゴモ加入度(群数/個)：I(1)、II(2)、III(3)、IV(4)、V(5) (1～5群)
 8. サゴモ食害目録によるサゴモ類の食害：I(食害目立たない)、II(食害のある群体が散見)、III(大きく食害のある群体が散見)、IV(大きく食害のある群体が目立ち、具集団が散見される)、V(食害目立たない)、VI(食害目立たない)
 9. St. 1～333では目録観察、R1～11ではROW方式で調査を実施した。

表-6.12.23 (5) サンゴ類・海藻草類分布調査結果 (スポット法: 夏季)

調査地点	St. 29	St. 30	St. 31	St. 32	St. 33
調査日	令和3年8月20日	令和3年8月20日	令和3年8月20日	令和3年8月20日	令和3年8月20日
水深	10.4m	14.3m	6.1m	9.1m	2.3m
底質概観	岩盤、小礫	岩盤、小礫	岩盤、砂	岩盤、砂	岩盤、小礫
浮泥・堆積状況	I	I	I	I	II
被度	10%	5%	45%	5%	20%
主な出現種	シトリカ属(テブ*様状) 5% カノコキリカ属 <5% アサカ*属 <5%	シトリカ属(テブ*様状) <5% コモカ*属 <5% アサカ*属 <5%	シトリカ属(テブ*様状) 40% コモカ*属(被覆状) <5% アサカ*属(被覆状) <5%	シトリカ属(テブ*様状) <5% コモカ*属(被覆状) <5% アサカ*属 <5%	シトリカ属(テブ*様状) 10% コモカ*属(被覆状) <5% カノコキリカ属 <5%
成育型	II	V	II	II	II
白化段階	0	0	0	0	0
加入度	II	I	II	I	II
シトリカ属(テブ*様状)の ポリス上位5群体の個体数	80, 70, 45, 40, 30	78, 67, 42, 41, 16	250, 200, 200, 90, 80	112, 44, 37, 35, 32	80, 80, 80, 60, 30
被度	30%	35%	20%	60%	30%
主な出現種	フタコ* 15% ハタコ*属 5% サコ*モ目(無節サコ*モ類) <5%	フタコ* 20% サコ*モ目(無節サコ*モ類) 5% アサカ*属 <5%	微小紅藻類 10% サコ*モ目(無節サコ*モ類) 5% アサカ*属 <5%	フタコ* 20% アサカ*属 20% サコ*モ目(無節サコ*モ類) 10%	微小紅藻類 15% サコ*モ目(無節サコ*モ類) 5% アサカ*属 <5%
被度	0%	0%	0%	0%	0%
主な出現種	-	-	-	-	-
被度	<5%	0%	<5%	0%	<5%
主な出現種	アサカ*属 <5%	-	アサカ*属 <5%	-	アサカ*属 <5%
ホトケの観察個体数	0	0	0	0	0
サコ*食巻貝類による サコ*類の食害	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)
特記事項	特になし	特になし	特になし	東側にテブ*様状群集有り。	周辺は小礫や砂。

注) 1. 水深は、標高表示。
 2. 浮泥・堆積状況: 「I」: 海面面をたいても湧らない、II: はなくと湧る、III: 浮泥がまばらに堆積している、IV: 浮泥が一面に(厚く)堆積している」
 3. 底質: 岩盤、転石(等身大以上)、巨礫(等身大〜10cm)、大礫(10cm以上)、小礫(5〜10cm)、砂、砂泥、泥
 4. 被度: <5%、それ以上を5%ヒツチで示す。
 5. サコ*類成育型: I(枝状シトリカ属)、II(テブ*様状シトリカ属)、III(被覆状、テブ*様状シトリカ属)、IV(特定種優占)、V(多様種混成)、VI(アサカ*属優占)
 6. 白化の段階: 0: <1%、1: 1〜10%、2: 10〜50%、3: 50〜90%、4: >90%
 7. サコ*加入度 (群数 / 個): I(なし)、II(<5群数)、III(5群数)
 8. サコ*食巻貝類によるサコ*類の食害: I(食痕目立たない)、II(食害のある群体が散見)、III(大きく食害のある群体が目立ち)、IV(大きく食害のある群体が目立ち100個体以上の貝類が散見)、V(散見される)
 9. St.1〜33ではR0V方式で調査を実施した。

表-6.12.25 (1) サンゴ類・海藻草類分布調査結果 (スポット法：秋季)

調査地点	St.1	St.2	St.3	St.4	St.5	St.6	St.7
調査日	令和3年10月2日	令和3年10月2日	令和3年10月2日	令和3年10月5日	令和3年10月2日	令和3年10月2日	令和3年10月6日
水深	13.9m	17.0m	15.9m	2.7m	12.6m	16.3m	4.6m
底質概観	大礫、岩盤	巨礫、岩盤	岩盤、砂礫	岩盤、巨礫	巨礫、砂	砂、巨礫	岩盤、小礫
浮泥堆積状況	I	I	I	I	I	I	I
被度	<5%	<5%	<5%	10%	<5%	<5%	<5%
主な出現種	シドリイ属(テブ*株) カノキイイ属 コモヤコ*属	ウヤコ*属 アヤコ*属 カノキイイ属	ウヤコ*属 アヤコ*属 カノキイイ属	シドリイ属(テブ*株) アヤコ*属 コモヤコ*属	カノキイイ属 アヤコ*属 シハ*種ヤコ*属	カノキイイ属 アヤコ*属 シハ*種ヤコ*属	シハ*種ヤコ*属 アヤコ*属 カノキイイ属
成育型	V	V	V	II	V	V	V
白化段階	0	0	0	0	0	0	0
加入度	I	I	I	I	I	I	I
シドリイ属(テブ*株)のヤス上位5群体(cm)	60.55	-	-	190.90, 80.25	-	-	23
被度	10%	40%	20%	30%	40%	30%	30%
主な出現種	フカエボク* ヤス*ガサ属 アジ*ガサ属	フカエボク* ヤス*ガサ属 アジ*ガサ属	フカエボク* ヤス*ガサ属 アジ*ガサ属	フカエボク* ヤス*ガサ属 アジ*ガサ属	フカエボク* ヤス*ガサ属 アジ*ガサ属	フカエボク* ヤス*ガサ属 アジ*ガサ属	ヤス*ガサ属 アジ*ガサ属 ヤス*ガサ属
被度	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
主な出現種							
被度	0%	0%	<5%	0%	0%	<5%	<5%
主な出現種			カサ*ミナト			カサ*ミナト	カサ*ミナト
オニトシの観察個体数	0	0	0	0	0	0	0
ヤコ*食巻貝類によるヤコ*類の食害	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)
特記事項	高波浪により一部のサンゴが埋没。	特になし	高波浪により一部のサンゴが埋没。	周囲に1mを超えるテブ*株ヤコ*あり。岩盤上に砂の堆積あり。	周囲に1mを超えるテブ*株ヤコ*あり。	特になし	特になし

注) 1. 水深は、標高表示。
 2. 浮泥堆積状況：「I」：海底面をたいても湧かない。II：はたきと湧る。III：浮泥がまばらに堆積している。IV：浮泥が一様に堆積している」
 3. 底質：岩盤、板石(等身大以上)、巨礫(等身大～人頭大)、大礫(人頭大～こぶし大)、小礫(こぶし大～米粒大)、砂礫、砂、砂泥、泥
 4. 被度：5%、それ以上を5%ヒツチで示す。
 5. ヤコ*類成育型：I(枝状シドリイ属)、II(枝状、テブ*株シドリイ属)、III(枝状、テブ*株シドリイ属)、IV(多量成育)、V(多量成育)、VI(ワケロコ*株)
 6. 白化の段階：I(0)、II(1)、III(2)、IV(3)、V(4)、VI(5) (0: 0%、1: 10%、2: 10~50%、3: 50~90%、4: >90%)
 7. ヤコ*加入度 (群体数 / m²)：I(なし)、II(<5群体)、III(≧5群体)
 8. ヤコ*食巻貝類によるヤコ*類の食害：I(食痕目立たない)、II(食痕のある群体が見られる)、III(大きく食痕のある群体が見られる)、IV(完全に食害が見られる)
 9. St.1~333ではROW方式で調査を実施した。

表-6.12.25 (2) サンゴ類・海藻草類分布調査結果 (スポット法：秋季)

調査地点	St. 8	St. 9	St. 10	St. 11	St. 12	St. 13	St. 14
調査日	令和3年10月2日	令和3年10月2日	令和3年10月2日	令和3年10月7日	令和3年10月2日	令和3年10月2日	令和3年10月7日
水深	16.4m	12.4m	13.6m	4.6m	8.5m	6.8m	4.5m
底質概観	砂、巨礫	巨礫、砂	巨礫、砂	岩盤、小礫	岩盤、砂礫	岩盤	岩盤、砂
浮泥堆積状況	II	I	I	I	I	I	II
被度	<5%	<5%	<5%	<5%	<5%	5%	<5%
主な出現種	スリパチヤコ属 <5% キヤミイ属 <5% カノキヤミイ属 <5%	スリパチヤコ属 <5% カノキヤミイ属 <5% キヤミイ属 <5%	トヤキヤミイ属 <5% カノキヤミイ属 <5% キヤミイ属 <5%	ミドリイ属(テブ)属 <5% カノキヤミイ属 <5% キヤミイ属 <5%	ミドリイ属(テブ)属 <5% カノキヤミイ属 <5% キヤミイ属 <5%	ミドリイ属(テブ)属 <5% カノキヤミイ属 <5% キヤミイ属 <5%	トヤキヤミイ属 <5% カノキヤミイ属 <5% キヤミイ属 <5%
成育型	V	V	V	V	V	II	V
白化段階	0	0	0	0	0	0	0
加入度	I	I	I	I	I	I	I
ミドリイ属(テブ)属のヤス上位5群体の(個)	-	-	-	100.50	50.25	130.80, 70.50, 40	-
被度	15%	30%	20%	30%	30%	30%	40%
主な出現種	フクロヤコ属 5% アジヤコ属 <5% ヤスヤコ属 <5%	フクロヤコ属 20% アジヤコ属 10% ヤスヤコ属 5%	フクロヤコ属 10% アジヤコ属 <5% ヤスヤコ属 <5%	ヤスヤコ属 10% アジヤコ属 5% フクロヤコ属 <5%	フクロヤコ属 10% ヤスヤコ属 5% アジヤコ属 <5%	フクロヤコ属 15% ヤスヤコ属 5% アジヤコ属 <5%	ヤスヤコ属 10% フクロヤコ属 <5% ヤスヤコ属 <5%
被度	0%	0%	<5%	0%	0%	0%	<5%
主な出現種	-	-	ホシガワ属 <5%	-	-	-	ホシガワ属 <5%
被度	0%	0%	0%	0%	<5%	<5%	0%
主な出現種	-	-	-	-	ウツリヤコ属 <5%	ウツリヤコ属 <5%	-
オニヒシの観察個体数	0	0	0	0	0	0	0
ヤコ属の食害	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)
特記事項	特になし	特になし	気泡を持ったホシガワ属を確認。	特になし	特になし	周囲に1mを超えるテブ属ヤコ属あり。	特になし

注) 1. 水深は、標高表示。
 2. 浮泥堆積状況：I：海底面をたいても濁らない、II：はたきと濁る、III：浮泥がまばらに堆積している、IV：浮泥が一様に(厚く)堆積している」
 3. 底質：岩盤、板石(等身大以上)、巨礫(等身大～人頭大)、大礫(人頭大～こぶし大)、小礫(こぶし大～米粒大)、砂礫、砂、砂泥、泥
 4. 被度：<5%、それ以上を5%ヒツツで示す。
 5. ヤコ属成育型：I(枝状ミドリイ属)、II(テブ)属(枝状ミドリイ属)、III(枝状、テブ)属(枝状ミドリイ属)、IV(多層混成)、V(多層混成)、VI(ワコ)属(ワコ)属
 6. 白化の段階：I(0)、II(1～10%)、III(10～50%)、IV(50～90%)、V(90～100%)
 7. ヤコ属加入度(個体数/㎡)：I(なし)、II(<5群体)、III(≧5群体)
 8. ヤコ属食害目録によるヤコ属の食害：I(食害目録にない)、II(食害のある群体がある)、III(大きく食害のある群体がある)、IV(大きく食害のある群体がある)、V(大きく食害のある群体がある)、VI(大きく食害のある群体がある)
 9. St. 1～333では目視観察、R1～11ではROW方式で調査を実施した。

表-6.12.25 (3) サンゴ類・海藻草類分布調査結果 (スポット法：秋季)

調査地点	St.15	St.16	St.17	St.18	St.19	St.20	St.21
調査日	令和3年10月2日	令和3年10月2日	令和3年10月7日	令和3年10月3日	令和3年10月7日	令和3年10月3日	令和3年10月3日
水深	15.3m	9.0m	1.7m	10.3m	4.4m	9.9m	15.9m
底質概観	砂、大礫	岩盤	岩盤	岩盤、大礫	岩盤	岩盤	岩盤
浮泥堆積状況	I	I	I	I	I	I	I
被度	<5%	20%	40%	10%	40%	5%	20%
主な出現種	トゲキマイシロ風 (<5%) キマイシロ風 (<5%) カノキマイシロ風 (<5%)	ストリイシロ風 (テープ状) 15% ワヤコ' 属 (<5%) カノキマイシロ風 (<5%)	ストリイシロ風 (テープ状) 35% ニホミストリイシロ風 (被覆状) <5% カノキマイシロ風 (<5%)	ストリイシロ風 (テープ状) 5% ニホミストリイシロ風 (被覆状) <5% カノキマイシロ風 (<5%)	ストリイシロ風 (被覆状) 15% ストリイシロ風 (テープ状) 15% ストリイシロ風 (被覆状) <5%	ストリイシロ風 (テープ状) <5% ニホミストリイシロ風 (被覆状) <5% カノキマイシロ風 (<5%)	トゲキマイシロ風 (<5%) キマイシロ風 (<5%) カノキマイシロ風 (<5%)
成育型	V	II	II	V	III	II	V
白化段階	0	0	0	0	0	0	0
加入度	I	I	II	I	II	II	I
ストリイシロ風 (テープ状) のヤス' 上位5群体 (cm)	-	100, 80, 40, 40, 20	150, 130, 130, 100, 100	110	150, 120, 50, 40	40, 30, 30, 30	-
被度	5%	20%	25%	25%	30%	30%	40%
主な出現種	フクロイサキ' (<5%) 藍藻綱 (<5%) ヤス' グサ属 (<5%)	フクロイサキ' 5% ハバサキ' 属 (<5%) ヤス' グサ属 (<5%)	ヤコ' モ目 (無節ヤコ' モ類) 5% 微小紅藻類 5% ワカサギ科 5%	フクロイサキ' 5% ハバサキ' 属 (<5%) ヤス' グサ属 (<5%)	微小紅藻類 15% ハバサキ' 属 (<5%) ヤス' グサ属 (<5%)	ハバサキ' 属 10% フクロイサキ' 5% ヤス' グサ属 (<5%)	フクロイサキ' 20% 藍藻綱 5% ワカサギ科 <5%
被度	0%	0%	<5%	0%	0%	0%	0%
主な出現種	-	-	カ' 科属 (<5%)	-	-	-	-
被度	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
主な出現種	-	-	-	-	-	-	-
オニヒシテの観察個体数	0	0	0	0	0	0	0
ヤコ' 食巻貝類によるヤコ' 類の食害	I (なし)	I (なし)	I (なし)	I (なし)	I (なし)	I (なし)	I (なし)
特記事項	特になし	フクロイサキ' 1個体を確認。	オニヒシテと思われる食痕あり。	特になし	特になし	周所的に高被度なテープ状ストリイシロ風群集あり。	特になし

注) 1. 水深は、標高表示。
 2. 浮泥堆積状況：「I」：海底面をたいても湧かない、「II」：はたきと湧る、「III」：浮泥がまばらに堆積している、「IV」：浮泥が一様に(厚く)堆積している」
 3. 底質：岩盤、大礫(等身大以上)、巨礫(等身大～人頭大)、大礫(人頭大～こぶし大)、小礫(こぶし大～米粒大)、砂礫、砂、砂泥、泥
 4. 被度：5%、それ以上を5%ヒツチで示す。
 5. ヤコ' 類成育型：I (枝状ストリイシロ風)、II (テープ状ストリイシロ風)、III (被覆状、テープ状ストリイシロ風)、IV (多量混成)、V (ワカサギ科優占)
 6. 白化の段階：I (0)、II (1)、III (2)、IV (3)、V (4)、VI (5) (5群体)
 7. ヤコ' 加入度 (群体数 / m²)：I (なし)、II (<5群体)、III (>5群体)
 8. ヤコ' 食巻貝類によるヤコ' 類の食害：I (食痕目立たない)、II (食痕のある群体が散見)、III (大きく食痕のある群体が目立つ)、IV (完全に食痕が目立ち、貝集団が散見される)、V (St.1～333ではR0W方式で調査を実施した。)

表-6.12.25 (4) サンゴ類・海藻草類分布調査結果 (スポット法：秋季)

調査地点	St.22	St.23	St.24	St.25	St.26	St.27	St.28
調査日	令和3年10月3日	令和3年10月3日	令和3年10月3日	令和3年10月4日	令和3年10月3日	令和3年10月3日	令和3年10月3日
水深	7.2m	14.3m	17.4m	3.1m	11.3m	2.7m	3.8m
底質概観	岩盤	岩盤、砂	岩盤	岩盤	岩盤	岩盤	岩盤
浮泥堆積状況	I	I	I	I	I	I	I
被度	30%	15%	10%	45%	10%	45%	45%
主な出現種	シドリイシ属(チープ状) コモヤシ属(被覆状) シドリイシ属(樹枝状)	ツバサヤシ属 ツバサヤシ属 ツバサヤシ属	ツバサヤシ属 ツバサヤシ属 ツバサヤシ属	シドリイシ属(チープ状) ツバサヤシ属 ツバサヤシ属	シドリイシ属(チープ状) ツバサヤシ属(被覆状) ツバサヤシ属(被覆状)	シドリイシ属(チープ状) ツバサヤシ属 ツバサヤシ属	シドリイシ属(チープ状) ツバサヤシ属(樹枝状) ツバサヤシ属
成育型	II	V	V	II	V	II	V
白化段階	0	0	0	I	0	I	0
加入度	II	I	I	II	I	II	II
シドリイシ属(チープ状)のヤシ上位5群体(cm)	140, 120, 120, 80, 60	-	80, 10	250, 200, 180, 100, 100	120, 80, 60, 40	310, 130, 130, 120, 110	200, 200, 150, 130, 100
被度	30%	15%	40%	30%	60%	30%	20%
主な出現種	微小紅藻類 ヤシ属 ツバサヤシ属 ツバサヤシ属	ツバサヤシ属 藍藻類 ツバサヤシ属 ツバサヤシ属	ツバサヤシ属 ツバサヤシ属 ツバサヤシ属	藍藻類 微小紅藻類 ヤシ属 ツバサヤシ属	ツバサヤシ属 ヤシ属 ツバサヤシ属 ツバサヤシ属	ツバサヤシ属(無節ツバサヤシ属) 微小紅藻類 ツバサヤシ属 ツバサヤシ属	微小紅藻類 ツバサヤシ属 ツバサヤシ属 ツバサヤシ属
被度	0%	0%	0%	0%	0%	<5%	0%
主な出現種	-	-	-	-	-	ツバサヤシ属	-
被度	0%	0%	<5%	0%	0%	0%	0%
主な出現種	-	-	ツバサヤシ属	-	-	-	-
観察個体数	0	0	0	0	0	0	0
ヤシ類によるヤシ類の食害	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)
特記事項	特になし	特になし	特になし	食害と思われる群体を確認。ツバサヤシ属の加入群体を複数確認。	ツバサヤシ属に魚による食害を確認。	特になし	特になし

注) 1. 水深は、標高表示。
 2. 浮泥堆積状況：I：海底面をほとんど濡らない、II：はたくと濡る、III：浮泥がまばらに堆積している、IV：浮泥が一様に堆積している
 3. 底質：岩盤、板石(等身大以上)、巨礫(等身大～人頭大)、大礫(人頭大～こぶし大)、小礫(こぶし大～米粒大)、砂礫、砂、砂泥、泥
 4. 被度：5%、それ以上を5%ヒツチで示す。
 5. ヤシ類成育型：I(枝状シドリイシ属)、II(チープ状シドリイシ属)、III(被覆、チープ状シドリイシ属)、IV(特定類優占)、V(多種混成)、VI(ツバサヤシ属優占)
 6. 白化の段階：I(0)、II(1)、III(2)、IV(3)、V(4)、VI(5) (0%～90%、10%～50%、20%～80%、30%～90%、40%～90%)
 7. ヤシ類加入度(群体数 / m²)：I(なし)、II(<5群体)、III(≧5群体)
 8. ヤシ類加入度によるヤシ類の食害：I(食害目立たない)、II(食害のある群体がある)、III(大きく食害のある群体がある)、IV(大きく食害のある群体が目立つ)、V(100個体以上の群体がある)、VI(観察範囲内)
 9. St. 1～333では目視観察、R1～11ではROW方式で調査を実施した。

表-6.12.25 (5) サンゴ類・海藻草類分布調査結果 (スポット法：秋季)

調査地点	St.29	St.30	St.31	St.32	St.33
調査日	令和3年10月3日	令和3年10月3日	令和3年10月3日	令和3年10月6日	令和3年10月6日
水深	10.4m	14.3m	6.1m	9.1m	2.3m
底質概観	岩盤	岩盤、小礫	岩盤、砂	岩盤、砂	岩盤、小礫
浮泥堆積状況	I	I	I	I	I
被度	10%	5%	45%	5%	20%
主な出現種	シドリイ属(テア)属 5% カノコイ属 5% コモイ属(被覆状) <5%	シドリイ属(テア)属 <5% コモイ属 5% カノコイ属(被覆状) <5%	シドリイ属(テア)属 40% コモイ属(被覆状) <5% カノコイ属(被覆状) <5%	シドリイ属(テア)属 <5% コモイ属(被覆状) <5% カノコイ属(被覆状) <5%	シドリイ属(テア)属 10% コモイ属(被覆状) <5% カノコイ属(被覆状) <5%
成育型	II	V	II	II	II
白化段階	0	0	0	0	0
加入度	II	I	II	II	II
シドリイ属(テア)属の オス上位5群体の体長(cm)	80, 60, 45, 30, 20	75, 30, 15, 15, 15	250, 200, 150, 100, 90	120	110, 110, 35, 10
被度	30%	40%	10%	30%	30%
主な出現種	フクロイ属 15% カノコイ属 5% シドリイ属(被覆状) <5%	フクロイ属 25% カノコイ属(被覆状) 5% シドリイ属(被覆状) <5%	フクロイ属 <5% カノコイ属(被覆状) <5% シドリイ属(被覆状) <5%	フクロイ属 20% カノコイ属(被覆状) 5% シドリイ属(被覆状) <5%	微小紅藻類 15% カノコイ属(被覆状) 5% シドリイ属(被覆状) <5%
被度	0%	0%	0%	0%	0%
主な出現種	なし	なし	なし	なし	なし
被度	<5%	0%	0%	0%	0%
主な出現種	カノコイ属 <5%	なし	なし	なし	なし
被度	0	0	0	0	0
被度	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)
被度	特になし	特になし	特になし	特になし	特になし
特記事項	特になし	特になし	特になし	1mを超えるテア属(被覆状)が多数あり。	周辺は小礫や砂。

注) 1. 水深は、標高表示
 2. 浮泥堆積状況：「I」：海面をのこす、II：はたきと露る、III：浮泥がまばらに堆積している、IV：浮泥が(厚く)堆積している」
 3. 底質：岩盤(等身大以上)、巨礫(等身大〜八頭寸)、大礫(八頭寸〜一尺)、小礫(一尺〜二尺)、砂、砂泥、泥
 4. 被度：<5%、それ以上を5%ヒツチで示す。
 5. カノコイ属成育型：I(枝状シドリイ属)、II(テア)属(シドリイ属)、III(枝状、テア)属(シドリイ属)、IV(特定種)、V(多種混成)、VI(ワカボシ)属(シドリイ属)
 6. 白化の段階：「0」:<1%、1:1~10%、2:10~50%、3:50~90%、4:>90%
 7. カノコイ加入度(群数/㎡)：I(なし)、II(<5群)、III(>5群)
 8. カノコイ加入度によるカノコイ属の食害：I(食害目立たない)、II(食害のある群体が散見)、III(大きく食害のある群体が目立つ)、IV(食害のある群体が目立ち、貝集団が散見される)
 9. St.1~33では目視観察、R1~11ではR0V方式で調査を実施した。

表-6.12.26 (1) サンゴ類・海藻草類分布調査結果 (ROV 方式：秋季)

調査地点	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
調査日	令和3年11月3日	令和3年11月3日	令和3年11月3日	令和3年11月3日	令和3年11月3日	令和3年11月3日	令和3年11月3日
水深	17.5m	28.6m	29.1m	23.1m	29.6m	27.5m	23.1m
底質概観	大礫・砂	砂礫・大礫	砂礫・巨礫	砂礫・巨礫	砂礫・巨礫	砂	砂・大礫
浮泥堆積状況	I	I	I	I	I	I	I
被度	5~25%	<5%	<5%	<5%	<5%	0%	<5%
主な出現種	カノコキナシ属 5~25% ババカササゴ属 トゲキナシ属 <5% シドリイシ属(テフメ状) <5%	ババカササゴ属 <5% トゲキナシ属 <5% カノコキナシ属 <5%	ババカササゴ属 <5% トゲキナシ属 <5% カノコキナシ属 <5%	ババカササゴ属 <5% カノコキナシ属 <5% トゲキナシ属 <5%	ババカササゴ属 <5% カノコキナシ属 <5% キナシ属 <5%	特になし <5%	カノコキナシ属 <5% キナシ属 <5% カノコキナシ属 <5%
成育型	V	V	V	V	V	-	V
白化段階	0	0	0	0	0	0	0
加入度	I	I	I	I	I	I	I
シドリイシ属(テフメ状)の ヤス上位5群体(cm)	40, 50, 80, 90, 90(推定値)	なし	なし	なし	なし	なし	なし
被度	50~75%	5~25%	5~25%	5~25%	5~25%	0	5~25%
主な出現種	フカエドクサ属 5~25% ヤバクサ属 5~25% ヤコモ目(無節ヤコ)モ類 <5%	フカエドクサ属 5~25% 藍藻綱 <5% ヤコモ目(無節ヤコ)モ類 <5%	藍藻綱 5~25% フカエドクサ属 <5% ヤコモ目(無節ヤコ)モ類 <5%	藍藻綱 5~25% フカエドクサ属 <5% ヤコモ目(無節ヤコ)モ類 <5%	藍藻綱 <5% フカエドクサ属 <5% ヤコモ目(無節ヤコ)モ類 <5%	特になし <5%	ヤバクサ属 <5% 微小紅藻類 <5% ヤコモ目(無節ヤコ)モ類 <5%
被度	0	0	0	0	0	0	0
主な出現種	-	-	-	-	-	-	-
被度	0	0	<5%	0	0	0	<5%
主な出現種	-	-	ウツリ属 <5%	-	-	-	ウツリ属 <5%
ホトチテの観察個体数	0	0	0	0	0	0	0
ヤコモ類の食害	I	I	I	I	I	-	I
特記事項	塊状や被覆状のサンゴ群体が自立つ。所々にテフメ状・シドリイシ属が見られる。海藻類は礫上に生育。	特になし	サンゴ類が息するのは、点在する巨礫にわずかに着生するのみ。被覆状群体が優占する。海藻類は巨礫上で群生にみられるのみ。	着生基盤が少ないためサンゴ類は少ない。サンゴ類が生息するのは、点在する巨礫にわずかに着生するのみ。アカエイト科が遊泳。	着生基盤が少ないためサンゴ類は少ない。生息するサンゴ類は被覆状の群体が多い。コロダイが遊泳。	砂地が広がっており、サンゴ、藻類ともにほとんど確認されない。流れ藻がほとんどで着生している海藻はない。	砂地に点在する大礫上にサンゴがわずかに生息する。海藻の生育も少ない。

注) 1. 水深は、T.M.S.L.(東京湾平均海面)表示。
 2. 浮泥堆積状況：「I」：海底面はたいも瀧ない。II：はたくと瀧る。III：浮泥がまばらに堆積している。(厚く)堆積している」
 3. 底質：岩盤、板石(等身大以上)、巨礫(等身大~こぶし大)、小礫(こぶし大~米粒大)、砂礫、砂、砂泥、泥
 4. 被度：0%、5%未満、5%以上25%未満、25%以上50%未満、50%以上75%未満、75%以上100%で表す。
 5. ヤコモ類成育型：I(後状シドリイシ属)、II(テフメ状シドリイシ属)、III(後状、テフメ状シドリイシ属)、IV(特定種優占)、V(多種混成)、VI(ワトコウ属優占)
 6. 白化の段階：「0」:<1%、1:1~10%、2:10~50%、3:50~90%、4:90%
 7. ヤコモ加入度(群体数/㎡)：I(なし)、II(<5群体)、III(≧5群体)
 8. ヤコモ食害員類によるヤコモ類の食害：I(食害目立たない)、II(食害のある群体がある)、III(大きく食害のある群体が散見)、IV(特定種優占)、V(多種混成)、VI(ワトコウ属優占)
 9. St.1~33では目視観察、R1~11ではROV方式で調査を実施した。

表-6.12.26 (2) サンゴ類・海藻草類分布調査結果 (ROV 方式：秋季)

調査地点	R8	R9	R10	R11
調査日	令和3年11月3日	令和3年11月3日	令和3年11月3日	令和3年11月3日
水深	27.0m	25.0m	24.1m	26.0m
底質概観	砂	砂	砂礫・大礫	砂
浮泥堆積状況				
被度	I	I	I	I
主な出現種	特になし	特になし	キナンド風 <5%	特になし
			アサギサゴノ属 <5%	
			トゲキナンド風 <5%	
成育型	-	-	V	-
白化段階	0	0	0	0
加入度	I	I	I	I
シドリノ属(テブノ属)の サイズ上位5群体(cm)	なし	なし	なし	なし
被度	0	0	5~25%	0
主な出現種	特になし	特になし	フナゴトノ	特になし
			ヤスダマシノ属	
			微小紅藻類	
被度	0	0	0	0
主な出現種	-	-	-	-
被度	0	0	0	0
主な出現種	-	-	-	-
被度	0	0	0	0
主な出現種	I	I	I	I
サゴノ食巻員類による サゴノ類の食害	砂地が広がっており、サンゴ、藻類ともにほとんど確認されないうち、基盤がいために着生なし。	砂地が広がっており、サンゴ、藻類ともにほとんど確認されないうち、アサギサゴノ科が砂地で見られる。	砂地が広がっており、点在する転石にサンゴが付着している。	砂地が広がっており、サンゴ、藻類ともにほとんど確認されないうち、流れ藻はみられるが、着生していない。
特記事項				
サゴノ類の観察員類による サゴノ類の食害	0	0	0	0

注) 1. 水深は、T.M.S.L.(東京湾平均海面)表示。
 2. 浮泥堆積状況：「I」：海底面をのりでも覆らない、「II」：はたらくと覆る、「III」：浮泥がまばらに堆積している、「IV」：浮泥が一樣に(厚く)堆積している」
 3. 底質：岩盤、転石(等身大以上)、巨礫(等身大～10cm)、大礫(10cm以上)、小礫(こぶし大～こぶし大)、小礫(こぶし大～米粒大)、砂礫、砂、砂泥、泥
 4. 被度：0%、5%未満、5%以上25%未満、25%以上50%未満、50%以上75%未満、75%以上100%で表す。
 5. サゴノ類成育型：I(後状シドリノ属)、II(テブノ属)、III(後状、テブノ科)、IV(後状、テブノ科)、V(後状、テブノ科)、VI(後状、テブノ科)
 6. 白化の段階：1(0)、2(10%～50%)、3(50%～80%)、4(80%～90%)、5(90%以上)
 7. サゴノ加入度(群体数/㎡)：I(なし)、II(≤5群体)、III(≥5群体)
 8. サゴノ加入度(群体数/㎡)：I(食痕目立たない)、II(食痕目立たない)、III(大きく食害のある群体が見られ、IV(大きく食害のある群体が目立つが100個体以上の群体はみられない)、V(絶死群体が目立ち、IV(絶死群体が散見される))
 9. St. 1～33では目視観察、R1～11ではROV方式で調査を実施した。

表-6.12.24 (1) サンゴ類・海藻草類分布調査結果 (スポット法：冬季)

調査地点	St.1	St.2	St.3	St.4	St.5	St.6	St.7
調査日	令和3年12月11日	令和3年12月21日	令和3年12月21日	令和3年12月11日	令和3年12月21日	令和3年12月21日	令和3年12月11日
水深	13.9m	17.0m	15.9m	2.7m	12.6m	16.3m	4.6m
底質概観	大礫、岩盤	巨礫、岩盤	岩盤、砂礫	岩盤、巨礫	巨礫、砂	砂、巨礫	岩盤、小礫
浮泥堆積状況	I	I	I	I	I	I	I
被度	<5%	<5%	<5%	10%	<5%	<5%	<5%
主な出現種	シドリイシ属(テブム状) カマコキイシ属 サトウイシ属	ノボリイシ属 アサギイシ属 カマコキイシ属	ノボリイシ属 アサギイシ属 カマコキイシ属	シドリイシ属(テブム状) アサギイシ属 カマコキイシ属	カマコキイシ属 アサギイシ属 ノボリイシ属	カマコキイシ属 アサギイシ属 ノボリイシ属	シドリイシ属 カマコキイシ属 アサギイシ属
成育型	V	V	V	II	V	V	V
白化段階	0	0	0	0	0	0	0
加入度	I	I	I	II	I	II	I
シドリイシ属(テブム状)のサイズ上位5群体(cm)	70, 60	-	-	160, 90, 60, 30	-	-	25
被度	10%	20%	20%	30%	25%	20%	40%
主な出現種	アサギイシ属 カマコキイシ属 ノボリイシ属	アサギイシ属 カマコキイシ属 ノボリイシ属	アサギイシ属 カマコキイシ属 ノボリイシ属	アサギイシ属 カマコキイシ属 ノボリイシ属	アサギイシ属 カマコキイシ属 ノボリイシ属	アサギイシ属 カマコキイシ属 ノボリイシ属	アサギイシ属 カマコキイシ属 ノボリイシ属
被度	0%	<5%	<5%	<5%	<5%	<5%	0%
主な出現種	-	ノボリイシ属	ノボリイシ属	ノボリイシ属	ノボリイシ属	ノボリイシ属	-
被度	0%	0%	<5%	0%	<5%	0%	<5%
主な出現種	-	カマコキイシ属	カマコキイシ属	カマコキイシ属	カマコキイシ属	カマコキイシ属	カマコキイシ属
モニターの観察個体数	0	0	0	0	0	0	0
サンゴ類の食害	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)
特記事項	特になし	特になし	高波浪により一部のサンゴが埋没を確認。周囲に1mを超えるテブム状サゴあり。	周囲に1mを超えるテブム状サゴあり。	周囲に1mを超えるテブム状サゴあり。	特になし	特になし

(注) 1. 水深は、標高を示す。
 2. 浮泥堆積状況：I：海底面をはいでも濡らない、II：はたきと濡る、III：浮泥がまばらに堆積している、IV：浮泥が一面に(厚く)堆積している
 3. 底質：岩盤、巨礫(等身大以上)、巨礫(等身大～入頭大)、大礫(入頭大～こぶし大)、小礫(こぶし大～米粒大)、砂礫、砂、砂泥、泥
 4. 被度：<5%、それ以上を5%とラウンドする。
 5. サゴ類成育型：I(枝状シドリイシ属)、II(テブム状シドリイシ属)、III(枝状、テブム状シドリイシ属)、IV(特定種属)、V(多様種属)、VI(ワケコガシ属)
 6. 白化の段階：0：<1%、1：1～10%、2：10～50%、3：50～90%、4：>90%
 7. サゴ加入度(群体数/㎡)：I(なし)、II(<5群体)、III(≧5群体)
 8. サゴ食害目録によるサンゴ類の食害：I(食害目録なし)、II(食害のある群体が見られる)、III(大きく食害のある群体が見られる)、IV(食害の群体が目立ち、具集団が散見される)、V(食害の群体が目立ち、具集団が散見される)
 9. St.1～33では目録観察、R1～11ではROW方式で調査を実施した。

表-6.12.24 (2) サンゴ類・海藻草類分布調査結果 (スポット法：冬季)

調査地点	St.8	St.9	St.10	St.11	St.12	St.13	St.14	
調査日	令和3年12月21日	令和3年12月21日	令和3年12月21日	令和3年12月21日	令和3年12月21日	令和3年12月9日	令和3年12月21日	
水深	16.4m	12.4m	13.6m	4.6m	8.5m	6.8m	4.5m	
底質概観	砂、巨礫	巨礫、砂	巨礫、砂	岩盤、小礫	岩盤、砂礫	岩盤	岩盤、砂	
浮泥堆積状況	II	I	II	I	I	I	I	
被度	<5%	<5%	<5%	<5%	<5%	5%	<5%	
主な出現種	スリパチヤコノ属 <5% キナメノ属 <5% カノコキナメノ属 <5%	スリパチヤコノ属 <5% カノコキナメノ属 <5% キナメノ属 <5%	トゲキナメノ属 <5% トゲキナメノ属 <5% トゲキナメノ属 <5%	トゲキナメノ属 <5% トゲキナメノ属 <5% トゲキナメノ属 <5%	トゲキナメノ属 <5% トゲキナメノ属 <5% トゲキナメノ属 <5%	トゲキナメノ属 <5% トゲキナメノ属 <5% トゲキナメノ属 <5%	トゲキナメノ属 <5% トゲキナメノ属 <5% トゲキナメノ属 <5%	トゲキナメノ属 <5% トゲキナメノ属 <5% トゲキナメノ属 <5%
成育型	V	V	V	V	V	II	V	
白化段階	0	0	0	0	0	0	0	
加入度	I	I	I	I	I	I	I	
シノリノ属(テブノ属)のサイズ上位5群体(cm)	-	-	-	50, 20, 15	55, 35, 30	60, 60, 40, 30	-	
被度	10%	25%	20%	25%	30%	30%	40%	
主な出現種	フクロヤコノ属 <5% シノリノ属 <5% ヤスノ属 <5%	フクロヤコノ属 <5% シノリノ属 <5% ヤスノ属 <5%	フクロヤコノ属 <5% シノリノ属 <5% ヤスノ属 <5%	フクロヤコノ属 <5% シノリノ属 <5% ヤスノ属 <5%	フクロヤコノ属 <5% シノリノ属 <5% ヤスノ属 <5%	フクロヤコノ属 <5% シノリノ属 <5% ヤスノ属 <5%	フクロヤコノ属 <5% シノリノ属 <5% ヤスノ属 <5%	フクロヤコノ属 <5% シノリノ属 <5% ヤスノ属 <5%
被度	<5%	<5%	<5%	<5%	<5%	0%	<5%	
主な出現種	シノリノ属 <5% ヤスノ属 <5%	シノリノ属 <5% ヤスノ属 <5%	シノリノ属 <5% ヤスノ属 <5%	シノリノ属 <5% ヤスノ属 <5%	シノリノ属 <5% ヤスノ属 <5%	シノリノ属 <5% ヤスノ属 <5%	シノリノ属 <5% ヤスノ属 <5%	
被度	0%	0%	<5%	0%	<5%	<5%	<5%	
主な出現種	-	-	カノコキナメノ属 <5%	-	カノコキナメノ属 <5%	カノコキナメノ属 <5%	カノコキナメノ属 <5%	
被度	0	0	0	0	0	0	0	
観察個体数	0	0	0	0	0	0	0	
サンゴ類による食害	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	
特記事項	特になし	特になし	特になし	カノコキナメノ属 <5%	特になし	特になし	特になし	

注) 1. 水深は、標高を示す。
 2. 浮泥堆積状況：I：海底面をはいでも潮らない、II：はたきと濁る、III：浮泥がまばらに堆積している、IV：浮泥が一律に(厚く)堆積している」
 3. 底質：岩盤、巨礫(等身大以上)、巨礫(等身大～入頭大)、大礫(入頭大～こぶし大)、小礫(こぶし大～米粒大)、砂礫、砂、砂泥、泥
 4. 被度：<5%、それ以上を5%とラウンドする。
 5. サンゴ類成育型：I(枝状シノリノ属)、II(テブノ属)、III(枝状、テブノ属)、IV(特定種)、V(多量種)、VI(ワケモノ種)
 6. 白化の段階：I(0)、II(1)、III(2)、IV(3)、V(4)、VI(5) (群体数 / 個体数) : I(なし)、II(5群体)、III(5群体)
 7. サンゴ加入度(群体数 / 個体数) : I(なし)、II(5群体)、III(5群体)
 8. サンゴ食害目録によるサンゴ類の食害：I(食害目録なし)、II(食害のある群体がある)、III(大きく食害のある群体がある)、IV(食害のある群体がある)、V(食害のある群体がある)、VI(食害のある群体がある)
 9. St.1～33では目録観察、R1～11ではROW方式で調査を実施した。

表-6.12.24 (3) サンゴ類・海藻草類分布調査結果 (スポット法：冬季)

調査地点	St.15	St.16	St.17	St.18	St.19	St.20	St.21
調査日	令和3年12月9日	令和3年12月9日	令和3年12月9日	令和3年12月9日	令和3年12月9日	令和3年12月9日	令和3年12月9日
水深	15.3m	9.0m	1.7m	10.3m	4.4m	9.9m	15.9m
底質概観	砂、大礫	岩盤	岩盤	岩盤、大礫	岩盤	岩盤	岩盤
浮泥堆積状況	I	I	I	I	I	I	I
被度	<5%	20%	40%	10%	40%	5%	20%
主な出現種	シトリア属 (テブ*状) <5% シトリア属 (被覆状) <5% カノコキイ属 <5%	シトリア属 (テブ*状) 15% シトリア属 (被覆状) <5% カノコキイ属 <5%	シトリア属 (テブ*状) 35% シトリア属 (被覆状) <5% カノコキイ属 <5%	シトリア属 (テブ*状) 5% シトリア属 (被覆状) <5% カノコキイ属 <5%	シトリア属 (被覆状) 15% シトリア属 (テブ*状) 15% シトリア属 (被覆状) <5%	シトリア属 (テブ*状) <5% シトリア属 (被覆状) <5% シトリア属 (被覆状) <5%	シトリア属 <5% シトリア属 (被覆状) <5% シトリア属 <5%
成育型	V	II	II	V	III	II	V
白化段階	0	I	0	0	0	0	0
加入度	I	I	II	I	II	II	I
シトリア属 (テブ*状) の サイズ上位5群 (cm)	-	220, 120, 110, 30	180, 130, 130, 120, 100	100	120, 115, 45, 30, 20	100, 100, 30, 35, 20	-
被度	25%	20%	35%	30%	30%	30%	20%
主な出現種	フタコ* 10% 藍藻類 5% ヤブ*カ*属 <5%	フタコ* 属 10% フタコ* 5% ヤブ*カ*属 <5%	微小紅藻類 20% シトリア属 (被覆状) 5% シトリア属 (被覆状) 5%	フタコ* 20% イノ*科 5% ヤブ*カ*属 <5%	シトリア属 (被覆状) 10% シトリア属 (被覆状) 5% シトリア属 (被覆状) <5%	フタコ* 属 10% 微小紅藻類 10% フタコ* <5%	フタコ* 10% 藍藻類 5% イノ*科 <5%
被度	0%	0%	0%	0%	<5%	0%	0%
主な出現種	-	-	-	-	シトリア属 <5%	-	-
被度	<5%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
主な出現種	イノ*科 <5%	-	-	-	-	-	-
被度	0	0	0	0	0	0	0
観察個体数	0	0	0	0	0	0	0
サンゴ類による サンゴ類の食害	I (なし)	I (なし)	I (なし)	I (なし)	I (なし)	I (なし)	I (なし)
特記事項	特になし	特になし	特になし	特になし	特になし	周所的に高被度なテブ*状シトリア属群集あり。	特外にテブ*状シトリア属あり。

注) 1. 水深は、標高を示す。
 2. 浮泥堆積状況：I：海底面をほとんど濡らさない、II：はたきと濡る、III：浮泥がまばらに堆積している、IV：浮泥が一面に(厚く)堆積している
 3. 底質：岩盤、大礫、巨礫(等身大以上)、巨礫(等身大以下)、小礫(こぶし大)、小礫(こぶし大以下)、大礫(こぶし大以上)、砂礫、砂、砂泥、泥
 4. 被度：<5%、それ以上を5%とラウンドする。
 5. サンゴ類成育型：I (枝状シトリア属)、II (テブ*状シトリア属)、III (被覆状、テブ*状シトリア属)、IV (特定種シトリア属)、V (多様種シトリア属)、VI (ワケコ*状シトリア属)
 6. 白化の段階：I (0)、II (1)、III (2)、IV (3)、V (4)、VI (5) (5群体)
 7. サンゴ加入度 (群体数 / m²)：I (なし)、II (<5群体)、III (<5群体)、IV (<5群体)、V (<5群体)、VI (>90群体)
 8. サンゴ食害目録によるサンゴ類の食害：I (食害目録なし)、II (食害目録あり)、III (大きく食害のある群体が散見)、IV (大きく食害のある群体が目立つ)、V (多様種シトリア属)、VI (ワケコ*状シトリア属)
 9. St.1~33では目録観察、R1~11ではROW方式で調査を実施した。

表-6.12.24 (4) サンゴ類・海藻草類分布調査結果 (スポット法：冬季)

調査地点	St.22	St.23	St.24	St.25	St.26	St.27	St.28
調査日	令和3年12月9日	令和3年12月9日	令和3年12月11日	令和3年12月11日	令和3年12月11日	令和3年12月11日	令和3年12月11日
水深	7.2m	14.3m	17.4m	3.1m	11.3m	2.7m	3.8m
底質概観	岩盤	岩盤、砂	岩盤	岩盤	岩盤	岩盤	岩盤
浮泥堆積状況	I	I	I	I	I	I	I
被度	30%	15%	15%	45%	10%	45%	45%
主な出現種	シドリイ属(ブツム状) 10%	ハカコキイイ属 10%	ハカコキイイ属 5%	シドリイ属(ブツム状) 40%	ニガシドリイ属(被覆状) 5%	シドリイ属(ブツム状) 40%	シドリイ属(ブツム状) 35%
	コモヤコ属(被覆状) 5%	ハカコキイイ属 5%	シドリイ属 <5%	ハカコキイイ属 <5%	シドリイ属(ブツム状) <5%	シドリイ属(ブツム状) <5%	シドリイ属(樹枝状) 5%
	シドリイ属(樹枝状) <5%	ハカコキイイ属 <5%	コモヤコ属 <5%	ニガシドリイ属(被覆状) <5%	コモヤコ属(被覆状) <5%	ニガシドリイ属 <5%	シドリイ属 <5%
成育型	II	V	V	II	V	II	II
白化段階	0	0	0	I	0	0	0
加入度	I	I	I	II	I	II	II
シドリイ属(ブツム状)の ヤコ上位5群体の(cm)	120, 110, 90, 90, 75	-	60, 60	150, 150, 120, 100, 100	55, 50	160, 150, 150, 140, 110	200, 200, 130, 120, 90
被度	25%	15%	30%	40%	40%	25%	20%
主な出現種	微小紅藻類 5%	フカボキ 5%	フカボキ 15%	藍藻類 20%	ヤコモ目(無節ヤコ)モ類 10%	ヤコモ目(無節ヤコ)モ類 10%	微小紅藻類 5%
	ヤコモ目(無節ヤコ)モ類 5%	藍藻類 <5%	ヤコモ目(無節ヤコ)モ類 5%	微小紅藻類 10%	ハナヤコ属 5%	微小紅藻類 5%	ヤコモ目(無節ヤコ)モ類 <5%
	ハナヤコ属 <5%	イリノ科 <5%	ヤコモ目 <5%	ヤコモ目 <5%	フカボキ <5%	ヤコモ目 <5%	ヤコモ目 <5%
被度	0%	0%	0%	<5%	0%	<5%	<5%
主な出現種	-	-	-	ホハノ属 <5%	-	ホハノ属 <5%	ホハノ属 <5%
被度	0%	0%	0%	0%	0%	<5%	0%
主な出現種	-	-	-	-	-	ホハノ属 <5%	-
ホハノの観察個体数	0	0	0	0	0	0	0
ヤコ食巻貝類による ヤコ類の食害	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)
特記事項	特になし	特になし	岩盤の周辺は小礫、砂。	食害と思われる群体を確認。 ハナヤコ類の加入群体を複数 確認。	特になし	特になし	特になし

注) 1. 水深は、標高を示す。
 2. 浮泥堆積状況：I：海底面をのりも濡らない、II：はたきと濡る、III：浮泥がまばらに堆積している、IV：浮泥が一律に(厚く)堆積している」
 3. 底質：岩盤、乾石(等身大以上)、巨礫(等身大～入頭大)、大礫(入頭大～こぶし大)、小礫(こぶし大～米粒大)、砂礫、砂、砂泥、泥
 4. 被度：<5%、それ以上を5%ヒツチで示す。
 5. ヤコ類成育型：I(枝状シドリイ属)、II(ブツム状シドリイ属)、III(被覆状、ブツム状シドリイ属)、IV(特定類被覆)、V(多層被覆)、VI(ワケヤコ被覆)
 6. 白化の段階：I(0)、II(1)、III(2)、IV(3)、V(4)、VI(5) (I: 10%以下、II: 10%～50%、III: 50%～90%、IV: 90%以上)
 7. ヤコ加入度(群体数/㎡)：I(なし)、II(<5群体)、III(5群体)
 8. ヤコ食巻貝類によるヤコ類の食害：I(食痕目立たない)、II(食痕のある群体が散見)、III(大きく食害のある群体が散見)、IV(大きく食害のある群体が目立つ)、V(多層被覆)、VI(ワケヤコ被覆)
 9. St.1～33では目録観察、R1～11ではROW方式で調査を実施した。

表-6.12.24 (5) サンゴ類・海藻草類分布調査結果 (スポット法：冬季)

調査地点	St. 29	St. 30	St. 31	St. 32	St. 33
調査日	令和3年12月11日	令和3年12月6日	令和3年12月6日	令和3年12月11日	令和3年12月11日
水深	10.4m	14.3m	6.1m	9.1m	2.3m
底質概観	岩盤	岩盤、小礫	岩盤、砂	岩盤	岩盤、小礫
浮泥堆積状況	I	I	I	I	I
被度	15%	5%	45%	5%	20%
主な出現種	シノリイ属(テブノイ状) 5% コモオコノ属(被覆状) 5% カノコイイ属 <5%	シノリイ属(テブノイ状) <5% トウキョウイイ属 <5% カノコイイ属 <5%	シノリイ属(テブノイ状) 40% コモオコノ属(被覆状) <5% カノコイイ属(被覆状) <5%	シノリイ属(テブノイ状) <5% コモオコノ属(被覆状) <5% カノコイイ属 <5%	シノリイ属(テブノイ状) 10% コモオコノ属(被覆状) <5% カノコイイ属 <5%
生育型	II	V	II	II	II
白化段階	0	0	0	0	0
加入度	II	I	II	I	II
シノリイ属(テブノイ状)の サイズ上位5群体の(cm)	80, 50, 45, 30, 25	60, 30, 15	250, 200, 150, 100, 100	200, 70, 70	110, 110, 80, 60, 40
被度	20%	40%	10%	30%	40%
主な出現種	アジノイイ属 10% フクロイイ属 5% カノコイイ属(無節)ノコノイイ属 <5%	フクロイイ属 25% アジノイイ属 5% カノコイイ属 <5%	アジノイイ属 <5% フクロイイ属 <5% カノコイイ属 <5%	アジノイイ属 10% フクロイイ属 <5% カノコイイ属 <5%	アジノイイ属 25% フクロイイ属 5% カノコイイ属 <5%
被度	0%	0%	0%	0%	0%
主な出現種	-	-	-	-	-
被度	0%	0%	0%	0%	0%
主な出現種	-	-	-	-	-
ホトリイの観察個体数	0	0	0	0	0
カノコイイ類による カノコイイ類の食害	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)
特記事項	特になし	特になし	部分死群体あり。	1mを超えるテブノイ状ノコノイイ属が多数あり。	周辺は小礫や大礫、砂。

注) 1. 本表は、標準表示「I」(海面をのこす)でも満たない、II：はたとと満る、III：浮泥がまばらに堆積している、IV：浮泥が一面に(厚く)堆積している」
 2. 浮泥堆積状況「I」(海面をのこす)でも満たない、II：はたとと満る、III：浮泥がまばらに堆積している、IV：浮泥が一面に(厚く)堆積している」
 3. 底質：岩盤、底石(等身大以上)、巨礫(等身大〜入頭大)、大礫(入頭大〜こぶし大)、小礫(こぶし大〜米粒大)、砂礫、砂、砂泥、泥
 4. 被度：5%、それ以上を5%ヒツチで示す。
 5. カノコイイ属生育型：I(被覆ノコノイイ属)、II(テブノイ状ノコノイイ属)、III(被覆、テブノイ状ノコノイイ属)、IV(特定型ノコノイイ属)、V(多型ノコノイイ属)占、VI(ワノコイイ属)占
 6. 白化の段階：0；<1%、1；1〜10%、2；10〜50%、3；50〜90%、4；>90%
 7. カノコイイ属(個体数 / m)：I(なし)、II(<5群体)、III(≒5群体)
 8. カノコイイ属によるカノコイイ属の食害：I(食害目立たない)、II(食害のある群体がある群体が散見)、III(大きく食害のある群体がある群体が散見)、IV(大きく食害のある群体がある群体が目立つ)が100個体以上の群体が目立ち、具集団が散見される)
 9. St. I〜33では目視観察、RI〜11ではROV方式で調査を実施した。

表-6.12.25 (1) サンゴ類・海藻草類分布調査結果 (ROV 方式：冬季)

調査地点	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
調査日	令和3年12月5日	令和3年12月3日	令和3年12月3日	令和3年12月5日	令和3年12月5日	令和3年12月5日	令和3年12月5日	
水深	17.9m	23.4m	30.2m	25.0m	32.8m	29.1m	23.6m	
底質概観	大礫・砂	砂礫・大礫	砂礫・巨礫	砂礫・巨礫	砂礫・巨礫	砂	砂・大礫	
浮泥堆積状況	I	I	I	I	I	I	I	
サンゴ類	被度	5~25%	<5%	<5%	<5%	0	<5%	
	主な出現種	カノコキカイソク 5~25% ノコノコ 属 <5% シノキカイソク 属 <5%	ハナカササコ 属 <5% シノキカイソク 属 <5% カノコキカイソク 属 <5%	ハナカササコ 属 <5% カノコキカイソク 属 <5% ハナカササコ 属 <5%	ハナカササコ 属 <5% カノコキカイソク 属 <5% ハナカササコ 属 <5%	ハナカササコ 属 <5% カノコキカイソク 属 <5% ハナカササコ 属 <5%	ハナカササコ 属 <5% カノコキカイソク 属 <5% ハナカササコ 属 <5%	カノコキカイソク 属 <5% ノコノコ 属 <5% ハナカササコ 属 <5%
	成育型	V	V	V	V	V	V	
	白化段階	0	0	0	0	0	0	
海藻草類	加入度	I	I	I	I	I	I	
	加入度 (90, 80, 60, 40 (推定値)) ヤス 上位5群 (cm)	90, 80, 60, 40 (推定値)	なし	なし	なし	なし	60 (推定値)	
藻場	被度	25~50%	5~25%	5~25%	5~25%	0	5~25%	
	主な出現種	フカエサト 5~25% カノコモ目 (無節サゴ) 属 25% ヤス, ガサ 属 <5%	藍藻綱 5~25% フカエサト 属 <5% カノコモ目 (無節サゴ) 属 <5%	藍藻綱 <5% フカエサト 属 <5% カノコモ目 (無節サゴ) 属 <5%	カノコモ目 (無節サゴ) 属 25% 藍藻綱 <5% カノコモ目 (無節サゴ) 属 <5%	藍藻綱 <5% フカエサト 属 <5% カノコモ目 (無節サゴ) 属 <5%	特になし 特になし カノコモ目 (無節サゴ) 属 <5% カノコモ目 (無節サゴ) 属 <5% カノコモ目 (無節サゴ) 属 <5%	フカエサト 属 5~25% 微小紅藻類 <5% カノコモ目 (無節サゴ) 属 <5%
ソ ル ト 類 ラ	被度	0	0	0	0	0	0	
	主な出現種	-	-	-	-	-	-	
ホ ト テ の 観 察 個 体 数	被度	0	0	<5%	0	0	<5%	
	主な出現種	-	カノコモ目 (無節サゴ) 属 <5%	カノコモ目 (無節サゴ) 属 <5%	カノコモ目 (無節サゴ) 属 <5%	カノコモ目 (無節サゴ) 属 <5%	カノコモ目 (無節サゴ) 属 <5%	
サ ゴ 類 の 食 害	被度	0	0	0	0	0	0	
	主な出現種	I	I	I	I	I	I	
特 記 事 項	塊状や被覆状のサンゴ群体が自立。所々にテラブルミドリイシ属が見られる。海藻類は礁上に生育。	特になし	サンゴ類が息するのは、点在する巨礫にわずかに着生するのみ。被覆状群体が覆占する。海藻類は巨礫上で疎らにみられるのみ。	着生基盤が少ないためサンゴ類は少ない。サンゴ類が生育するのは、点在する巨礫にわずかに着生するのみ。	砂地が広がり、着生基盤が少ないためサンゴ類は少ない。コロタイが遊泳。	砂地が広がっており、サンゴ、藻類ともにほとんど確認されない。	砂地に点在する大礫上にサンゴがわずかに生息する。アカエイ科の魚類が遊泳。	
	注) 1. 水深は、T.M.S.I. (東京湾平均海面) 表示。 2. 浮泥堆積状況：「I」：海底面をたいても濁らない。II：はたくと濁る。III：浮泥がまばらに堆積している。IV：浮泥が一樣に（厚く）堆積している」 3. 底質：岩盤、転石（等身大以上）、巨礫（等身大～こぶし大）、小礫（こぶし大～米粒大）、砂礫、砂、砂泥、泥 4. 被度：0%、5%未満、5%以上25%未満、25%以上50%未満、50%以上75%未満、75%以上100%で表示。 5. サゴ類成育型：I（後状ミドリイシ属）、II（テラブルミドリイシ属）、III（後状、テラブルミドリイシ属）、IV（特定期成育）、V（多期成育）、VI（ワトココ）属占 6. 加入度（群数 / m ² ）：I（なし）、II（5群）、III（≧5群） 7. 加入度（群数 / m ² ）：I（なし）、II（5群）、III（≧5群） 8. サゴ類成育型によるサゴ類の食害：I（食害目立たない）、II（食害のある群体がある）、III（大きく食害のある群体が目立つ）、IV（多期成育）、V（多期成育）、VI（ワトココ）属占 9. St. 1~33では目視観察、R1~11ではROV方式で調査を実施した。							

表-6.12.25 (2) サンゴ類・海藻草類分布調査結果 (ROV 方式：冬季)

調査地点	R8	R9	R10	R11
調査日	令和3年12月5日	令和3年12月5日	令和3年12月5日	令和3年12月5日
水深	28.2m	27.7m	24.6m	25.7m
底質概観	砂	砂	砂礫・大礫	砂
浮泥堆積状況				
被度	I	I	I	I
主な出現種	特になし	特になし	<5%	0
			キメイノ属	特になし
			ウチガサヤコノ属	<5%
			オノノキカメイノ属	<5%
成育型	-	-	V	-
白化段階	0	0	0	0
加入度	I	I	I	I
シドリノ属(テブノ目)の ヤスミ上位5群体の 被度	なし	なし	なし	なし
被度	0	0	5~25%	0
主な出現種	特になし	特になし	フナエボシ	特になし
			サゴモ目(無節サゴ)モ属-25%	
			微小紅藻類	5~25%
被度	0	0	0	0
主な出現種	-	-	-	-
被度	0	0	0	0
主な出現種	-	-	-	-
被度	0	0	0	0
主な出現種	-	-	-	-
被度	0	0	0	0
主な出現種	I	I	I	I
サゴノ食巻員類による サゴノ類の食巻	砂地が広がっており、サンゴ、藻類ともにほとんど確認されないが、基礎がないため着生なし。	砂地が広がっており、サンゴ、藻類ともにほとんど確認されない。	特になし	砂地が広がっており、サンゴ、藻類ともにほとんど確認されない。
特記事項				

注) 1. 水深は、T.M.S.L.(東京湾平均海面)表示。
 2. 浮泥堆積状況：「I」：海底面をほぼ完全に埋積している、II：はたぐと覆る、III：浮泥がまばらに堆積している、IV：浮泥が一樣に(厚く)堆積している」
 3. 底質：岩盤、礫石(等身大以上)、巨礫(等身大~10cm)、大礫(10cm以上)、小礫(こぶし大~こぶし大)、小礫(こぶし大~米粒大)、砂礫、砂、砂泥、泥
 4. 被度：0%、5%未満、5%以上25%未満、25%以上50%未満、50%以上75%未満、75%以上100%で表す。
 5. サゴノ類成育型：I(後状シドリノ属占)、II(テブノ目状シドリノ属占)、III(後状、テブノ目状シドリノ属占)、IV(特定種優占)、V(多種混成)、VI(ワトコノ目優占)
 6. 白化の段階：1(0)、2(1%、1:1~10%、2:10~50%、3:50~90%、4:90%)
 7. サゴノ加入度(群数/㎡)：I(なし)、II(<5群体)、III(≧5群体)
 8. サゴノ加入度(群数/㎡)の食巻：I(食巻目立たない)、II(食巻のある群体がある)、III(大きく食巻のある群体が散見)、IV(大きく食巻のある群体が目立つが100個体以上の群体が目立ち、基礎が散見される)、V(散見される群体が目立ち、基礎が散見される)。
 9. St. 1~33では目視観察、R1~11ではROV方式で調査を実施した。

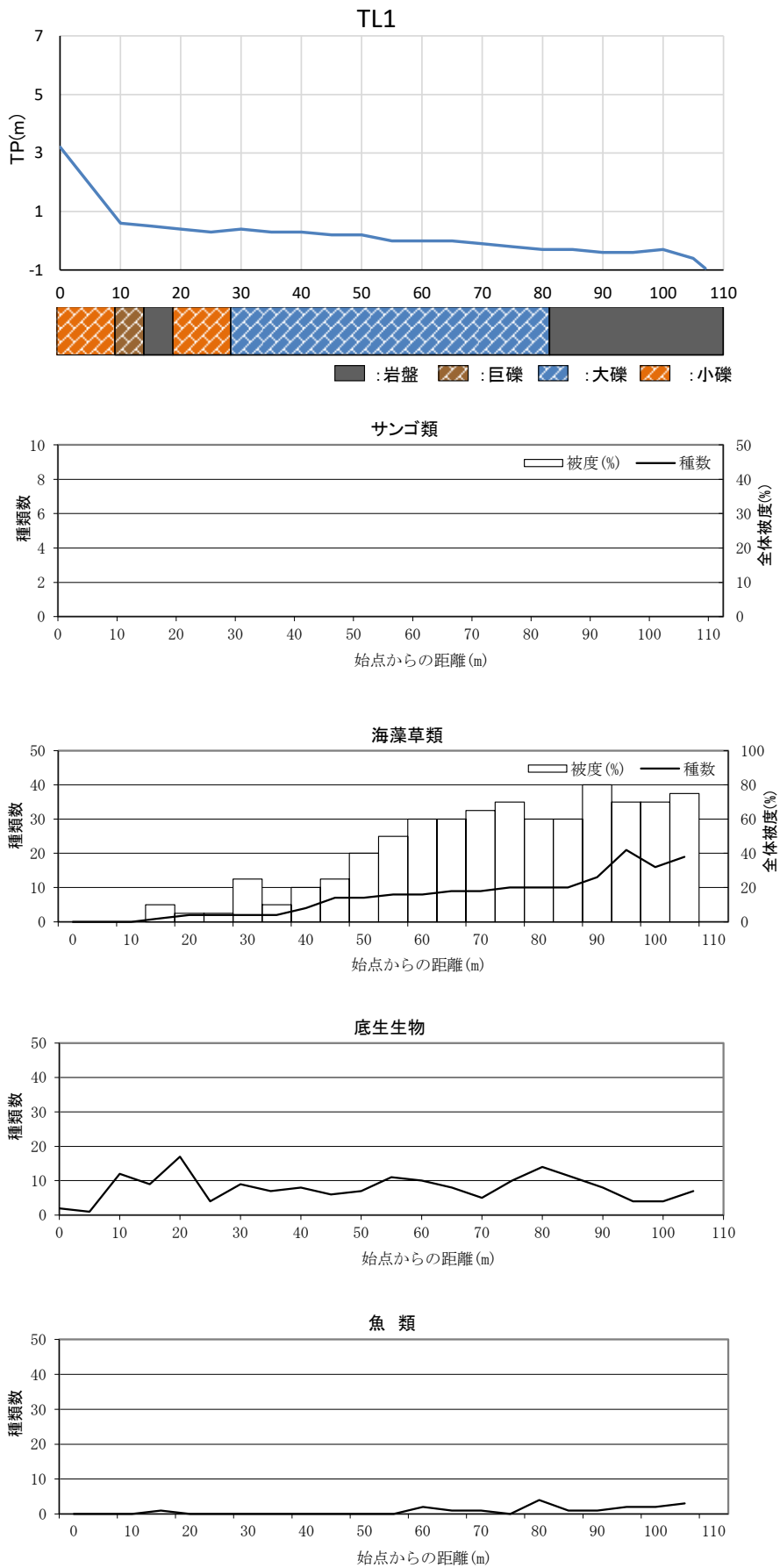


図-6.12.15 (1) 調査測線の断面模式図 (潮間帯生物ライン調査: TL1) 春季

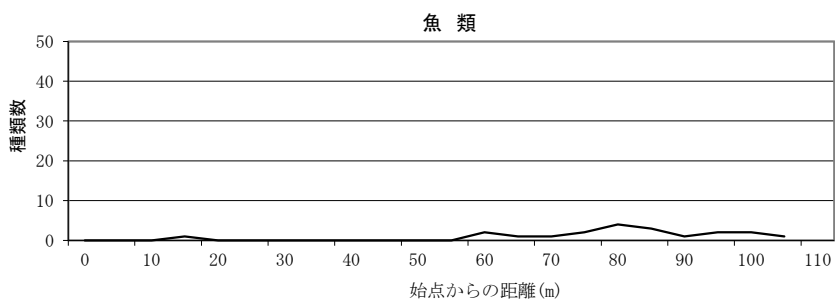
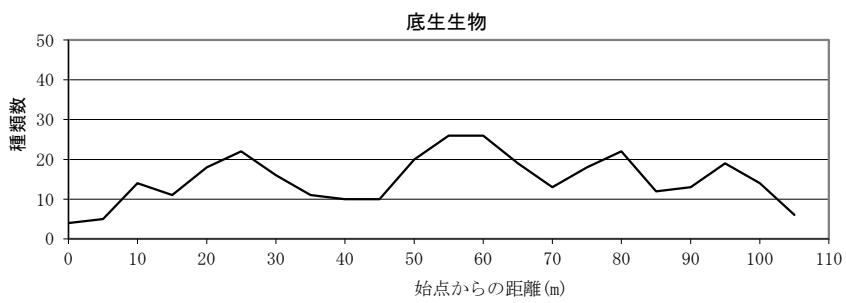
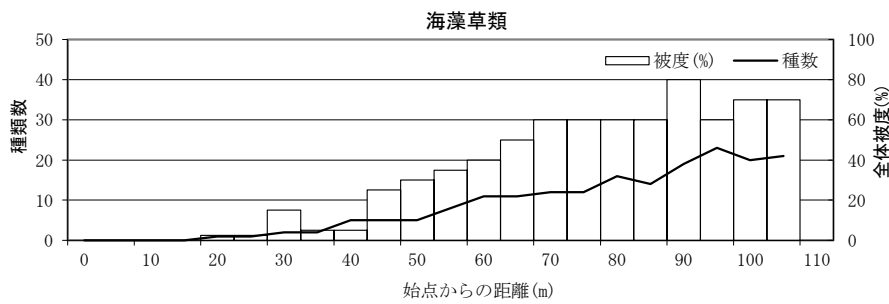
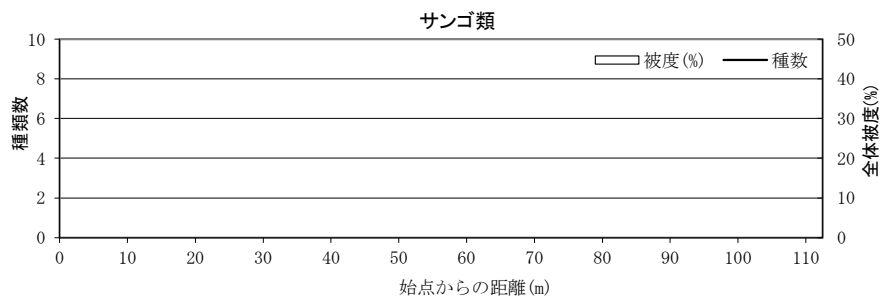
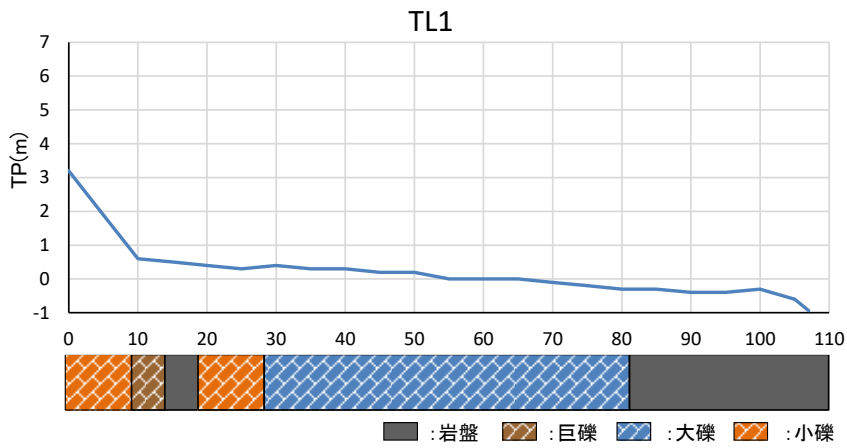


図-6.12.15 (2) 調査測線の断面模式図 (潮間帯生物ライン調査: TL1) 夏季

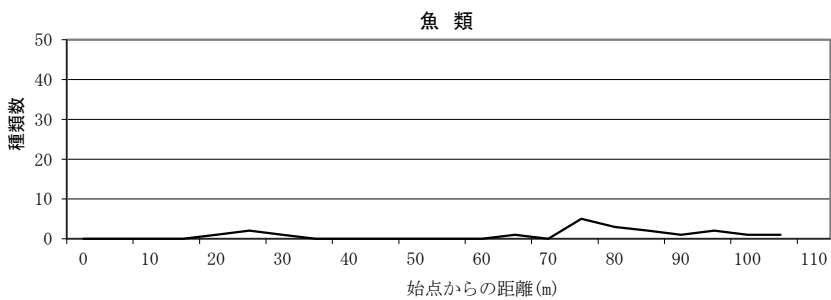
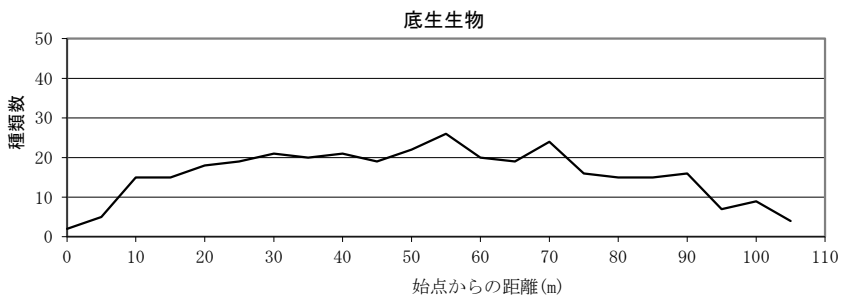
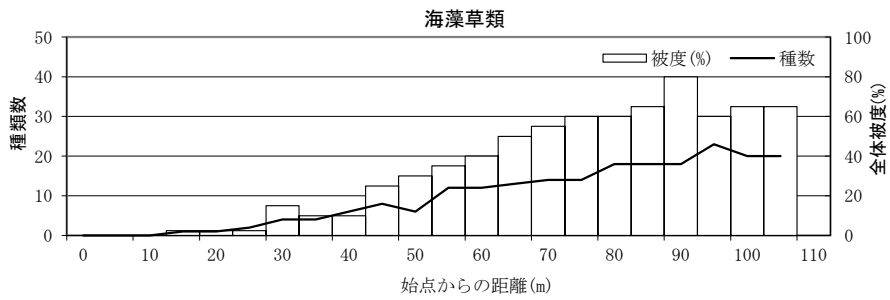
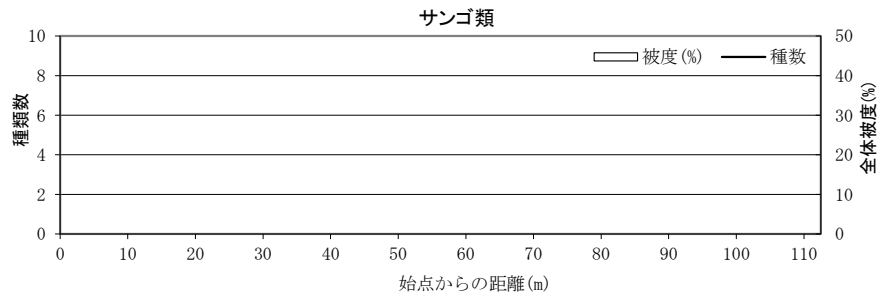
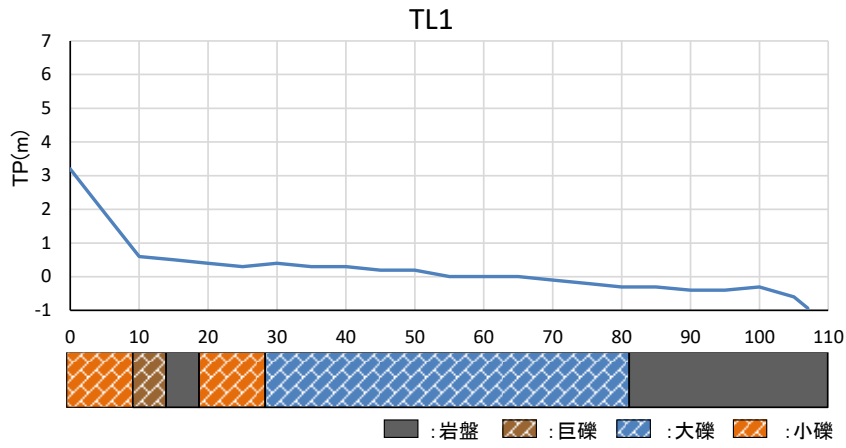


図-6.12.15 (3) 調査測線の断面模式図 (潮間帯生物ライン調査: TL1) 秋季

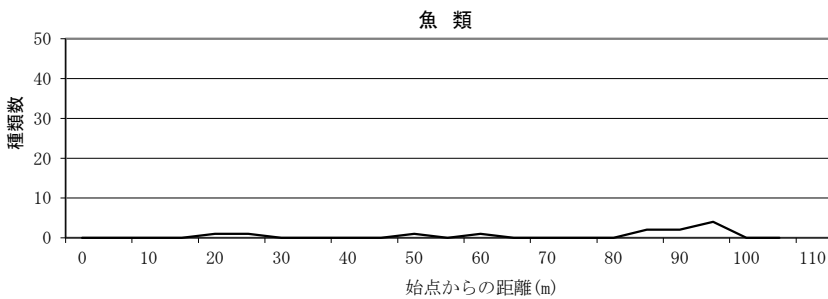
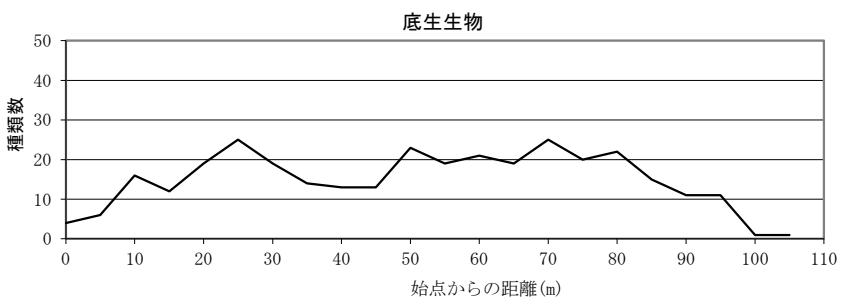
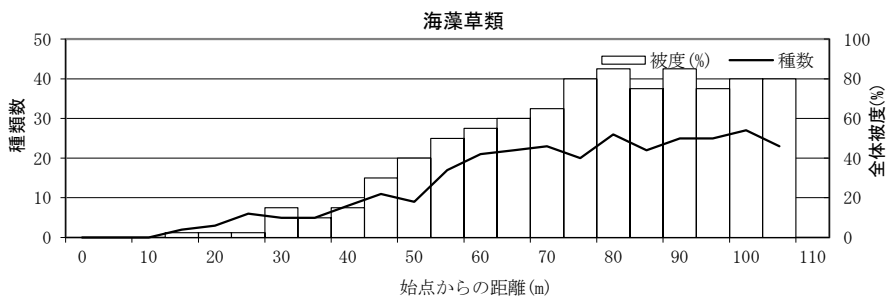
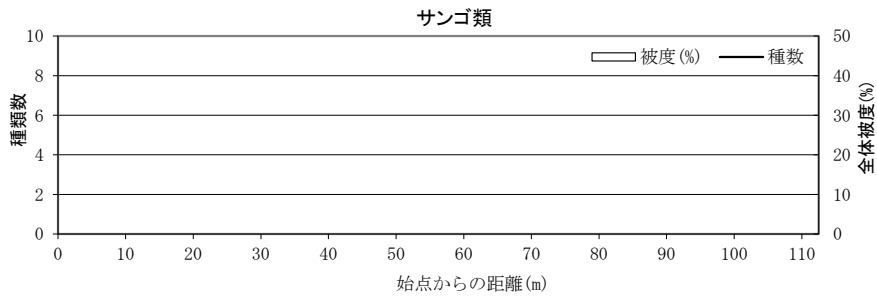
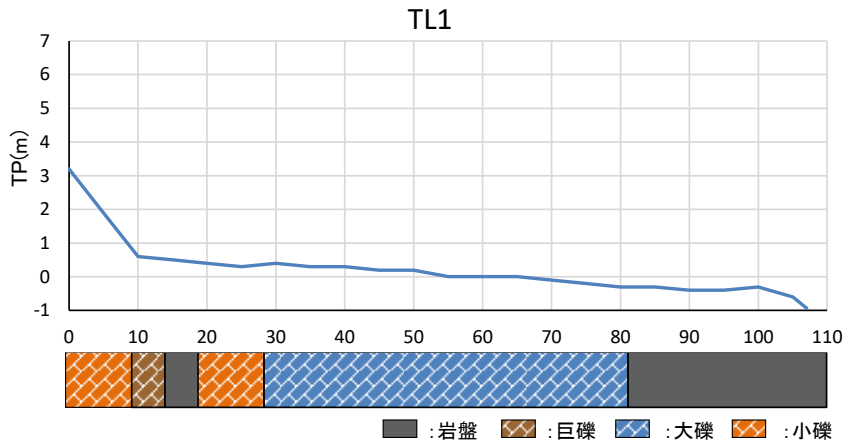


図-6.12.15 (4) 調査測線の断面模式図 (潮間帯生物ライン調査: TL1) 冬季

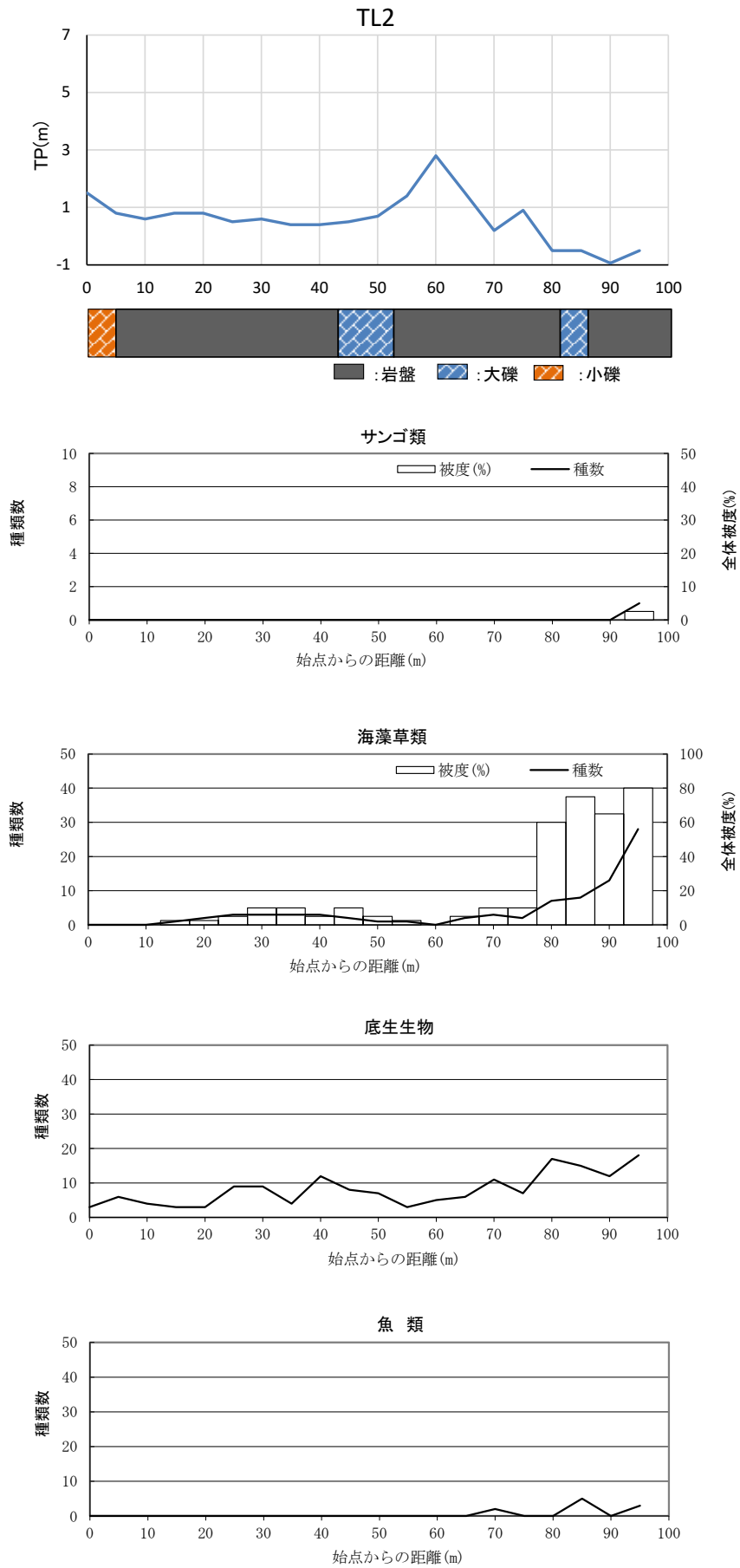


図-6.12.16 (1) 調査測線の断面模式図 (潮間帯生物ライン調査: TL2) 春季

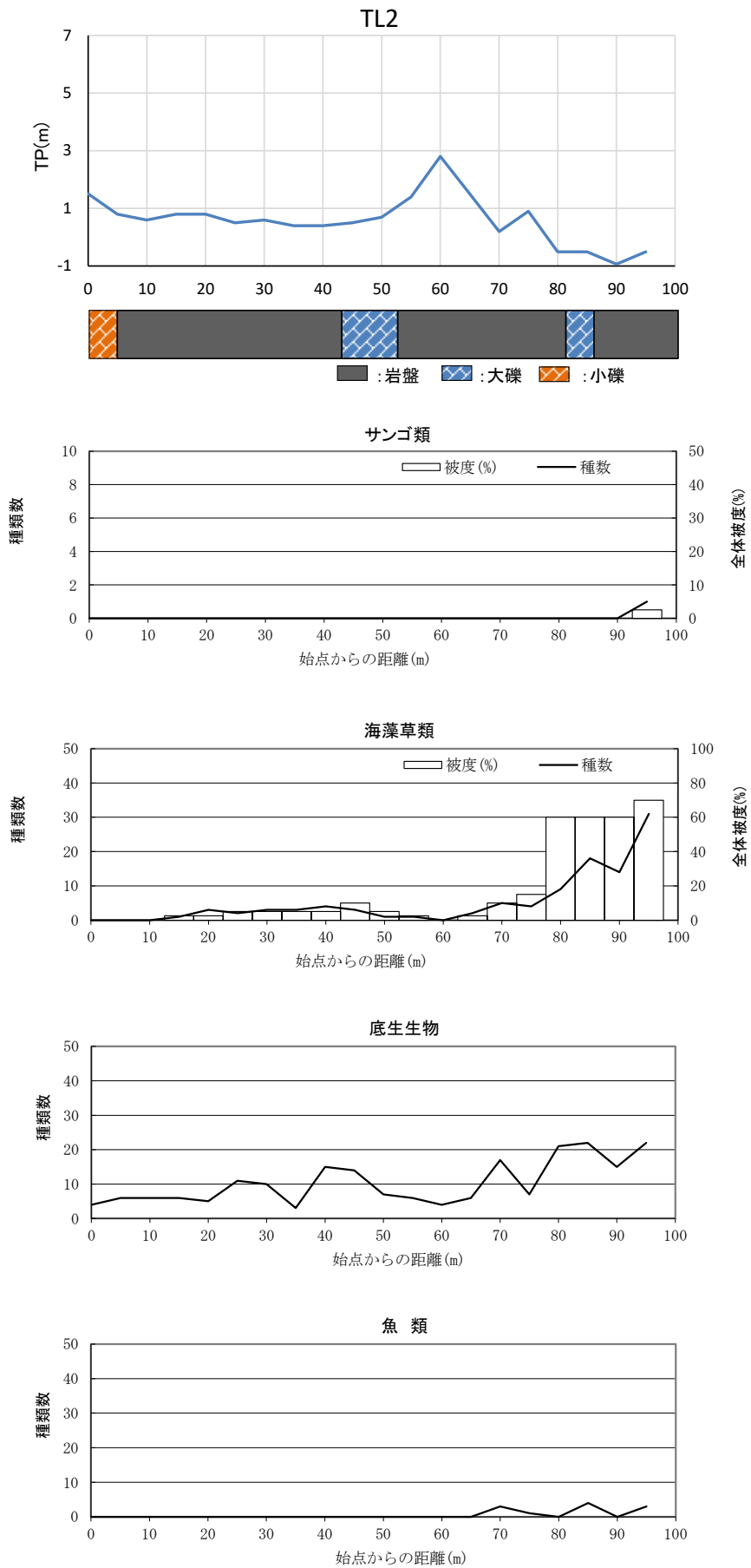


図-6.12.16 (2) 調査測線の断面模式図 (潮間帯生物ライン調査: TL2) 夏季

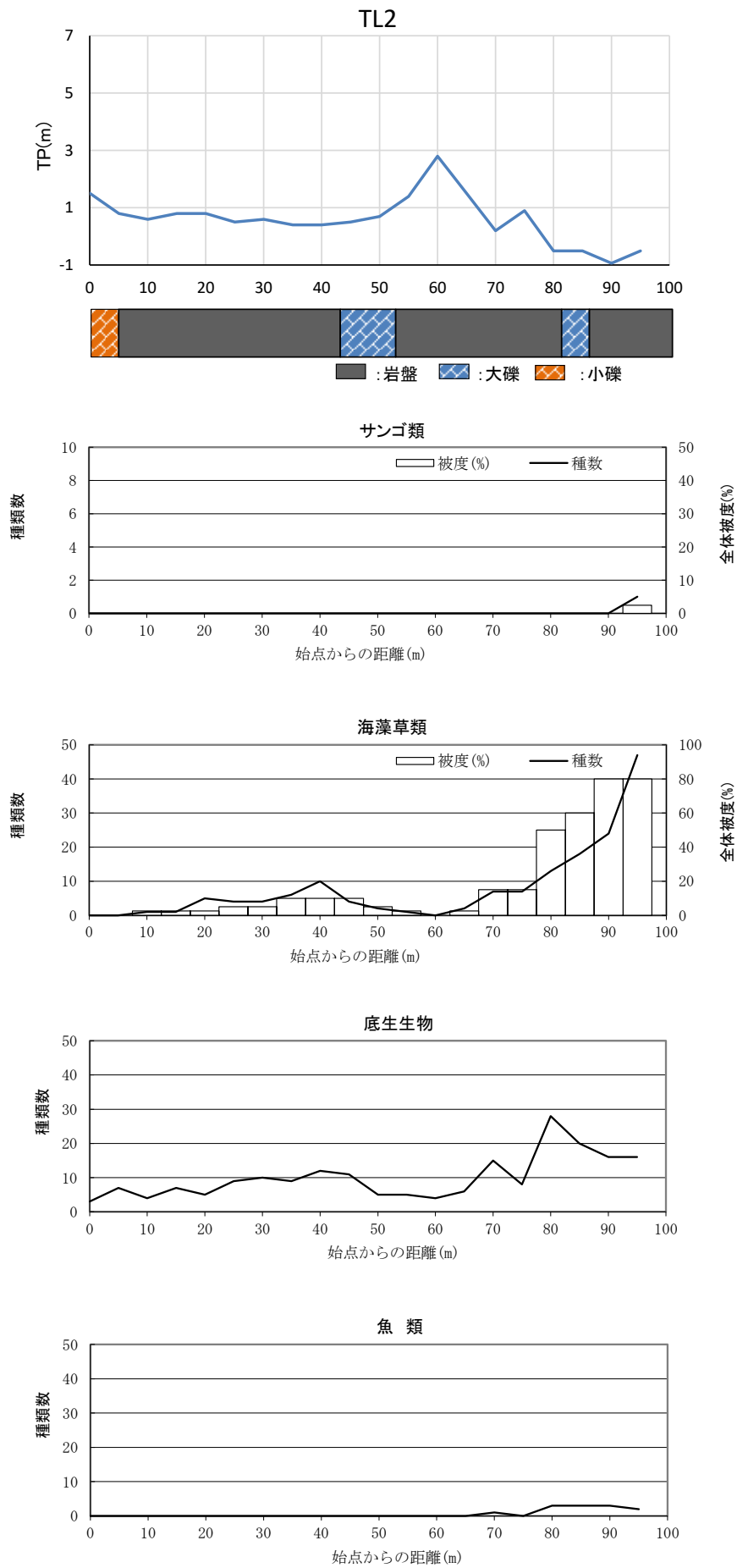


図-6.12.16 (4) 調査測線の断面模式図 (潮間帯生物ライン調査: TL2) 冬季

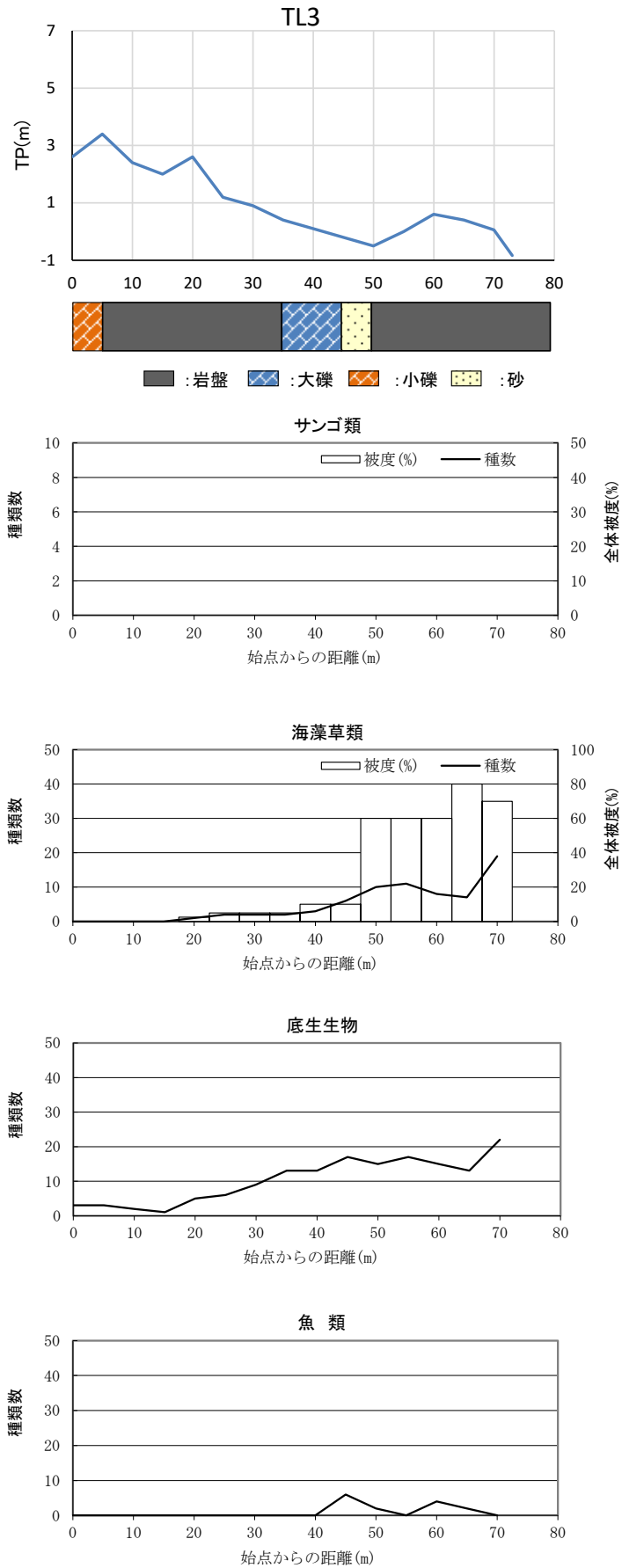


図-6.12.17 (1) 調査測線の断面模式図 (潮間帯生物ライン調査: TL3) 春季

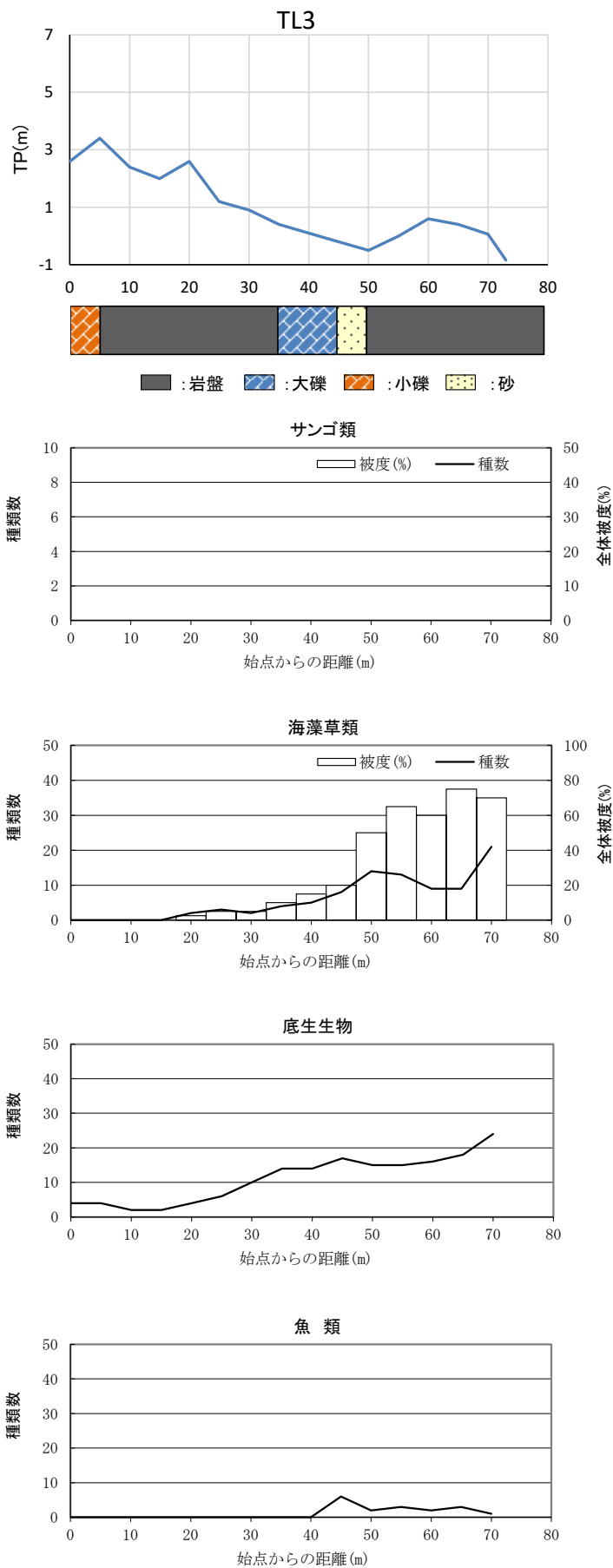


図-6.12.17 (2) 調査測線の断面模式図 (潮間帯生物ライン調査: TL3) 夏季

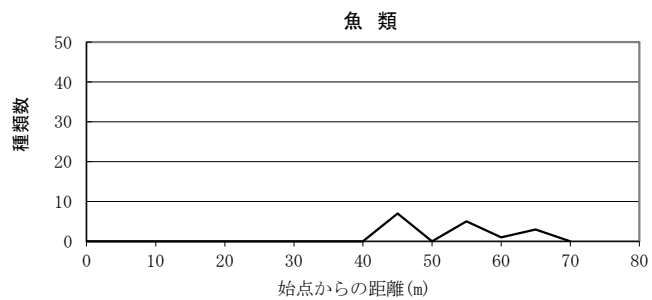
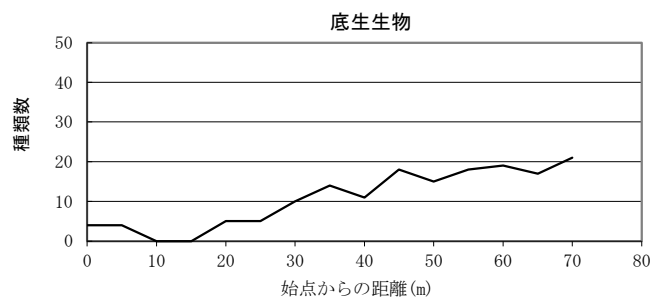
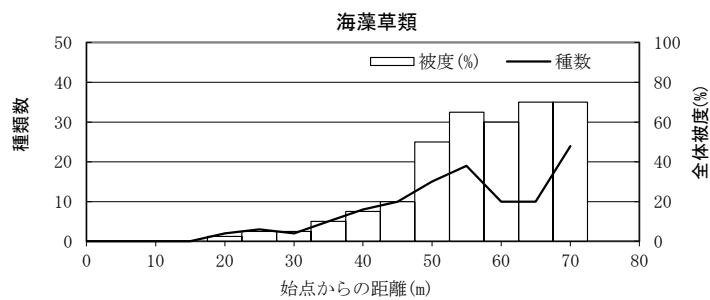
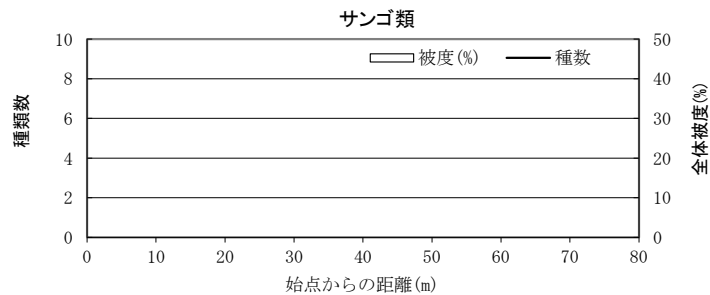
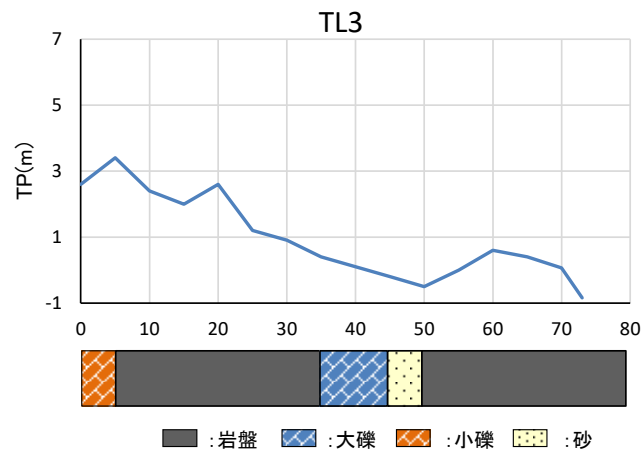


図-6.12.17 (3) 調査測線の断面模式図 (潮間帯生物ライン調査: TL3) 秋季

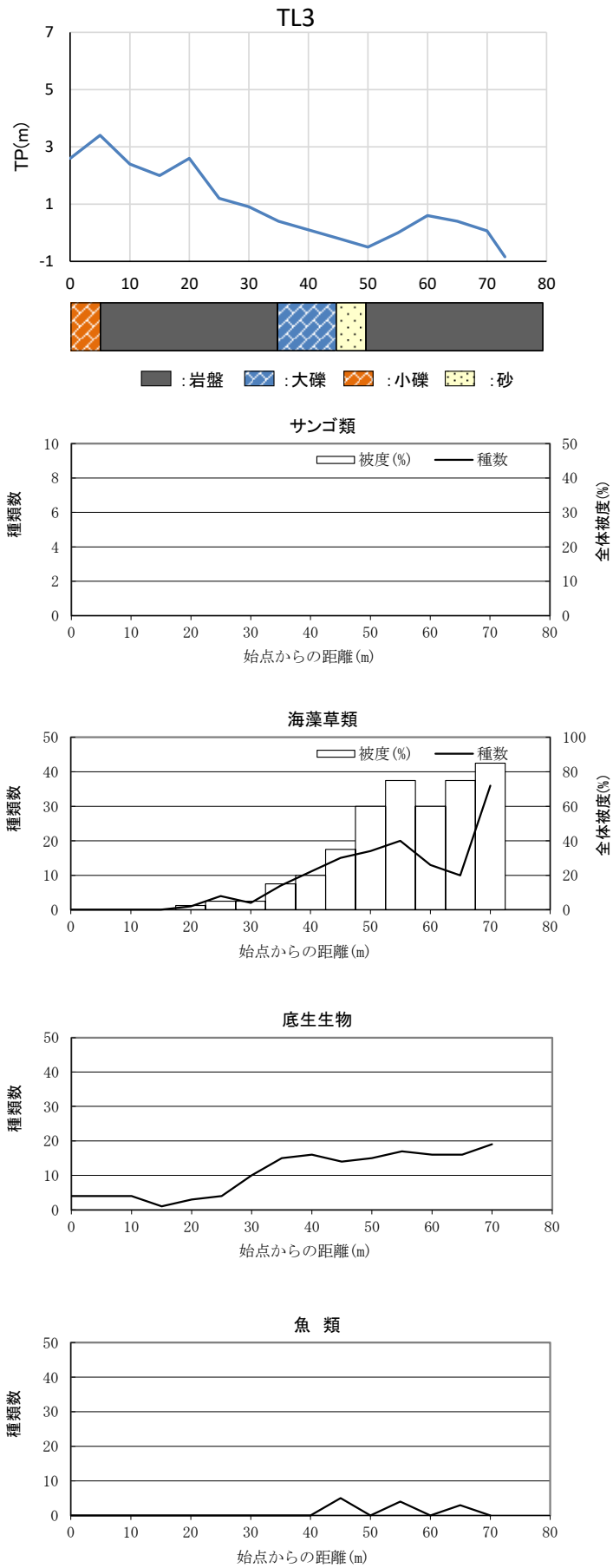


図-6.12.17 (4) 調査測線の断面模式図 (潮間帯生物ライン調査: TL3) 冬季

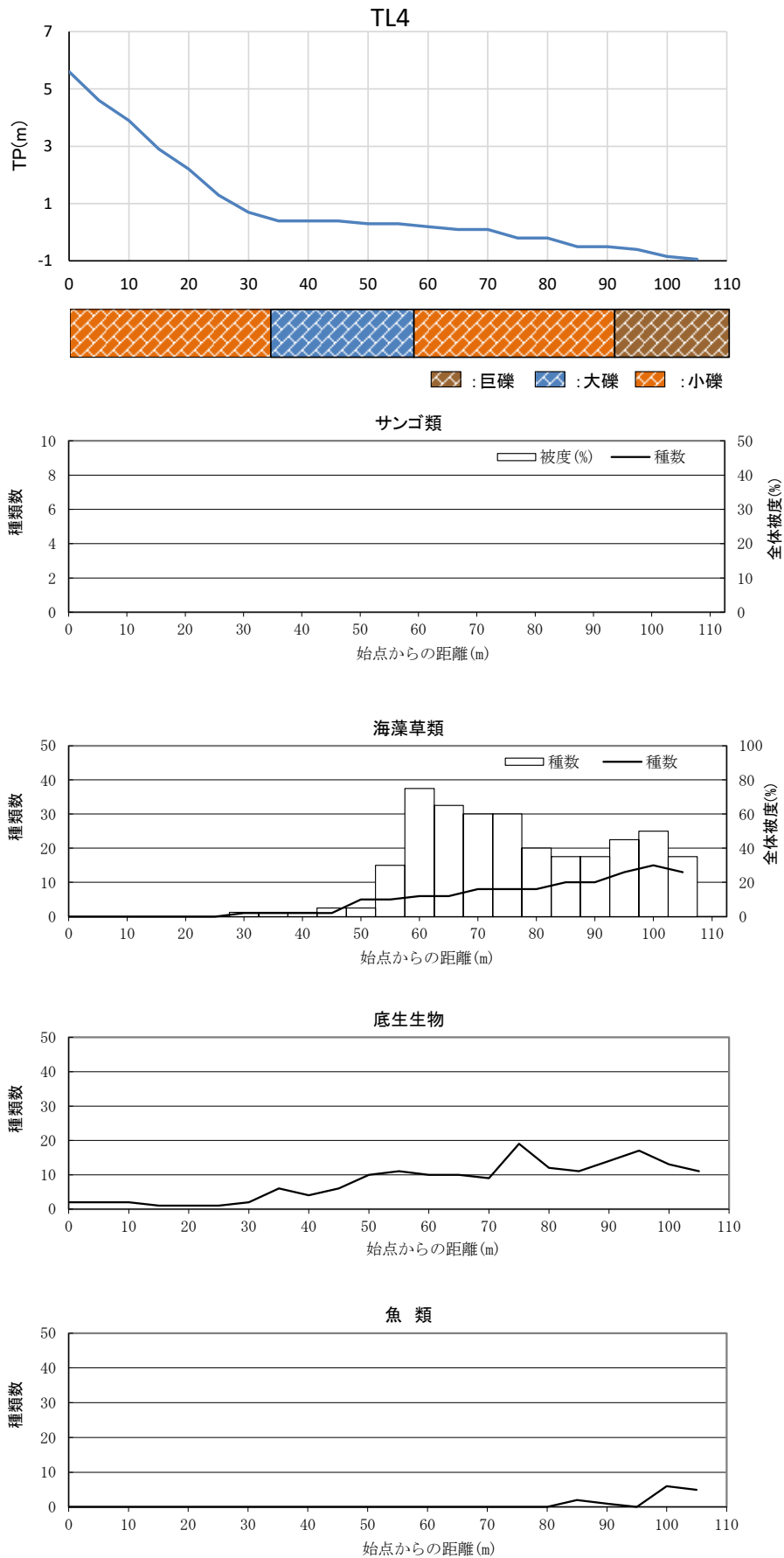


図-6.12.18 (1) 調査測線の断面模式図 (潮間帯生物ライン調査: TL4) 春季

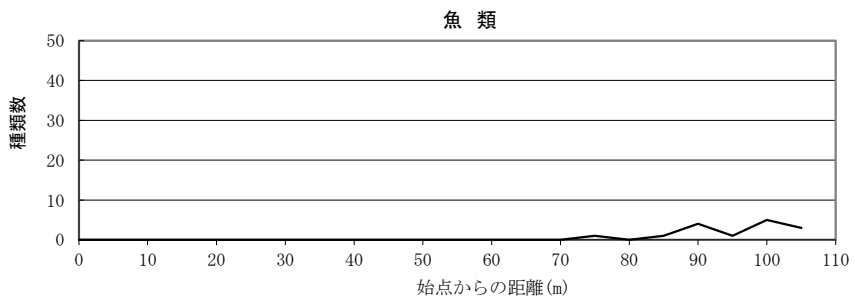
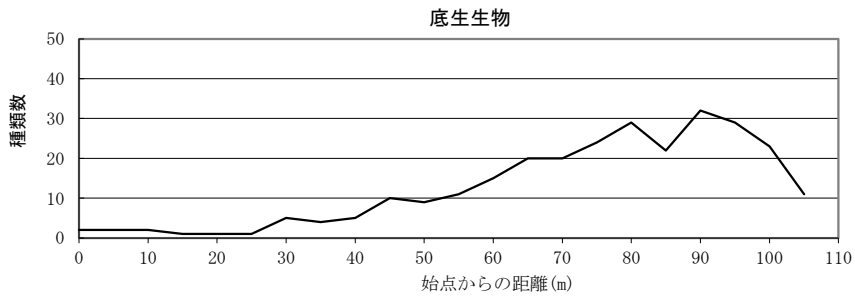
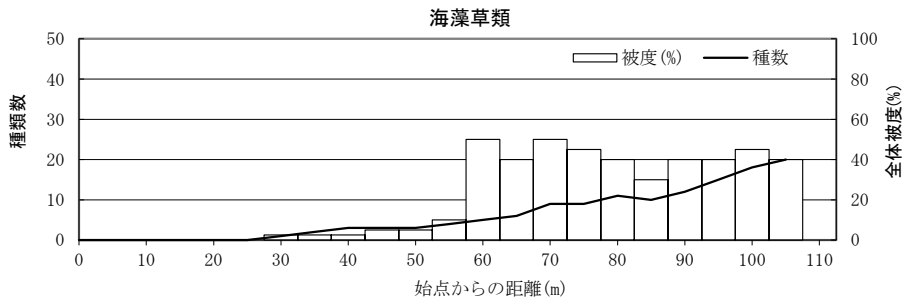
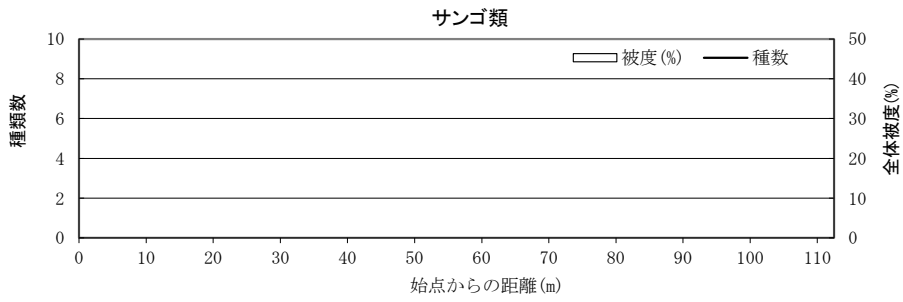
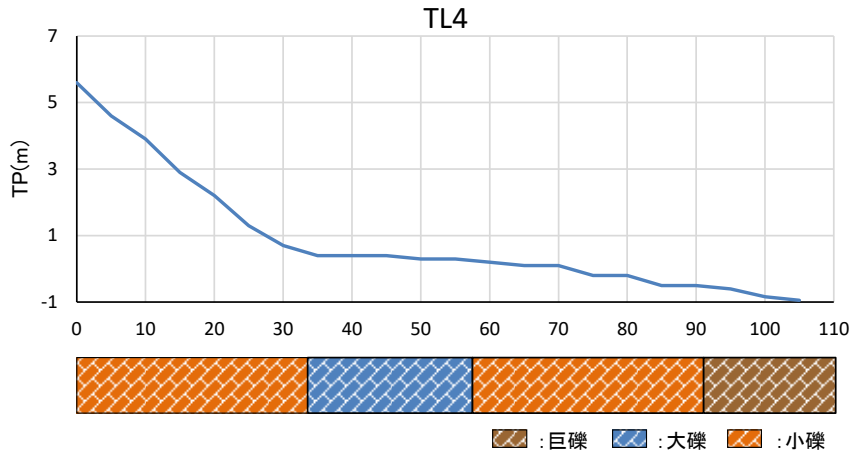


図-6.12.18 (2) 調査測線の断面模式図 (潮間帯生物ライン調査: TL4) 夏季

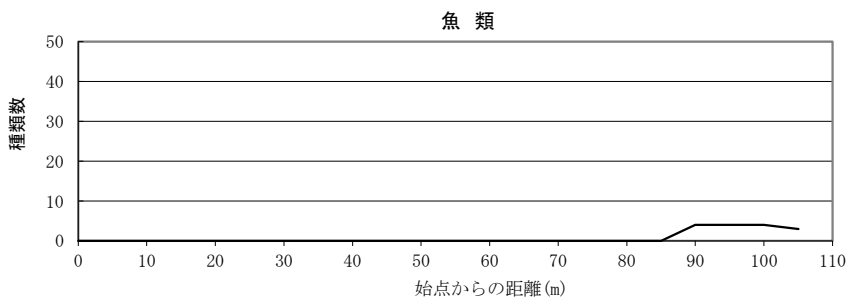
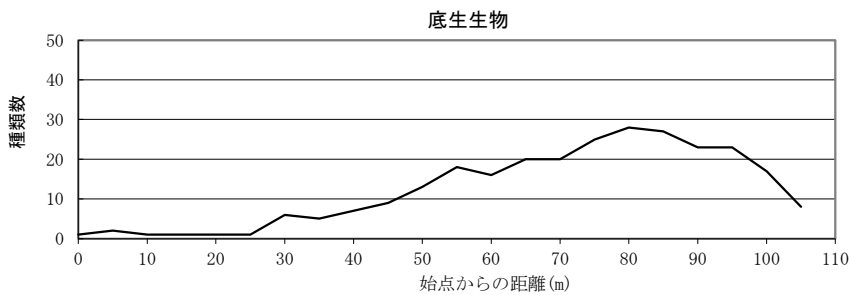
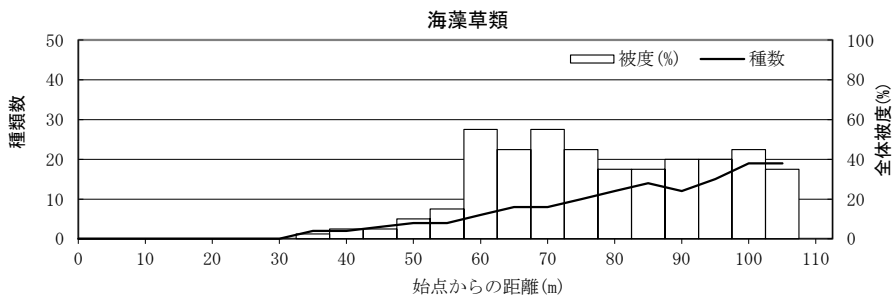
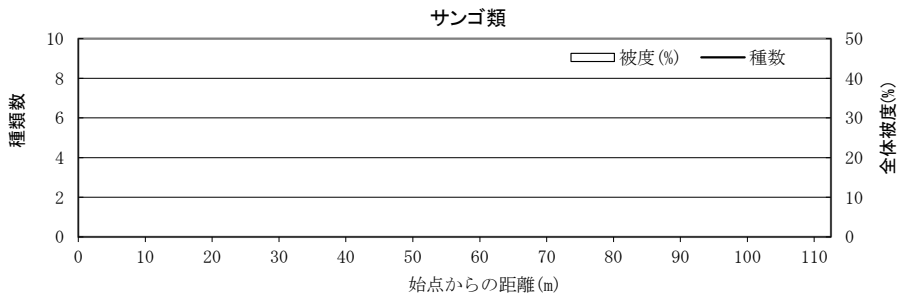
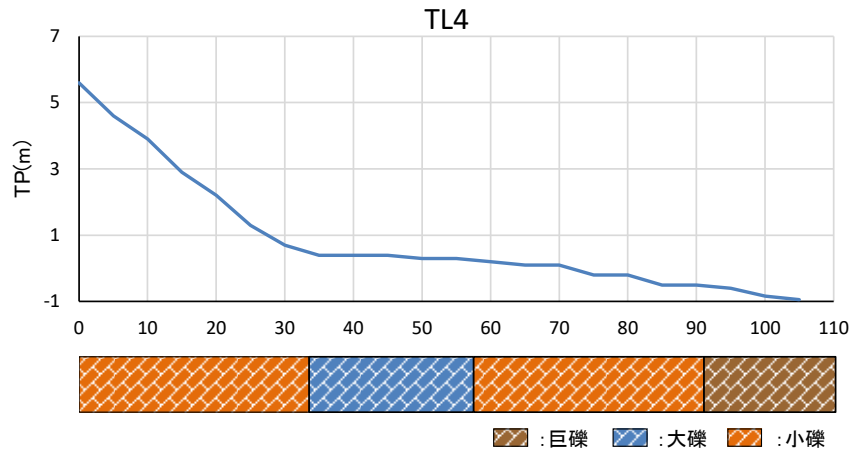


図-6.12.18 (3) 調査測線の断面模式図 (潮間帯生物ライン調査: TL4) 秋季

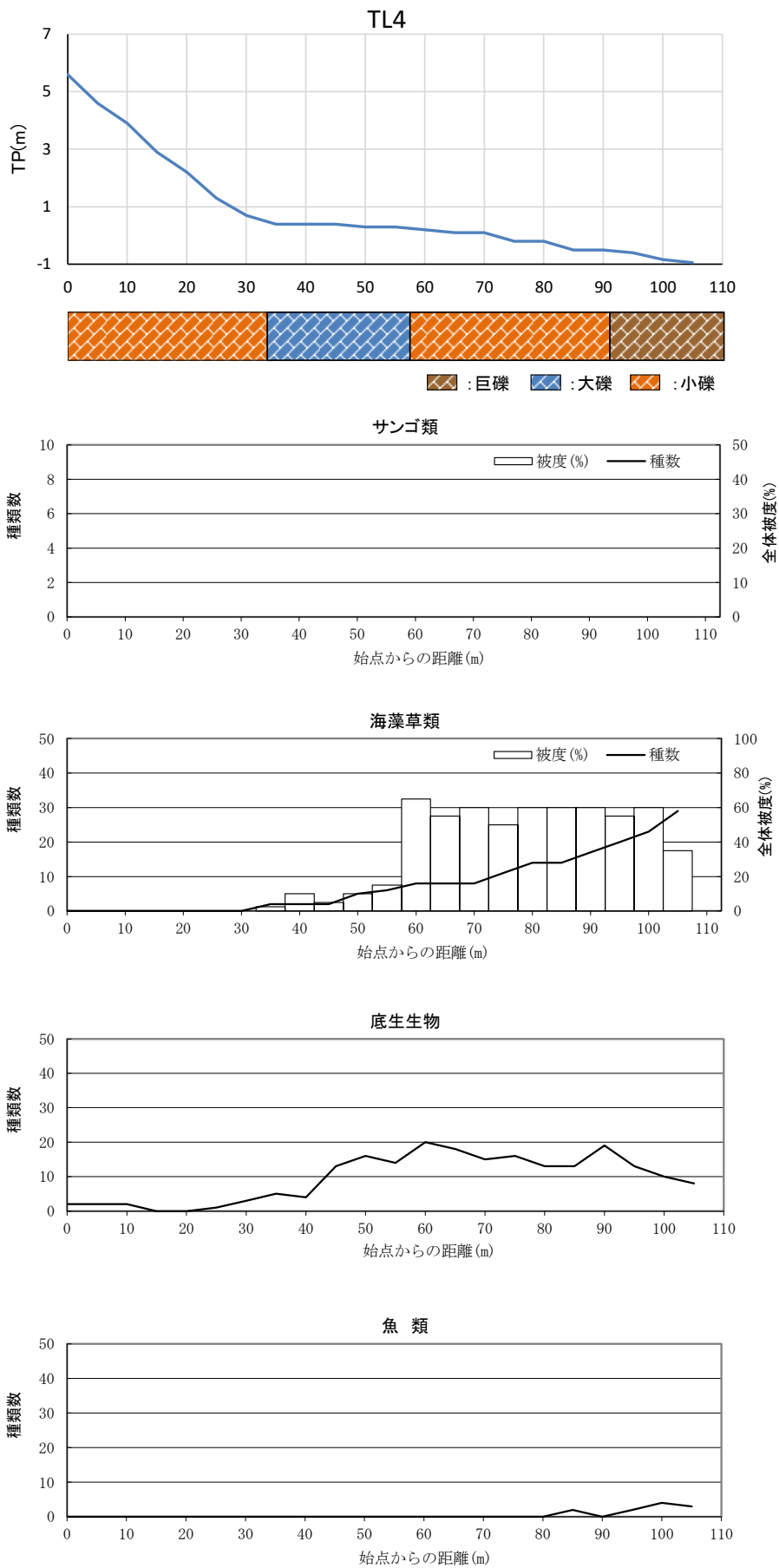


図-6.12.18 (4) 調査測線の断面模式図 (潮間帯生物ライン調査: TL4) 冬季

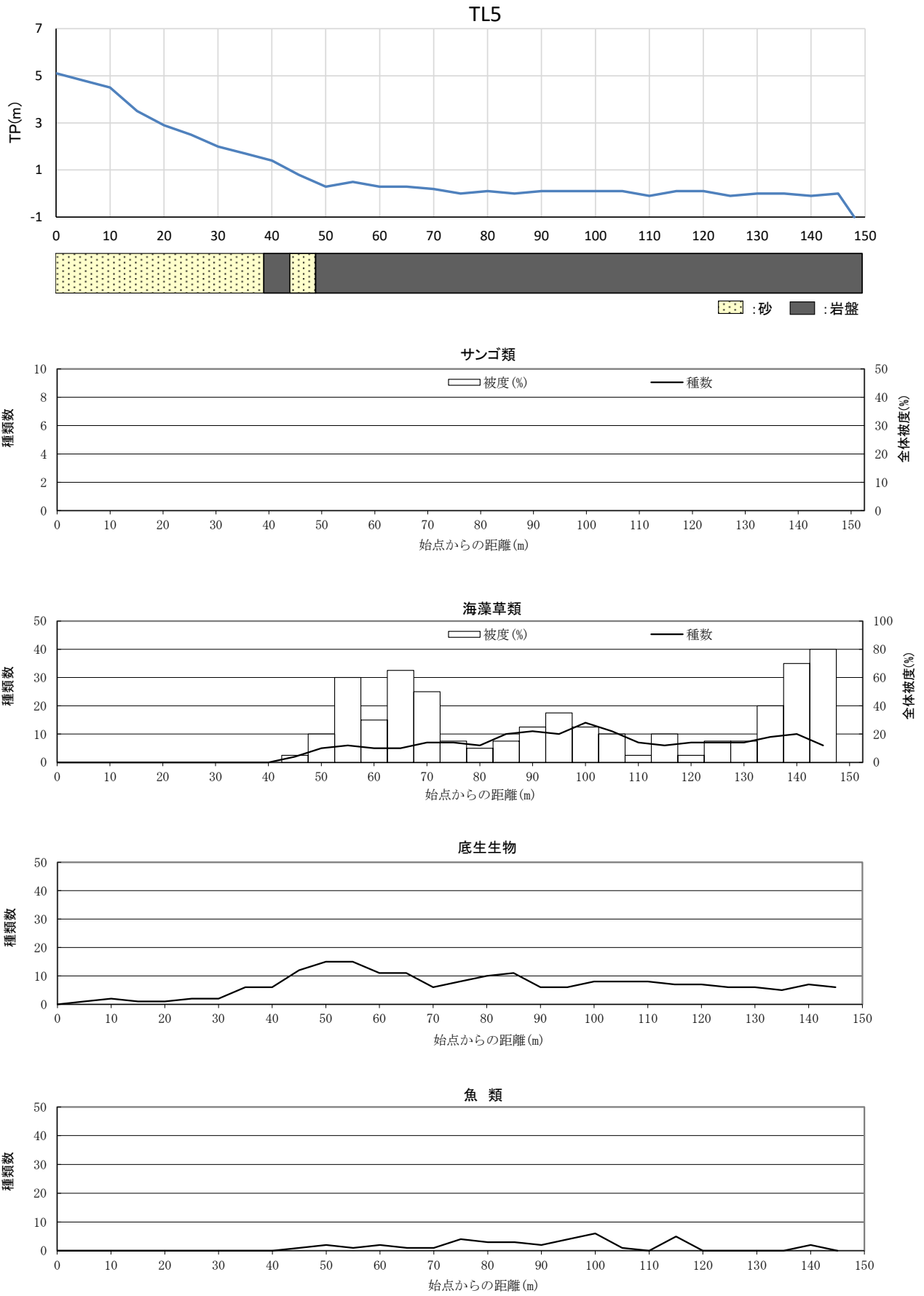


図-6.12.19 (1) 調査測線の断面模式図 (潮間帯生物ライン調査: TL5) 春季

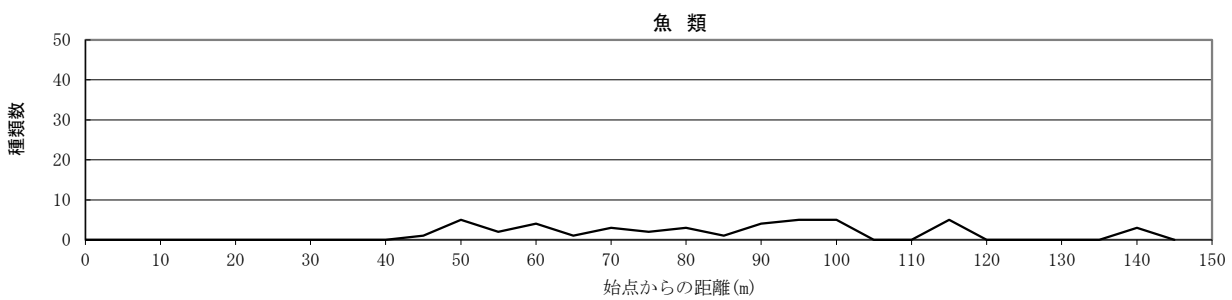
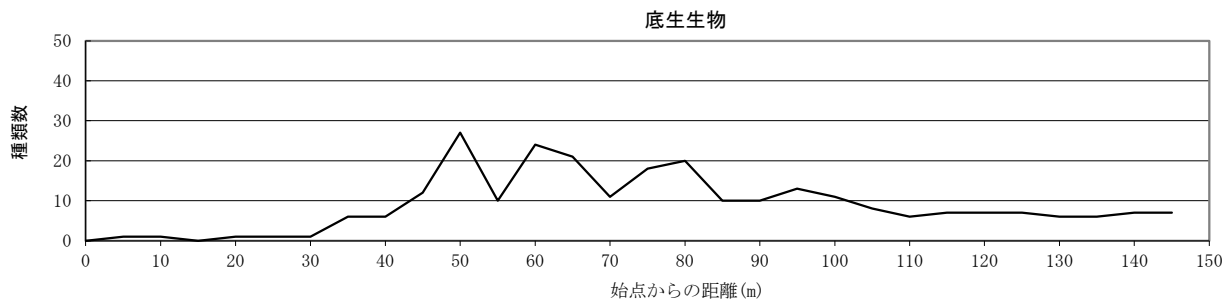
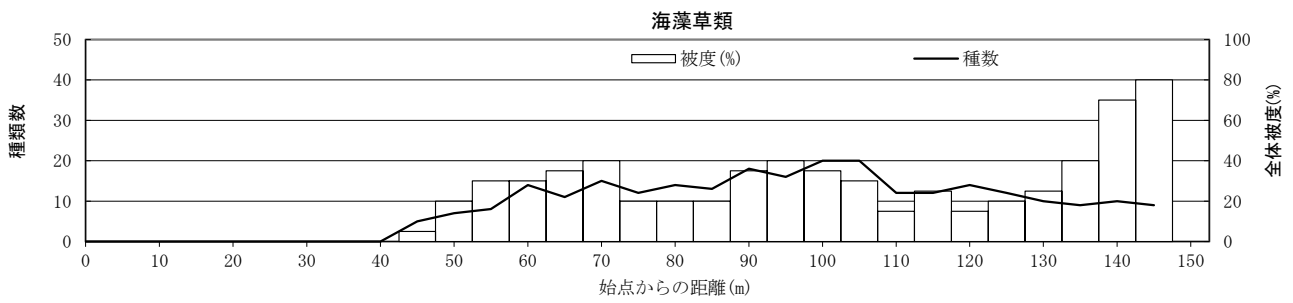
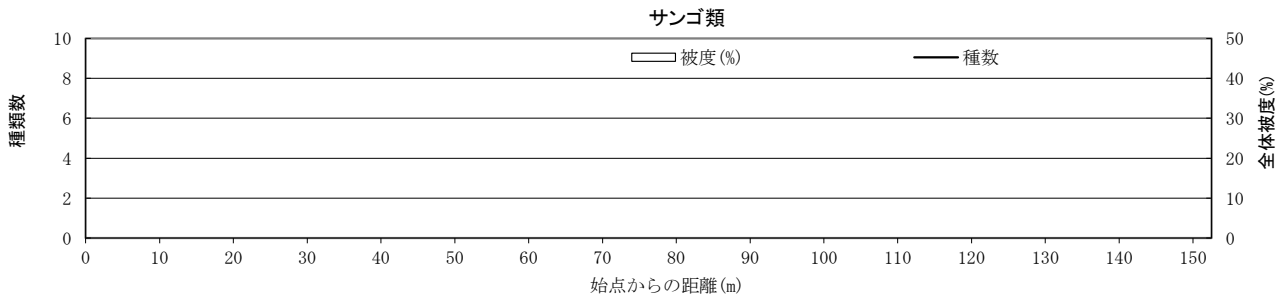
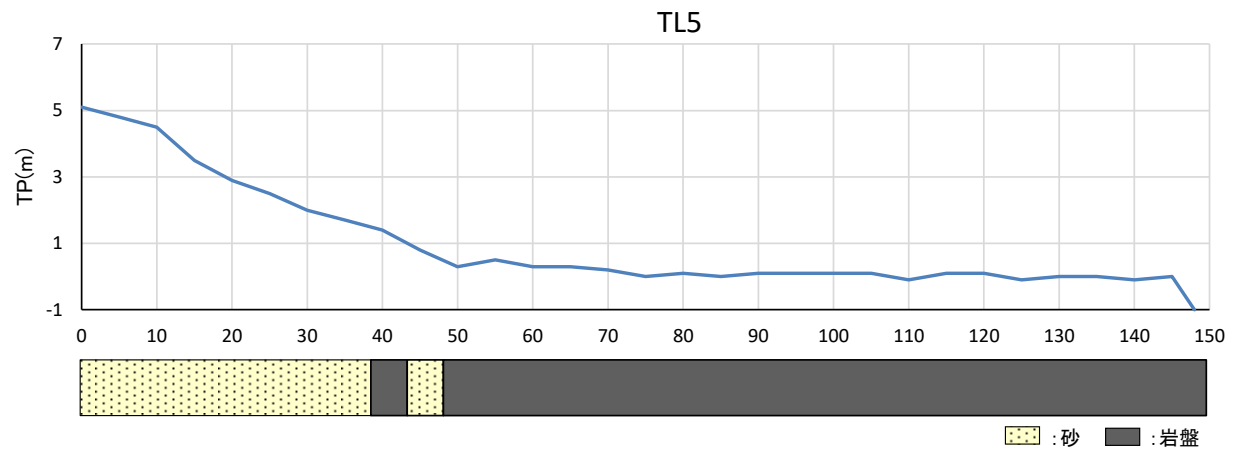


図-6.12.19 (2) 調査測線の断面模式図 (潮間帯生物ライン調査: TL5) 夏季

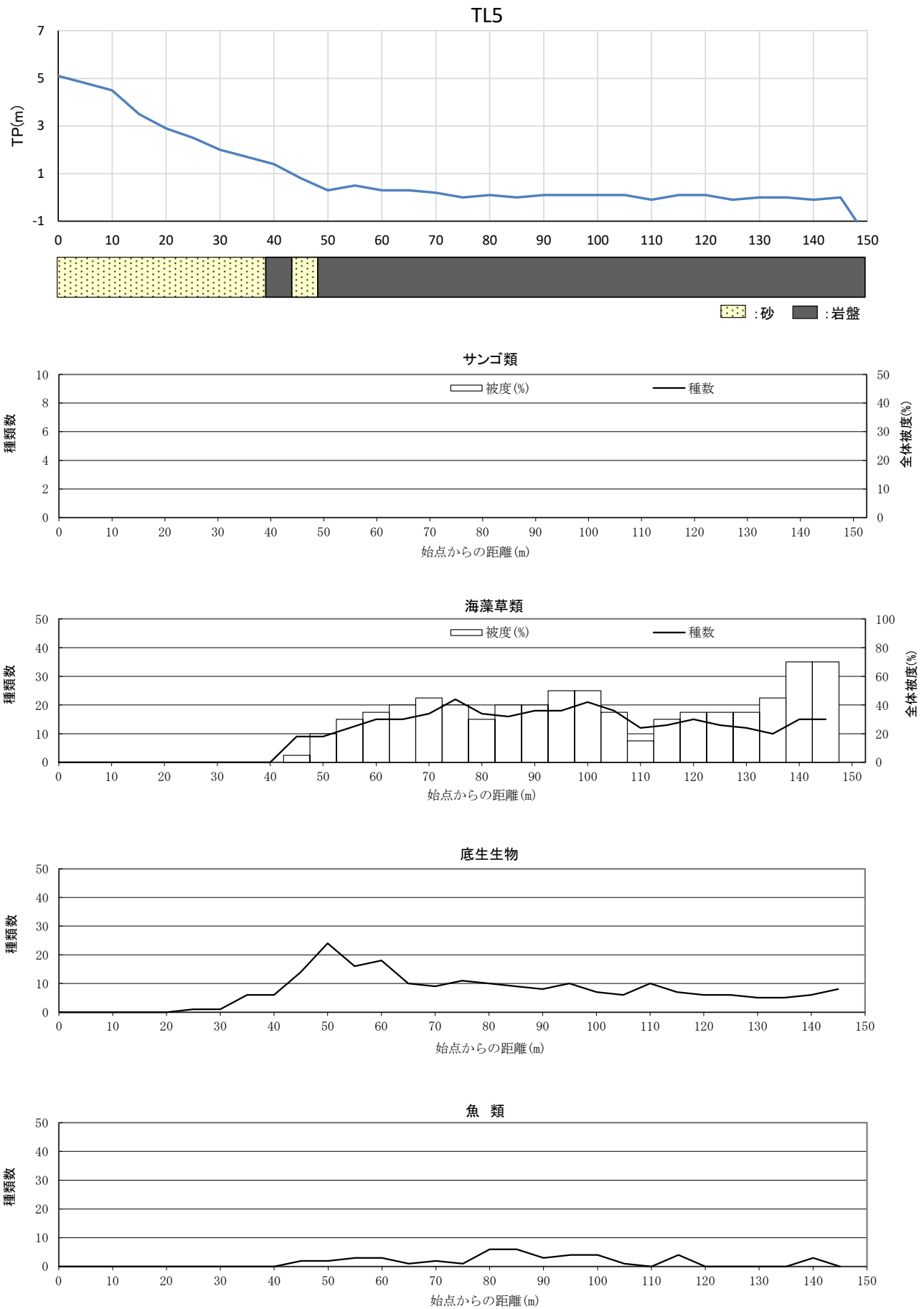


図-6.12.19 (3) 調査測線の断面模式図 (潮間帯生物ライン調査: TL5) 秋季

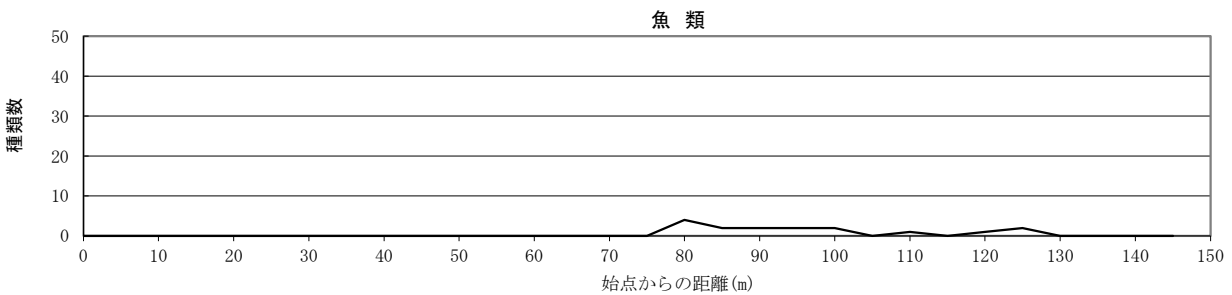
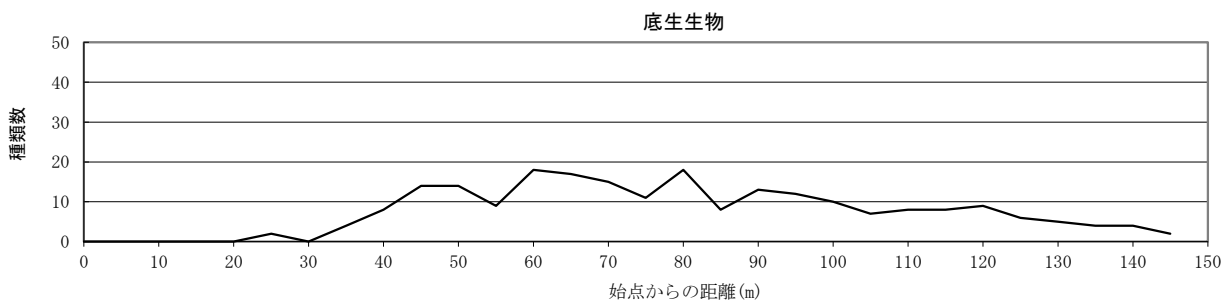
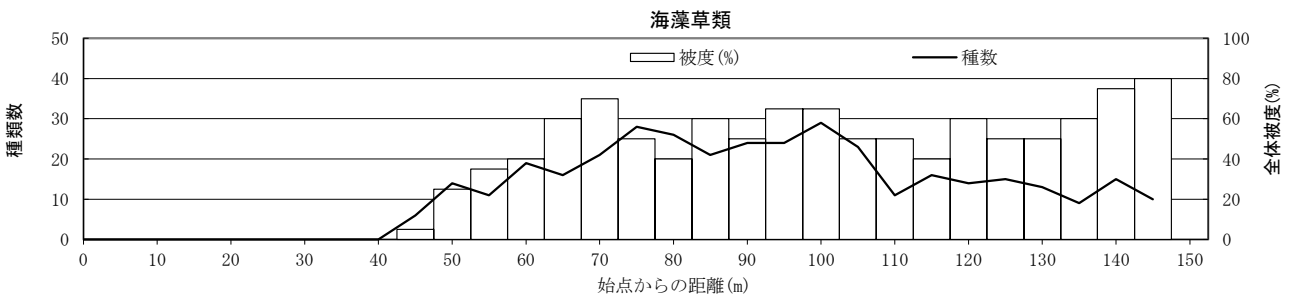
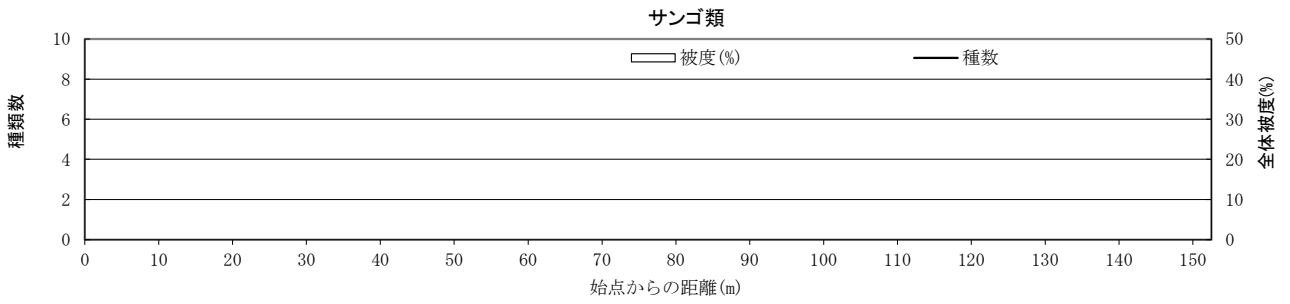
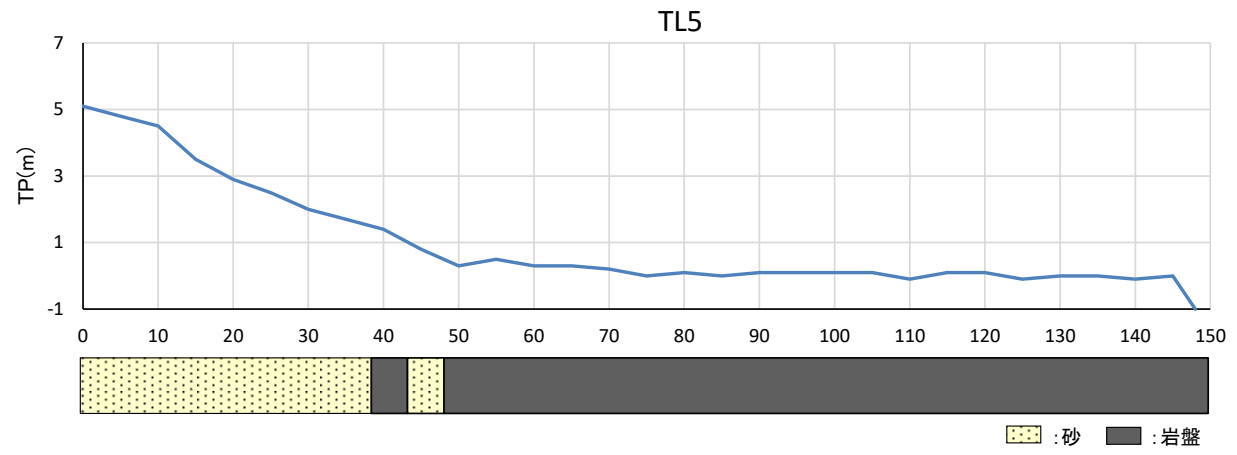


図-6.12.19 (4) 調査測線の断面模式図 (潮間帯生物ライン調査: TL5) 冬季

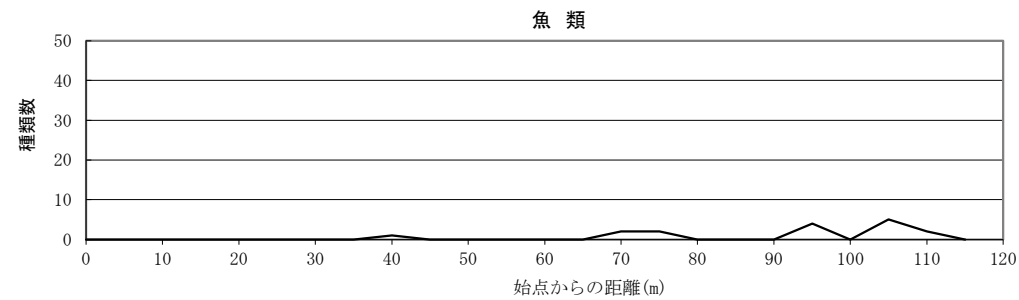
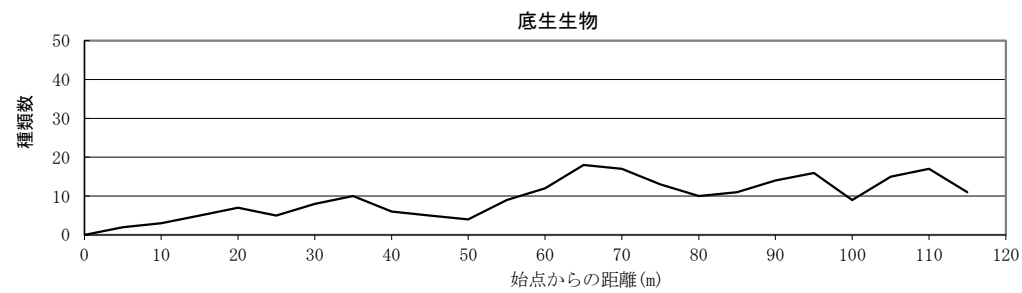
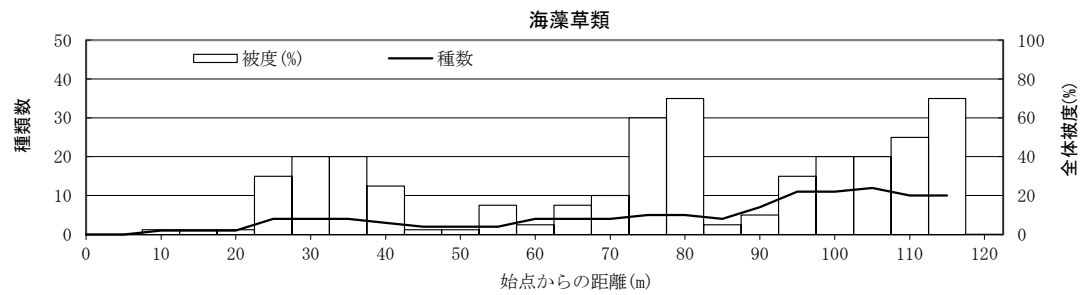
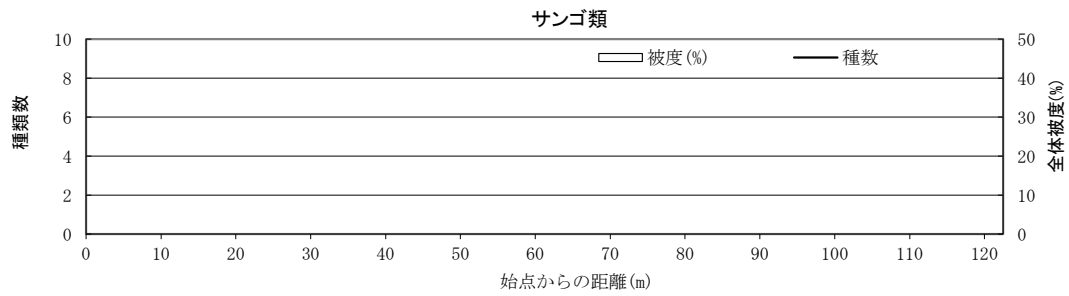
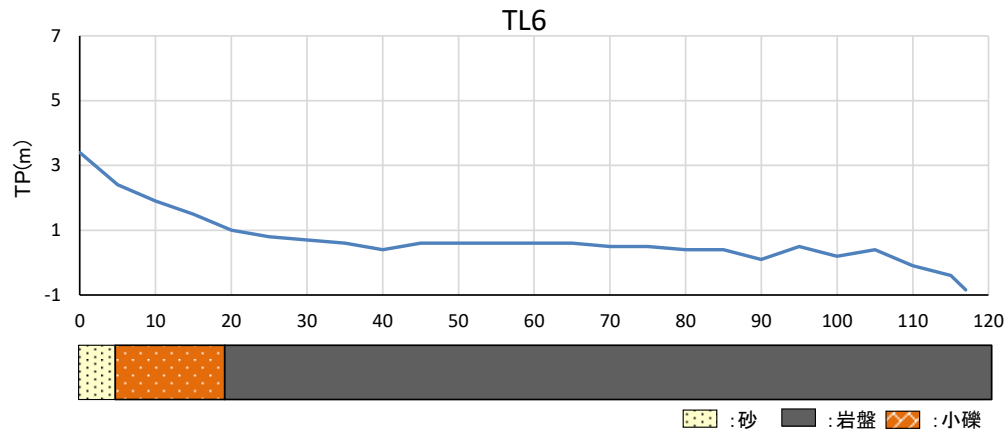


図-6.12.20 (1) 調査測線の断面模式図 (潮間帯生物ライン調査: TL6) 春季

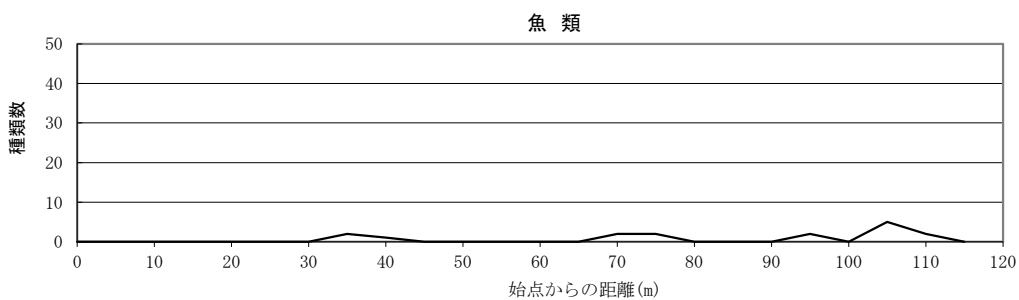
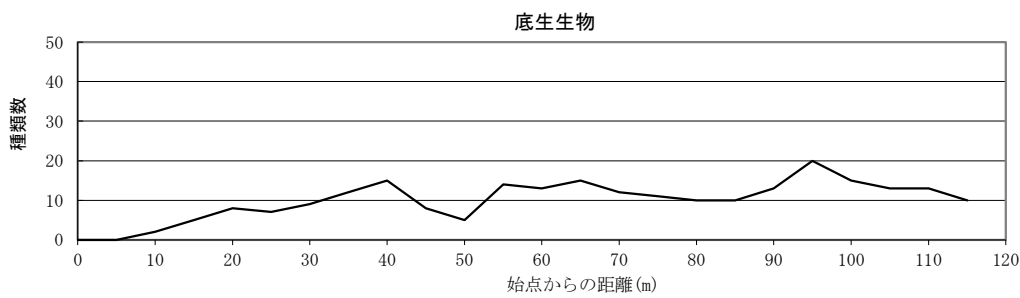
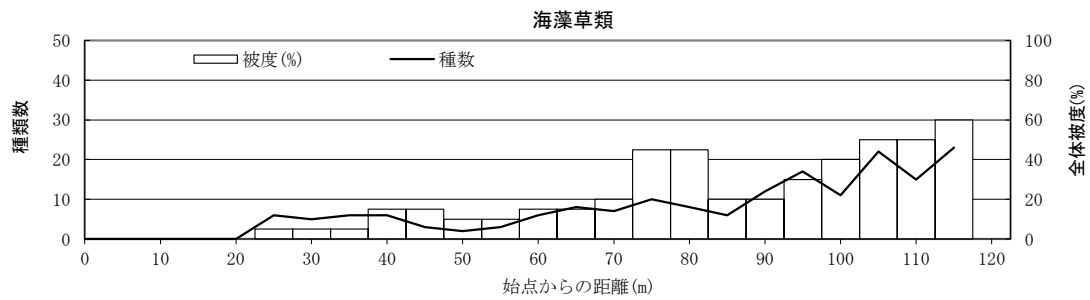
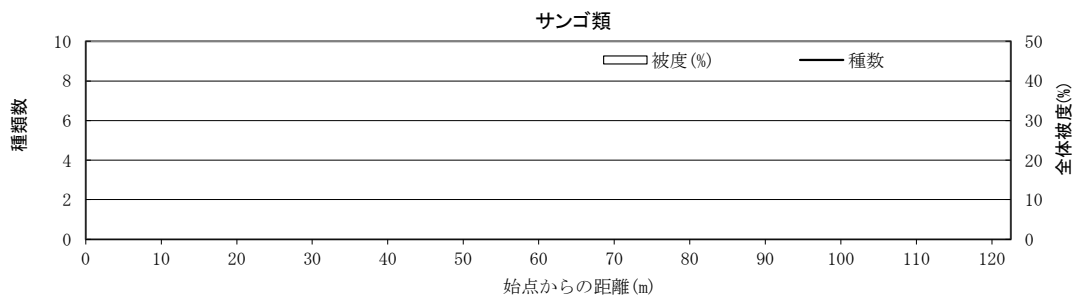
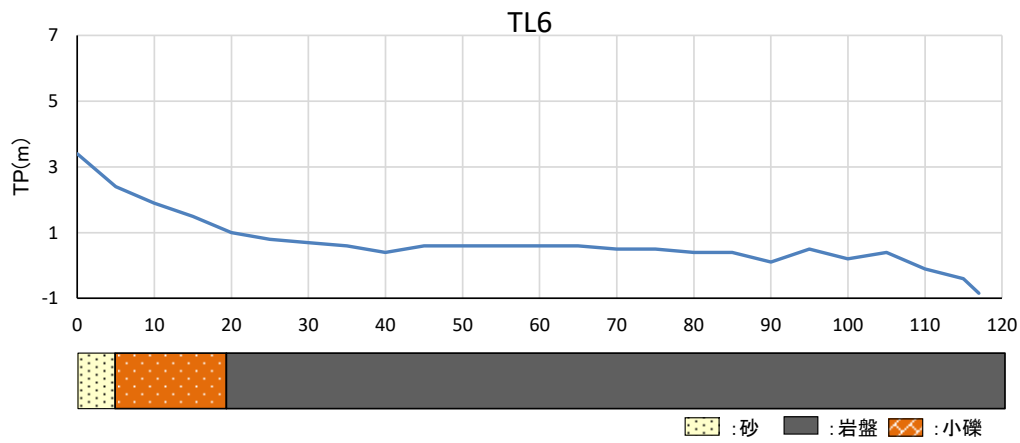


図-6.12.20 (2) 調査測線の断面模式図 (潮間帯生物ライン調査: TL6) 夏季

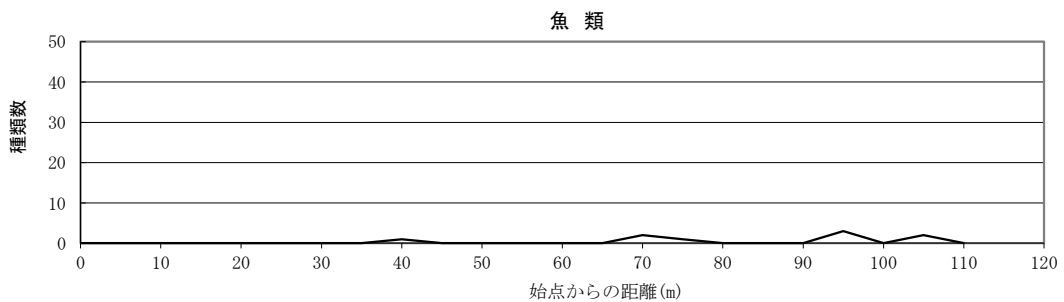
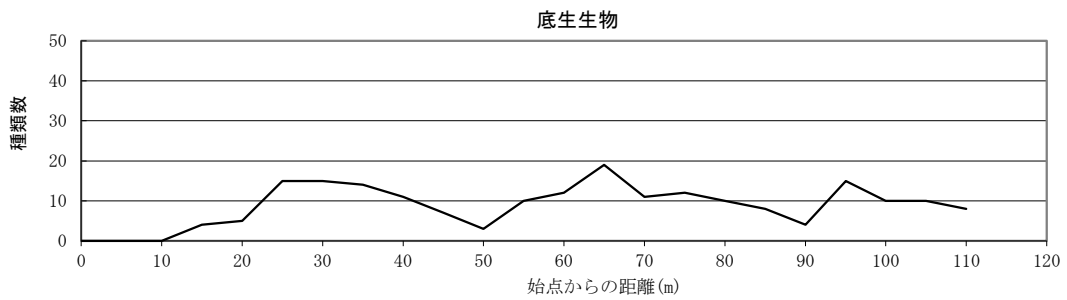
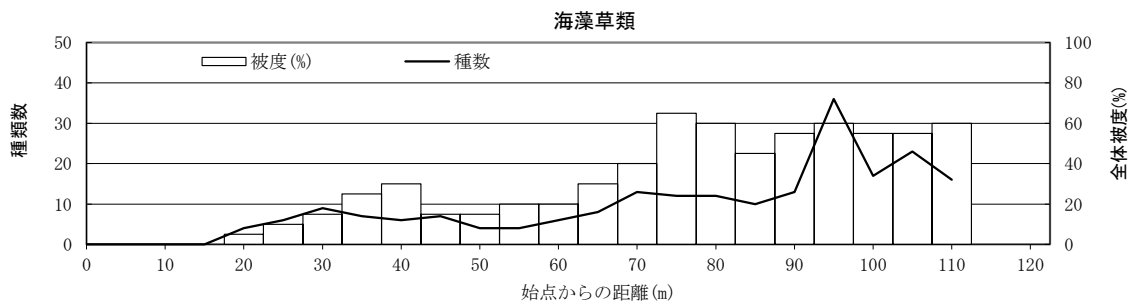
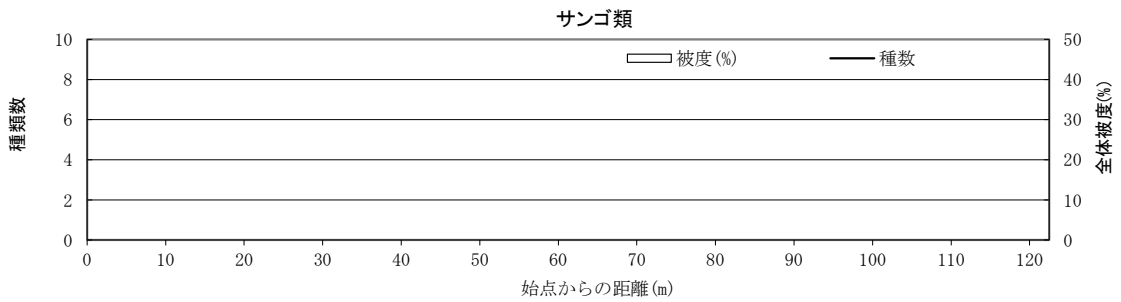
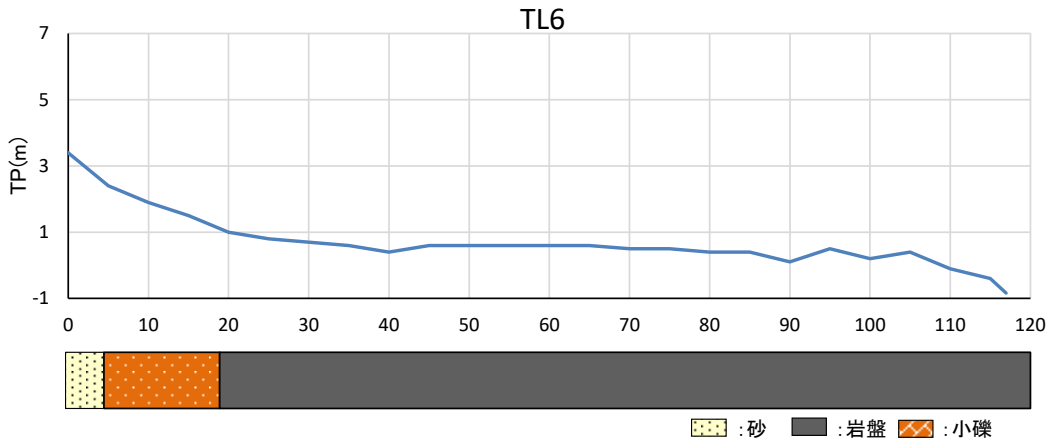


図-6.12.20 (4) 調査測線の断面模式図 (潮間帯生物ライン調査: TL6) 冬季

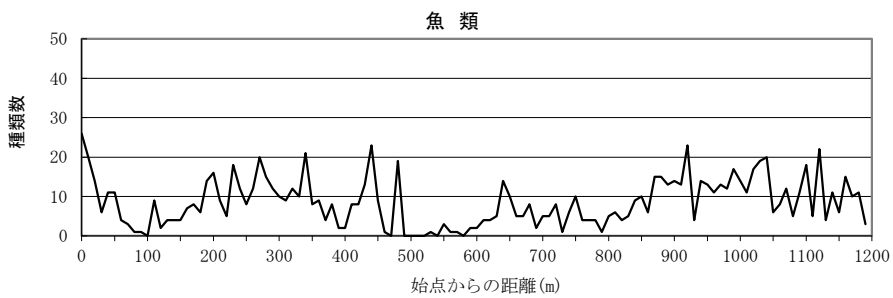
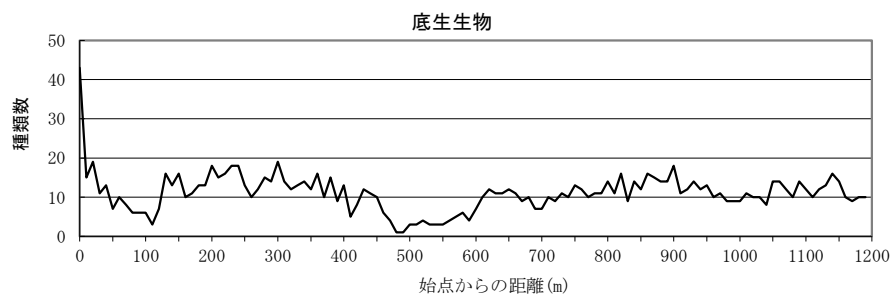
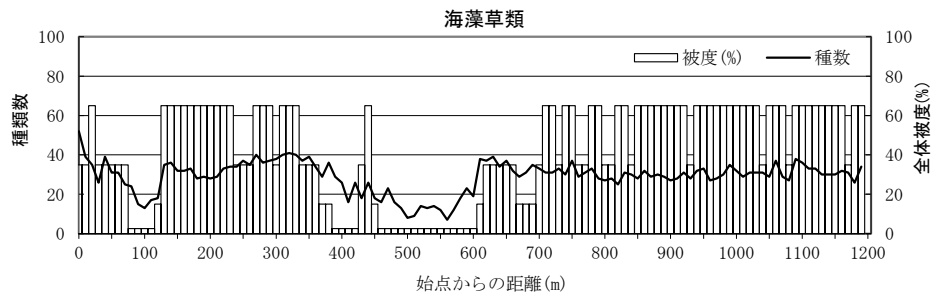
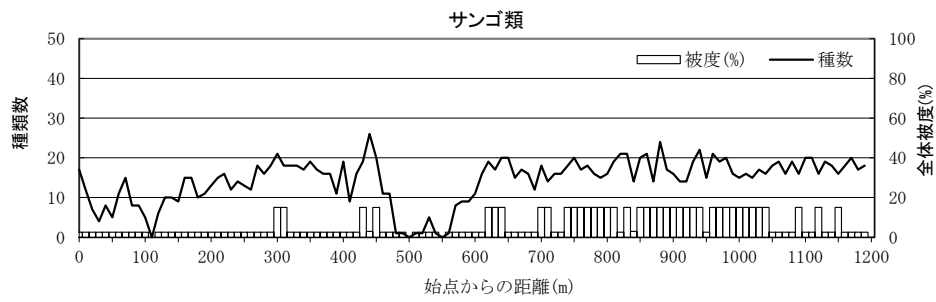
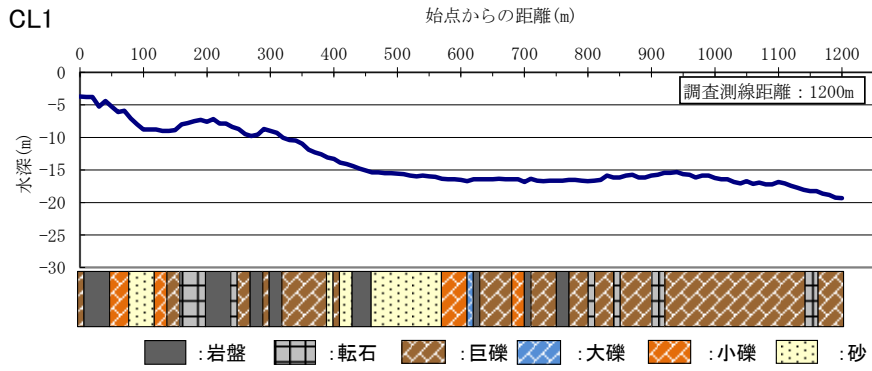


図-6.12.21 (1) 調査測線の断面模式図 (サンゴ類・海藻草類ライン調査:CL1) 春季

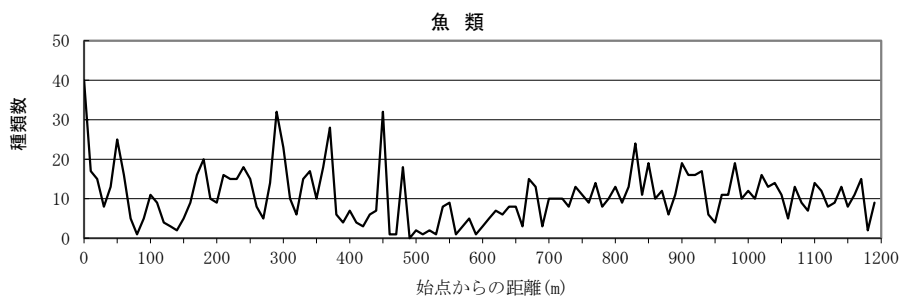
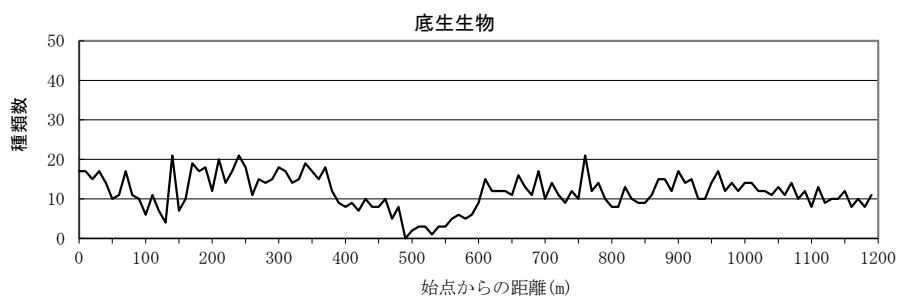
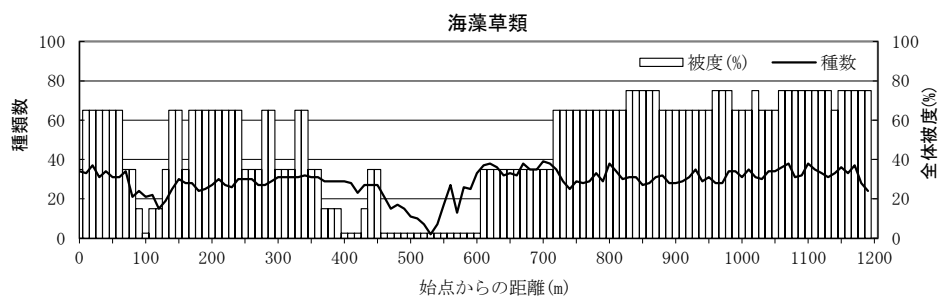
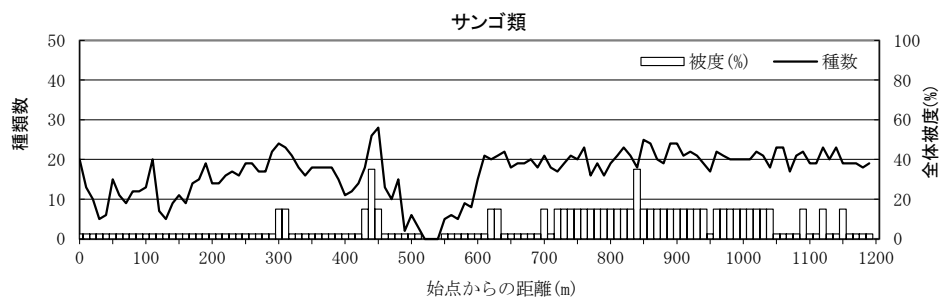
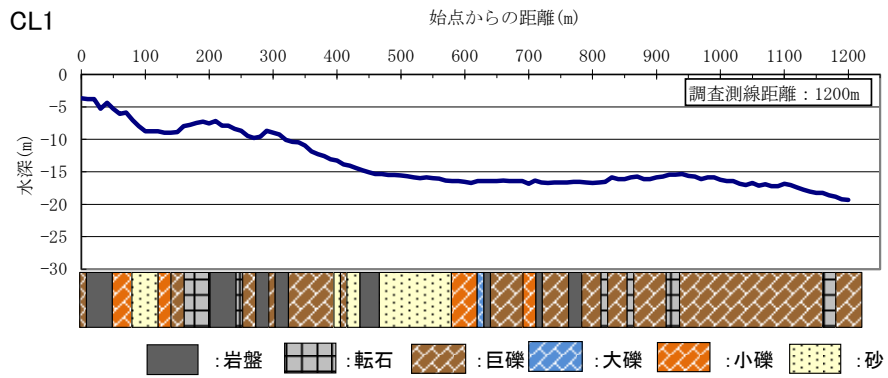


図-6.12.21 (2) 調査測線の断面模式図 (サンゴ類・海藻草類ライン調査：CL1) 夏季

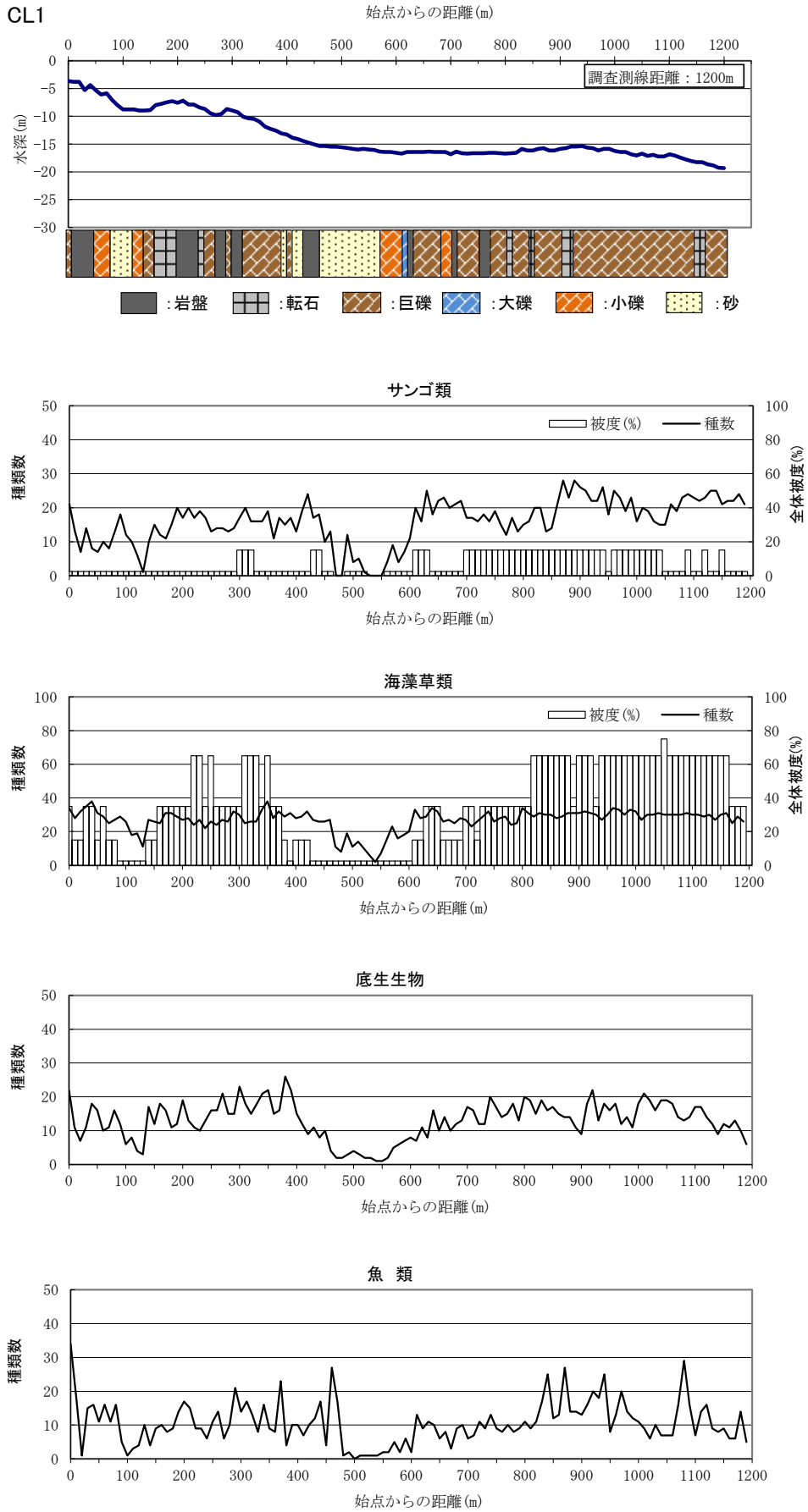


図-6.12.21 (3) 調査測線の断面模式図 (サンゴ類・海藻草類ライン調査：CL1) 秋季

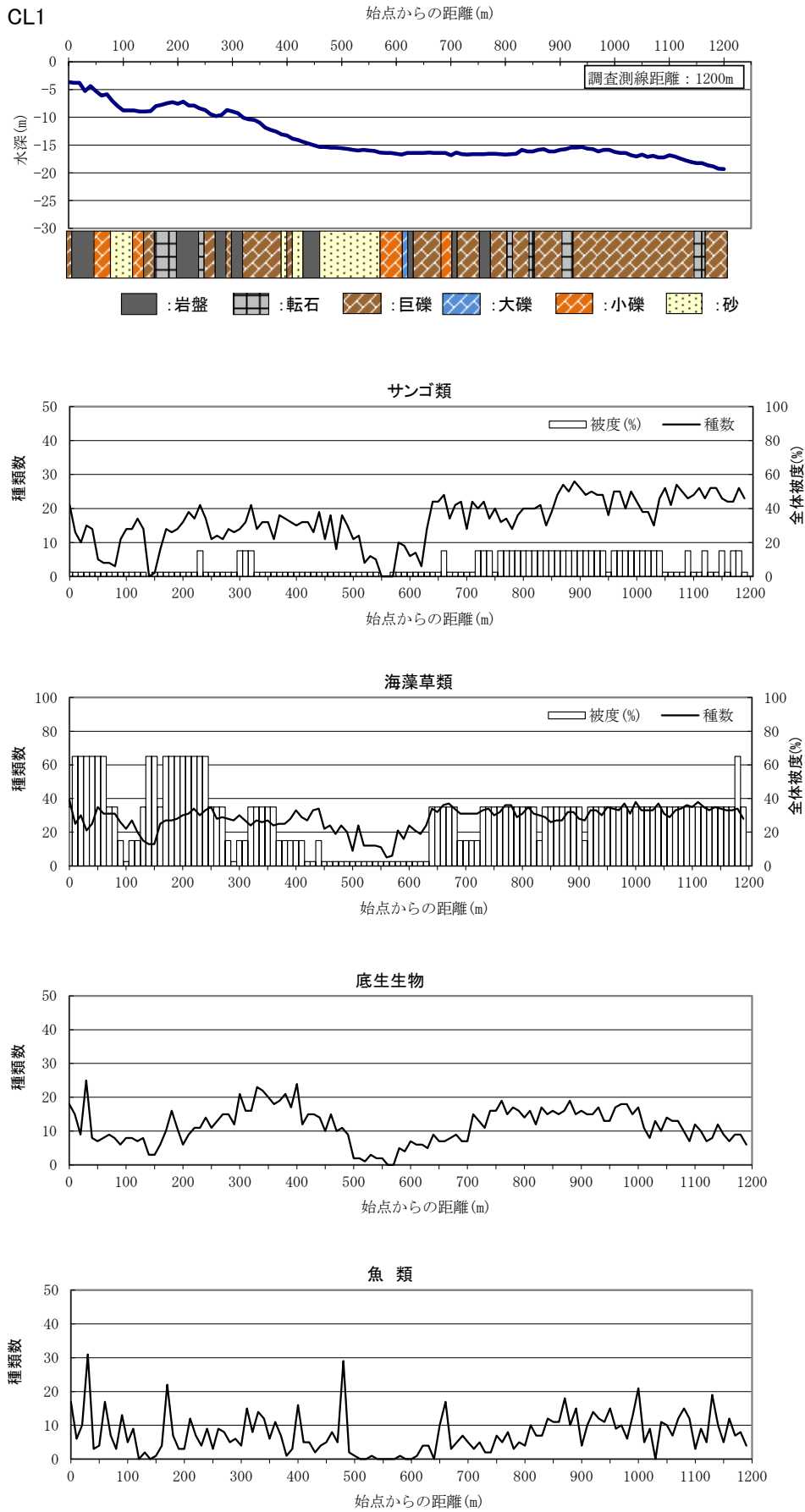


図-6.12.21 (4) 調査測線の断面模式図 (サンゴ類・海藻草類ライン調査: CL1) 冬季

CL2

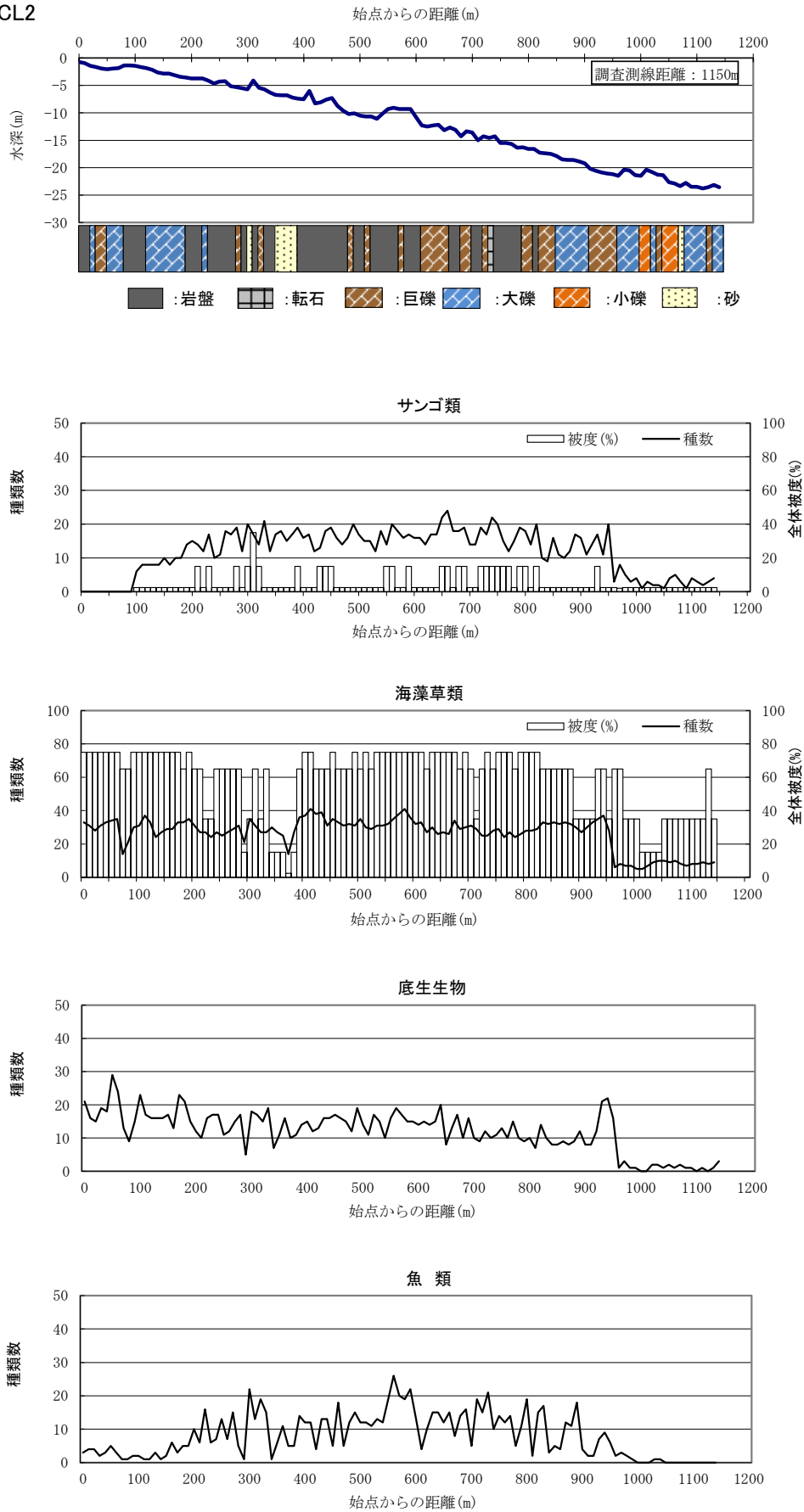


図-6.12.22 (1) 調査測線の断面模式図 (サンゴ類・海藻草類ライン調査: CL2) 春季

CL2

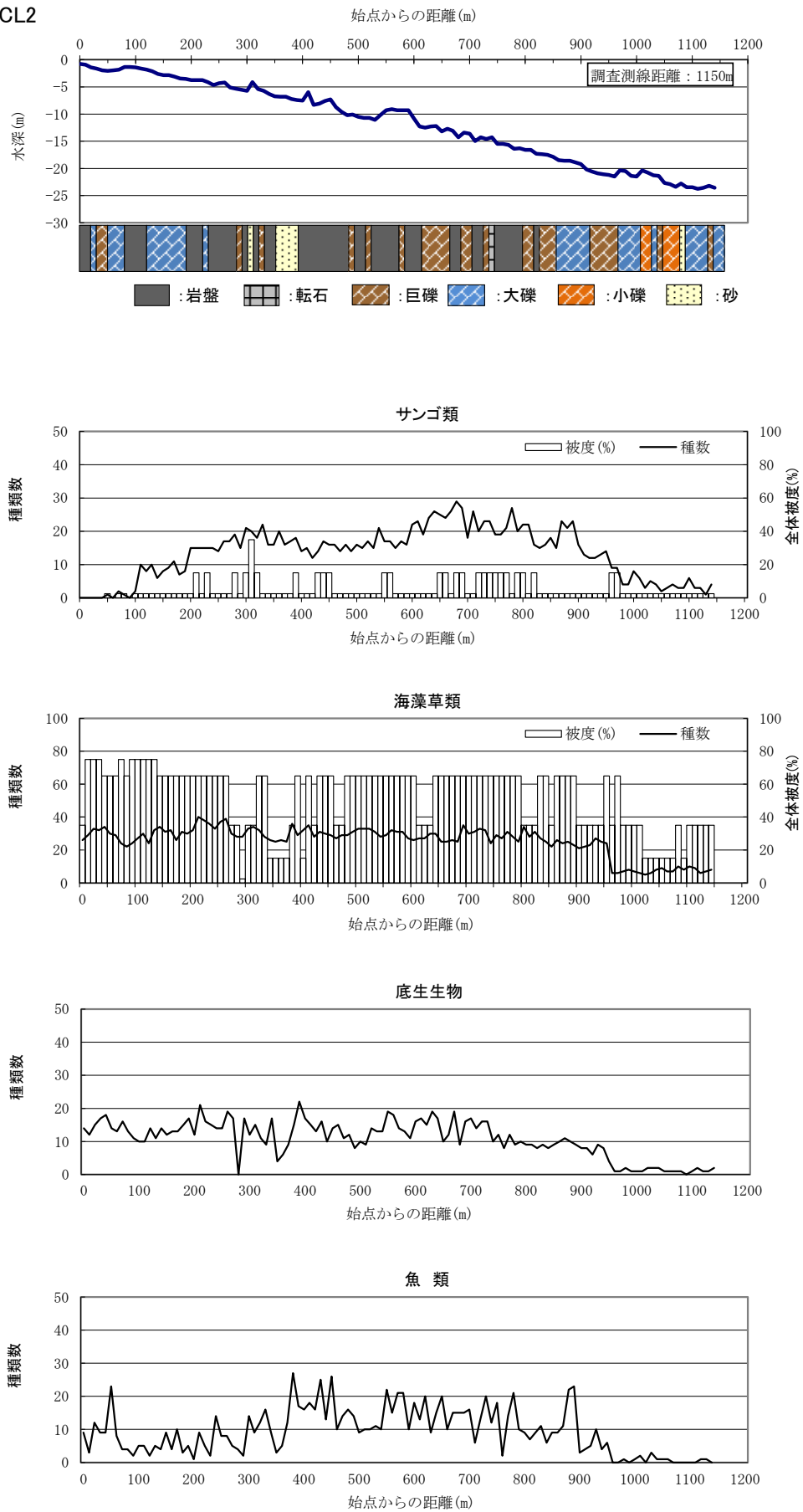


図-6.12.22 (2) 調査測線の断面模式図 (サンゴ類・海藻草類ライン調査：CL2) 夏季

CL2

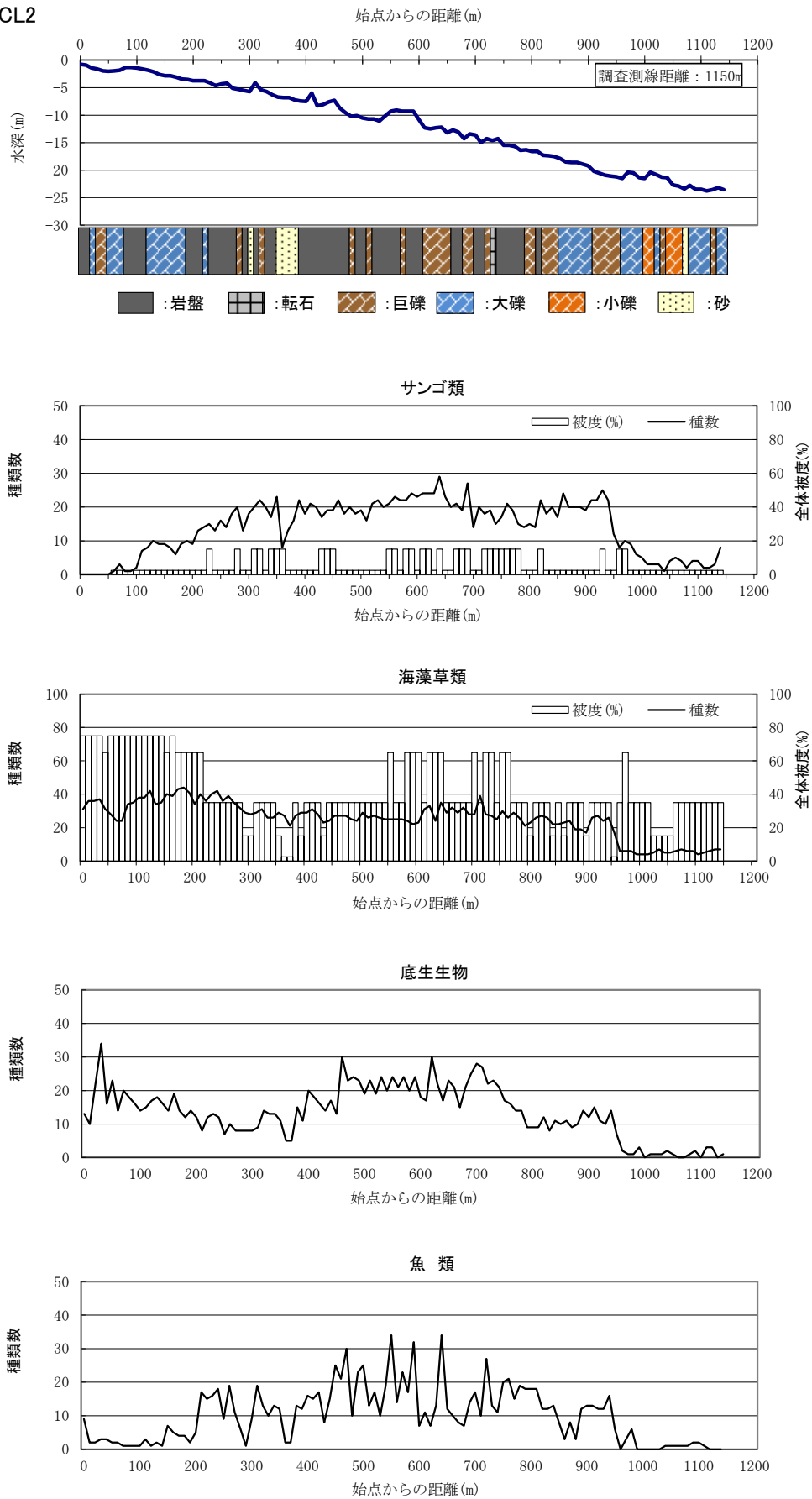


図-6.12.22 (3) 調査測線の断面模式図 (サンゴ類・海藻草類ライン調査: CL2) 秋季

CL2

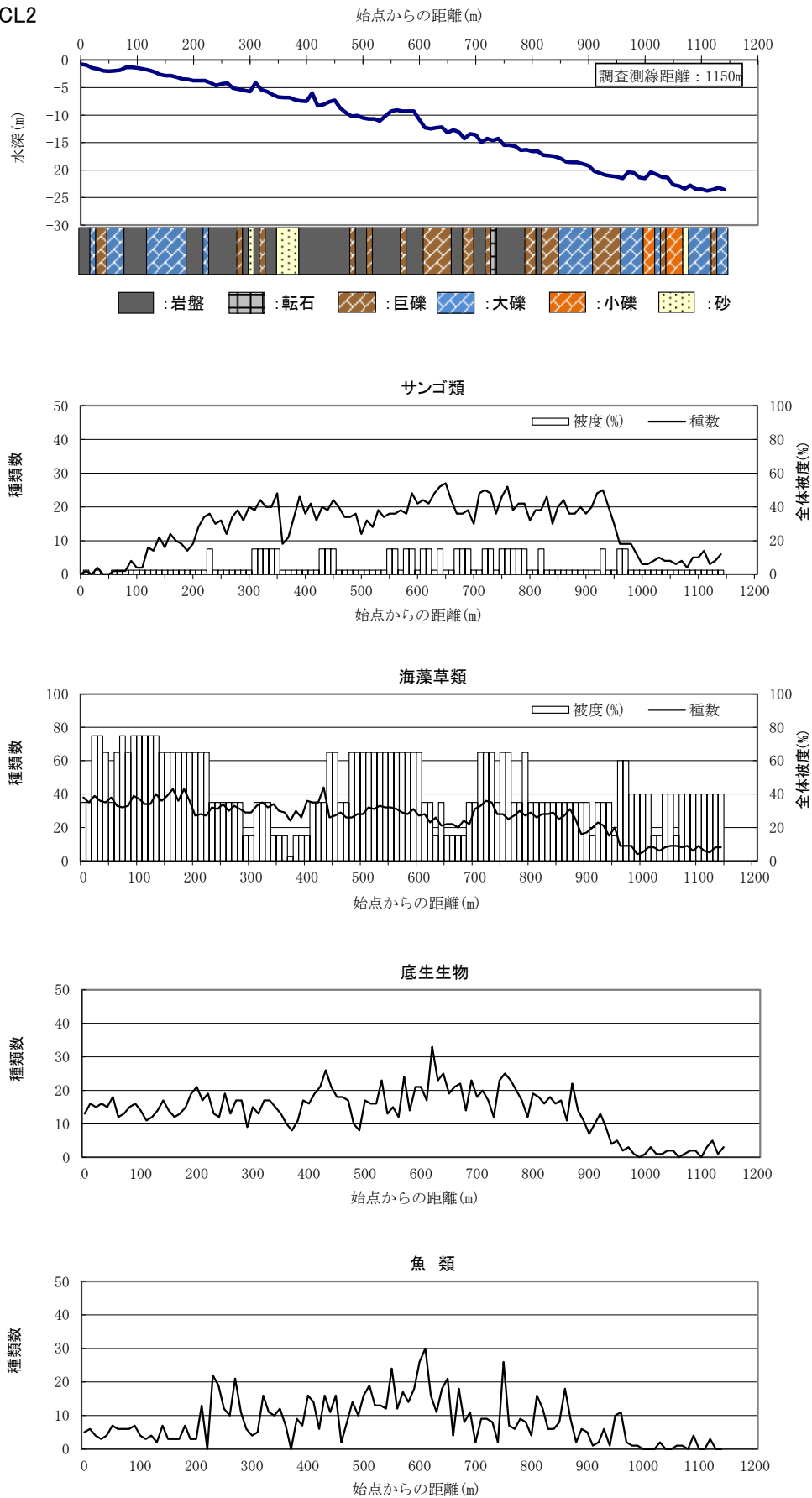


図-6.12.22 (4) 調査測線の断面模式図 (サンゴ類・海藻草類ライン調査: CL2) 冬季

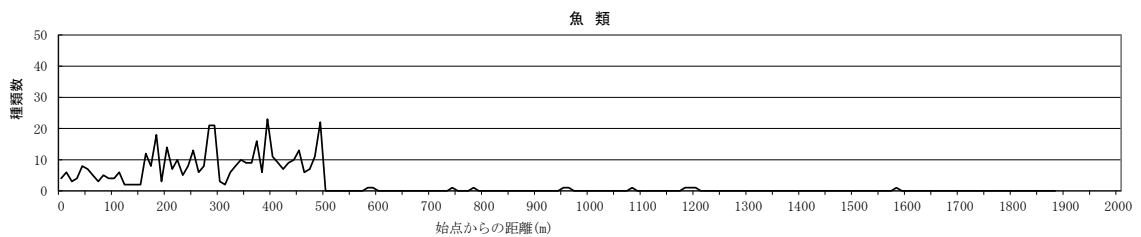
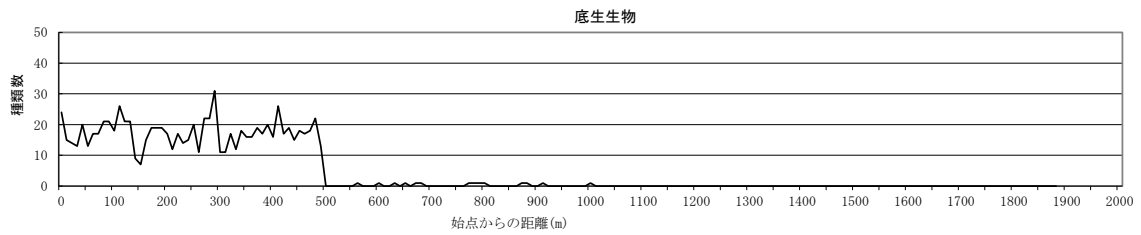
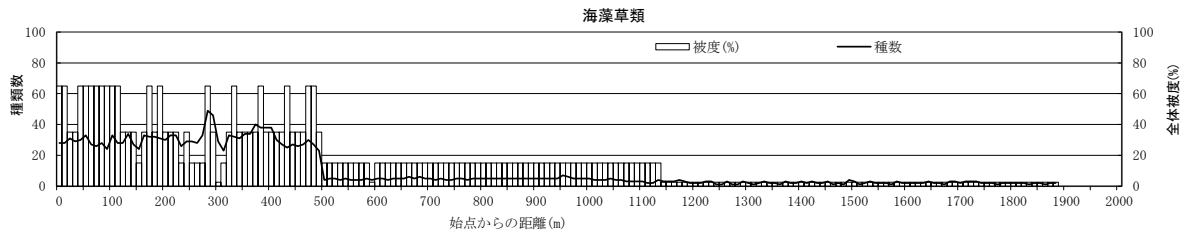
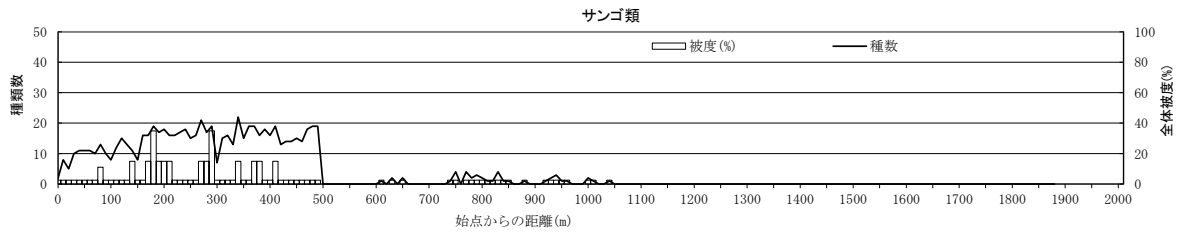
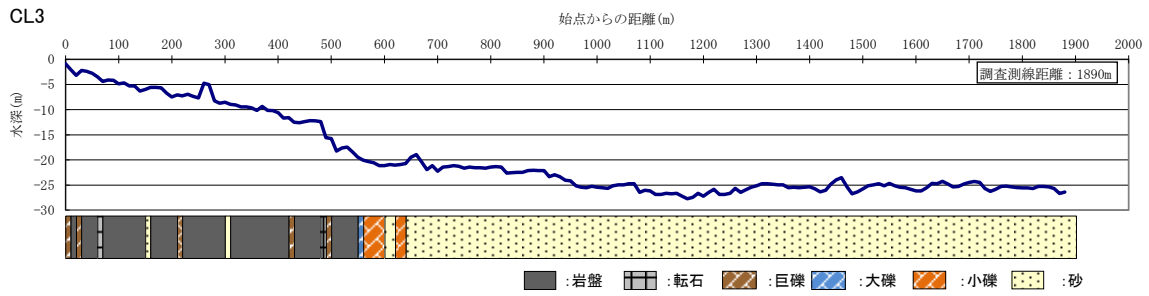


図-6.12.23 (1) 調査測線の断面模式図 (サンゴ類・海藻草類ライン調査: CL3) 春季

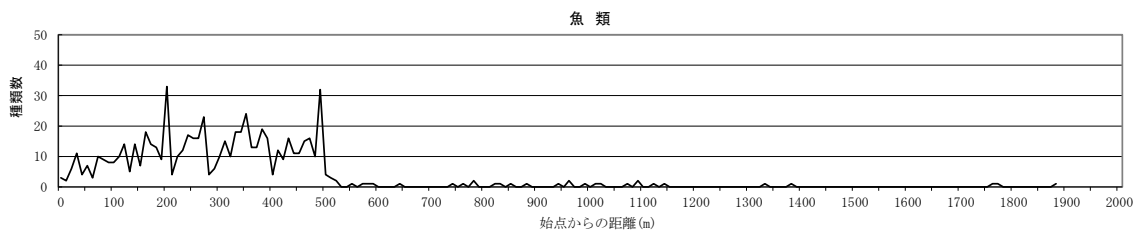
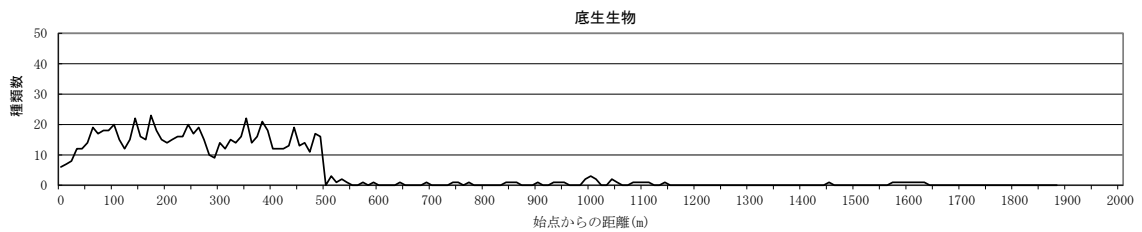
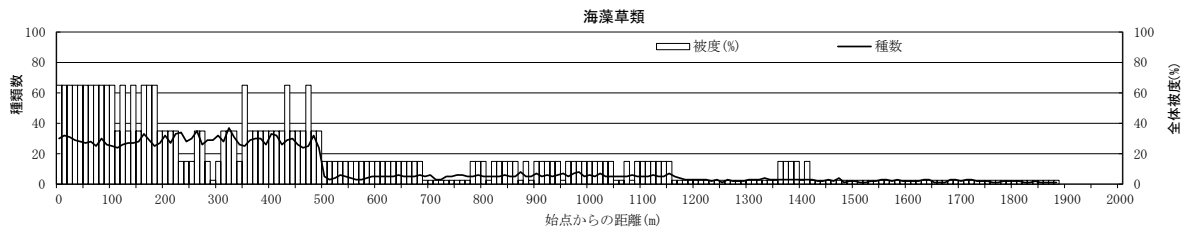
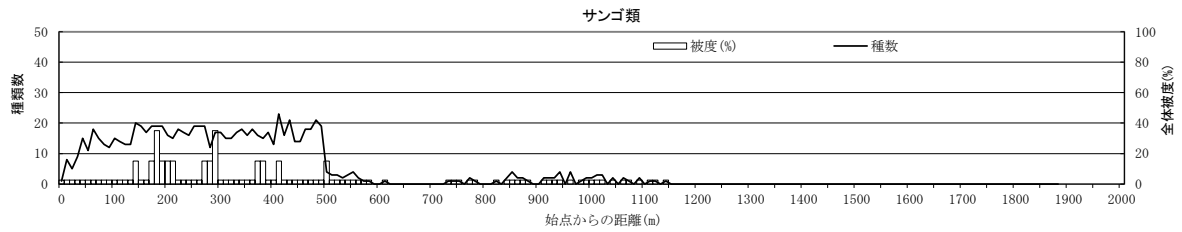
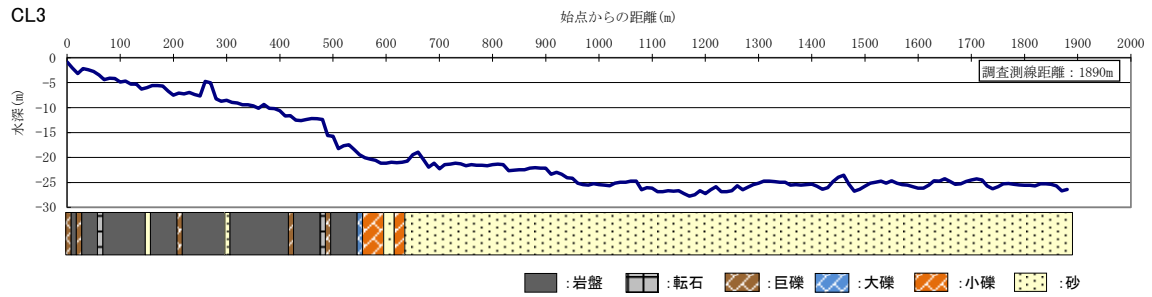


図-6.12.23 (2) 調査測線の断面模式図 (サンゴ類・海藻草類ライン調査: CL3) 夏季

CL3

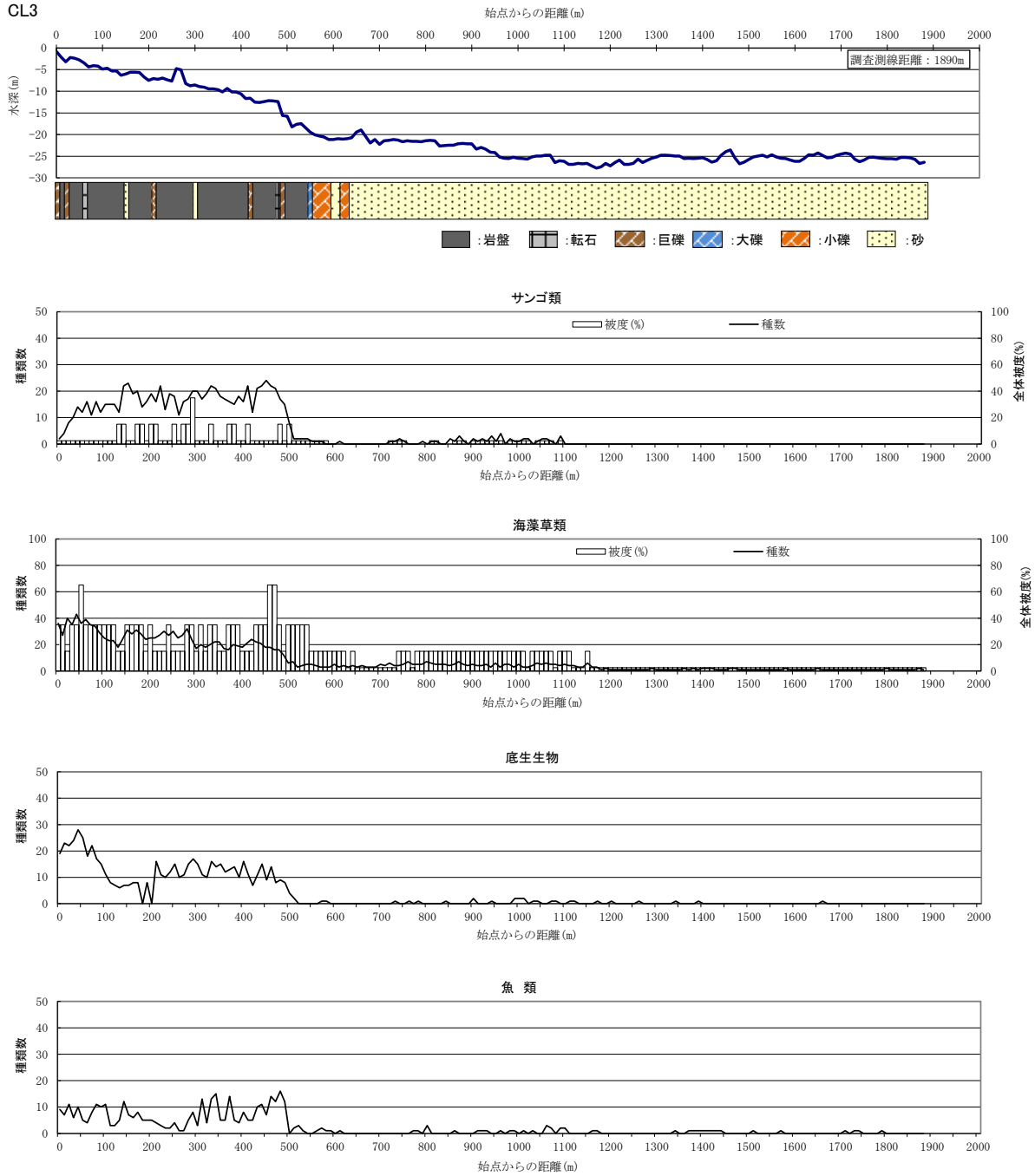


図-6.12.23 (3) 調査測線の断面模式図 (サンゴ類・海藻草類ライン調査:CL3) 秋季

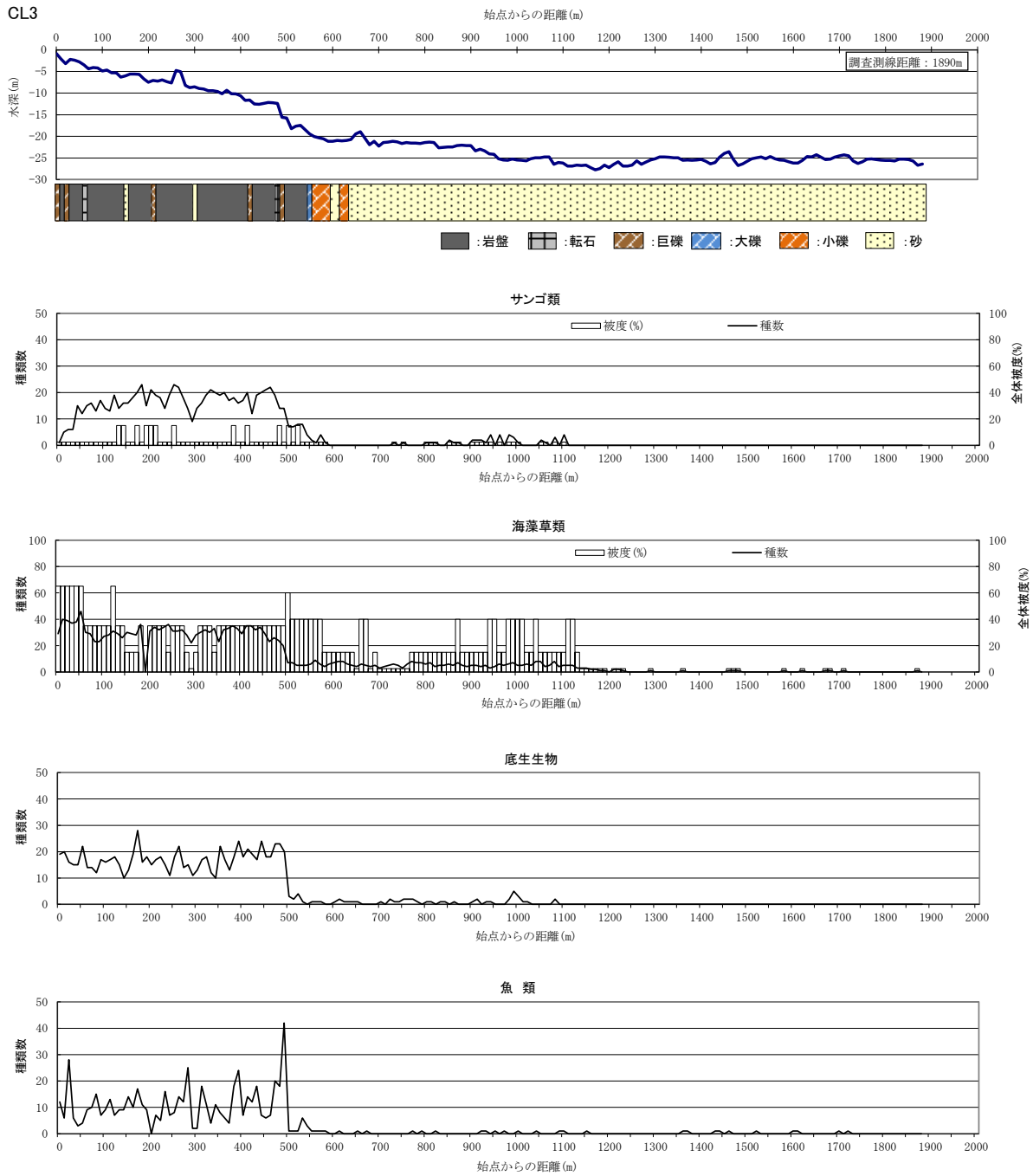


図-6.12.23 (4) 調査測線の断面模式図 (サンゴ類・海藻草類ライン調査:CL3) 冬季

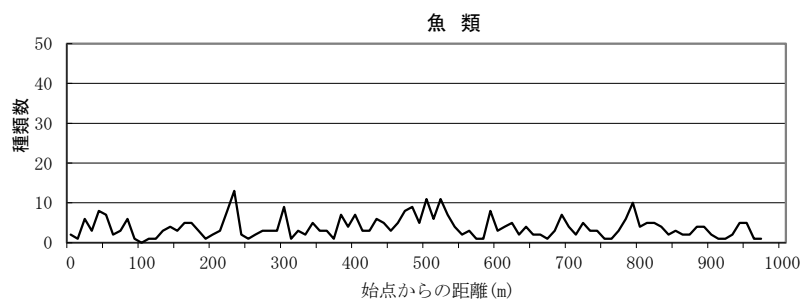
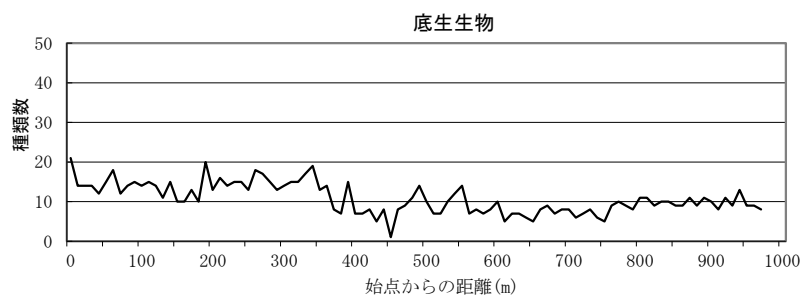
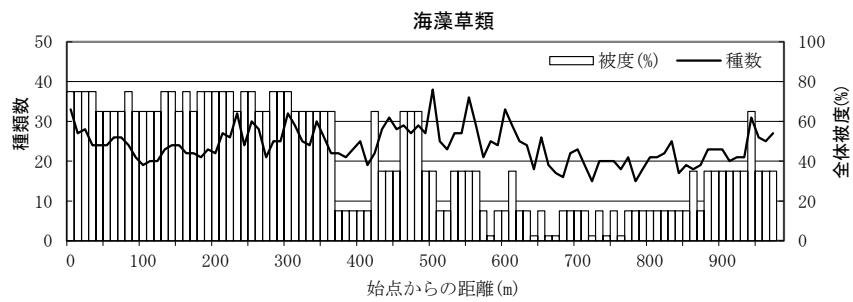
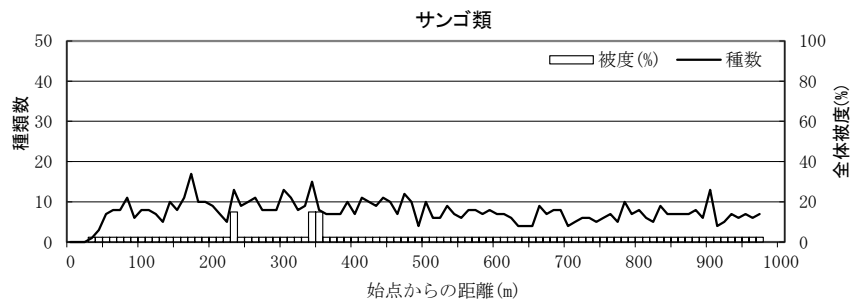
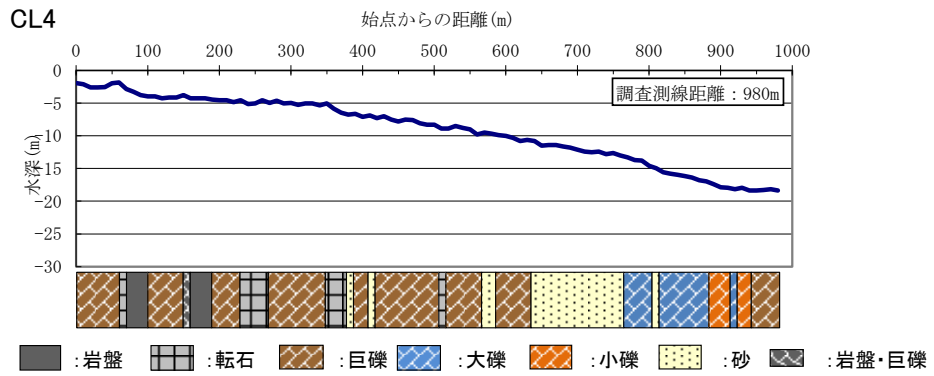


図-6.12.24 (1) 調査測線の断面模式図 (サンゴ類・海藻草類ライン調査: CL4) 春季

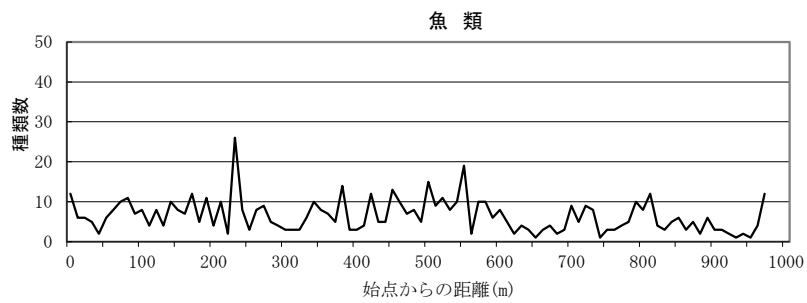
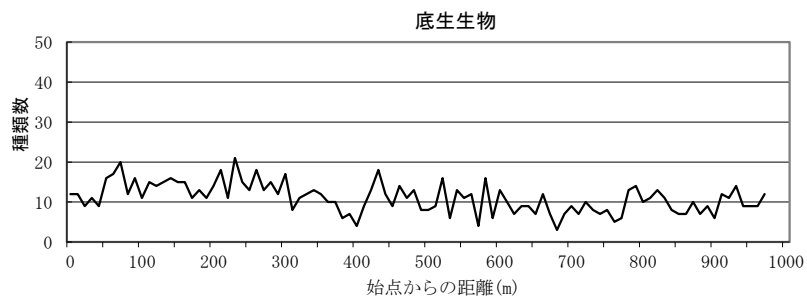
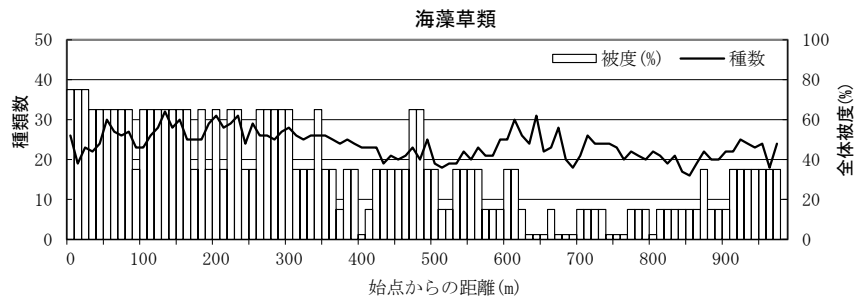
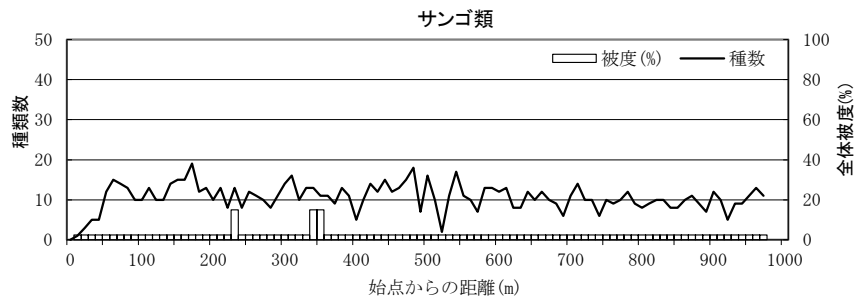
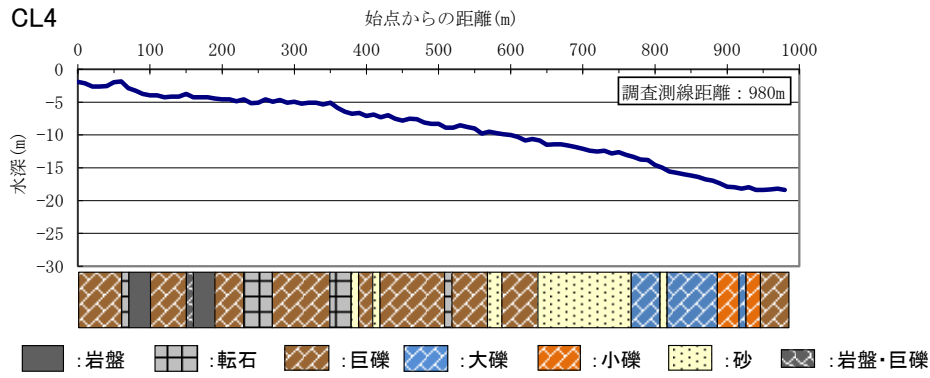


図-6.12.24 (2) 調査測線の断面模式図 (サンゴ類・海藻草類ライン調査: CL4) 夏季

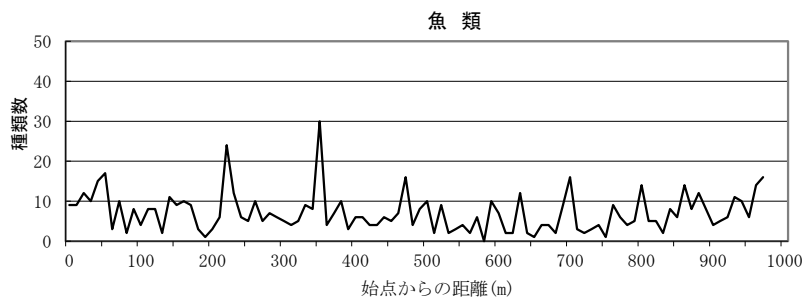
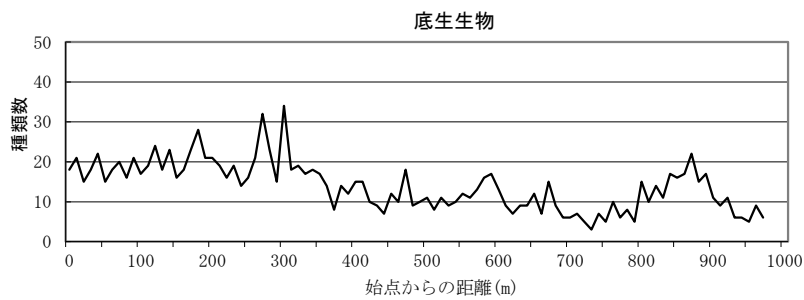
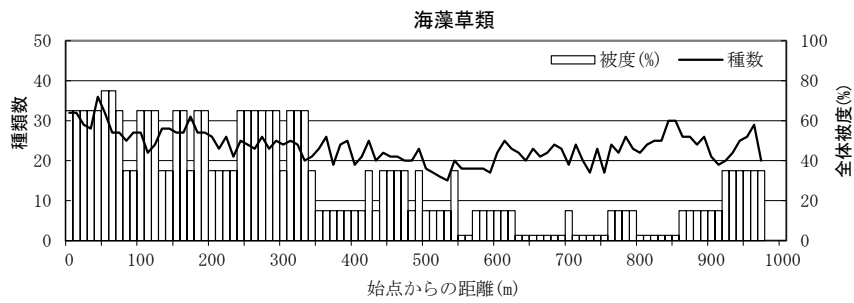
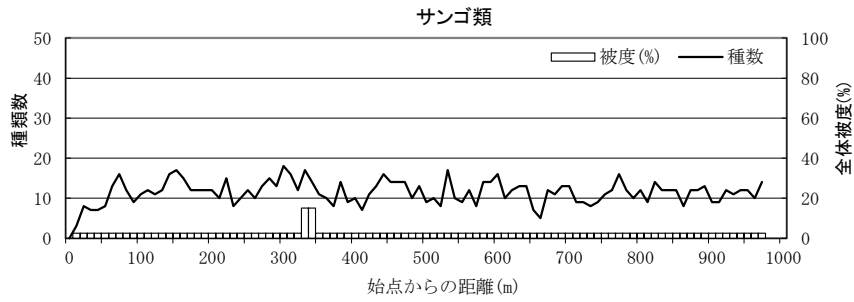
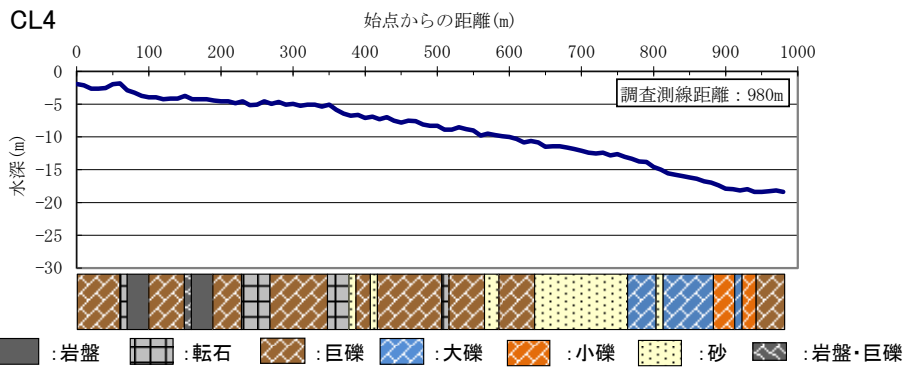


図-6.12.24 (3) 調査測線の断面模式図 (サンゴ類・海藻草類ライン調査: CL4) 秋季

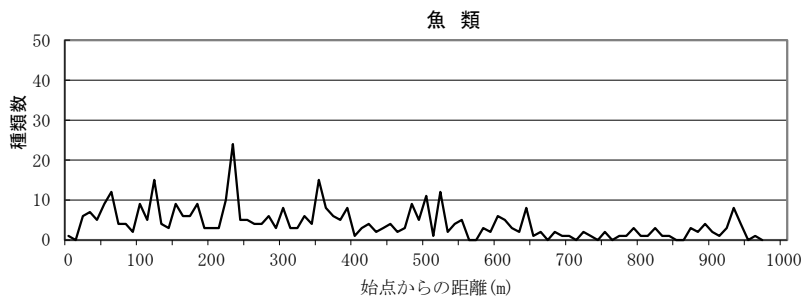
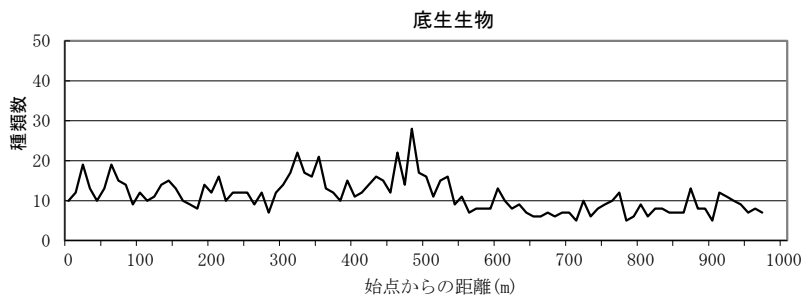
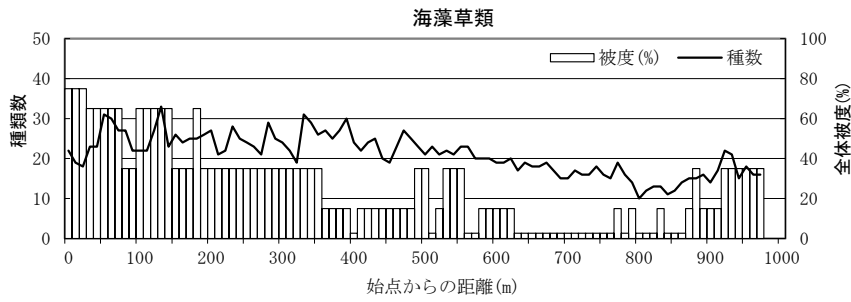
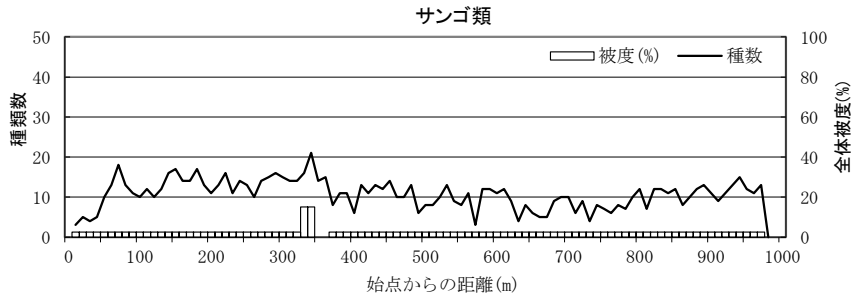
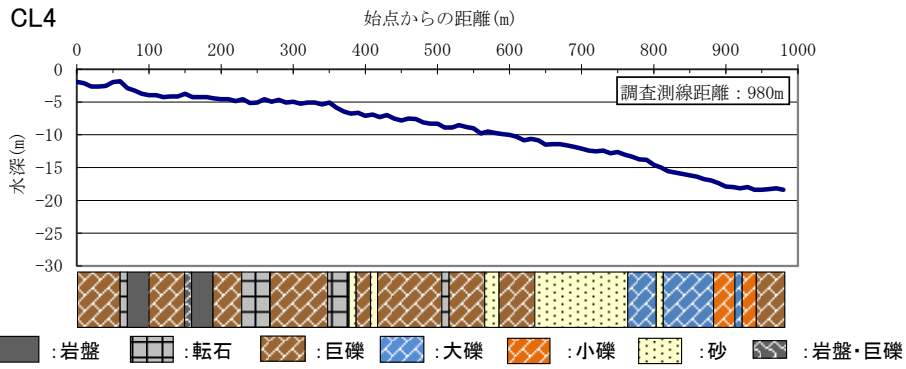


図-6.12.24 (4) 調査測線の断面模式図 (サンゴ類・海藻草類ライン調査：CL4) 冬季

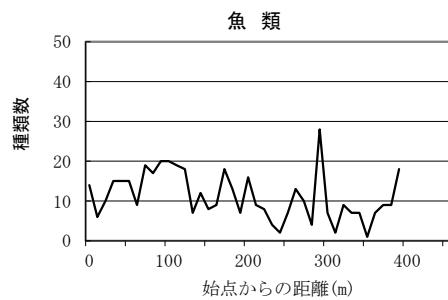
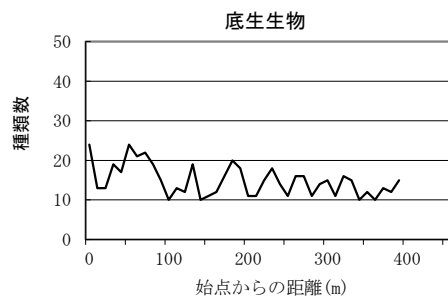
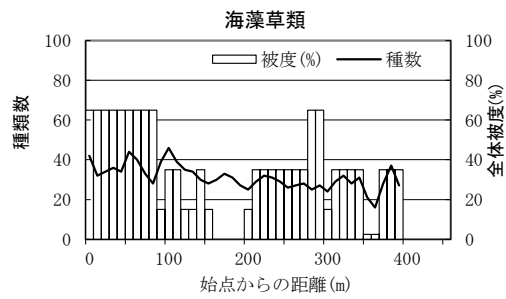
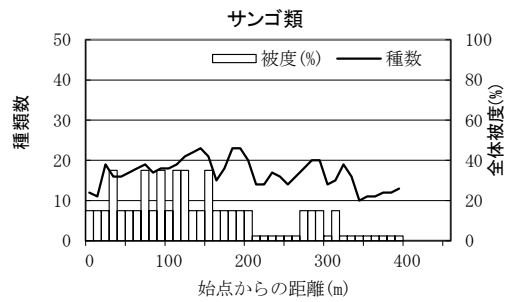
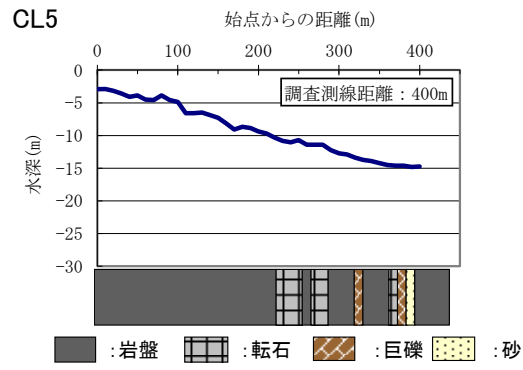


図-6.12.25 (1) 調査測線の断面模式図 (サンゴ類・海藻草類ライン調査: CL5) 春季

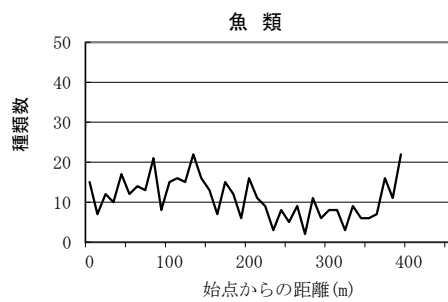
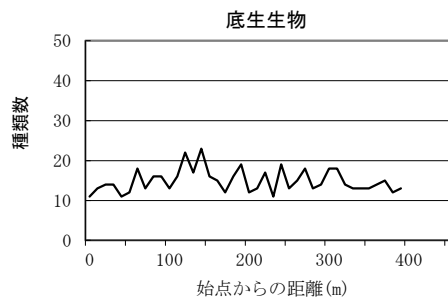
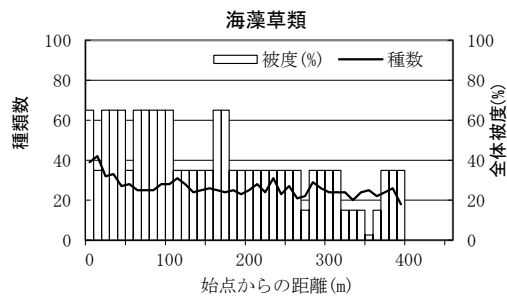
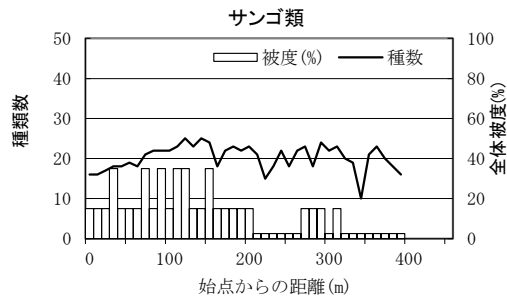
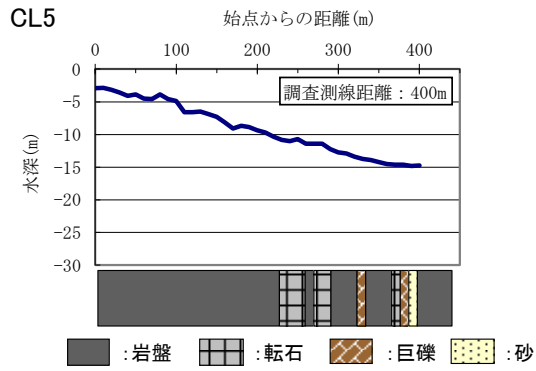


図-6.12.25 (2) 調査測線の断面模式図 (サンゴ類・海藻草類ライン調査: CL5) 夏季

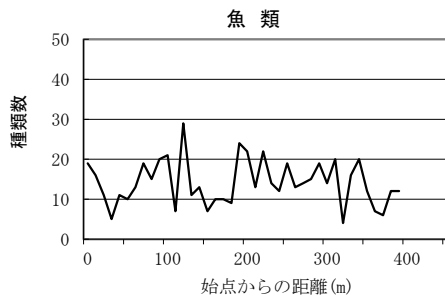
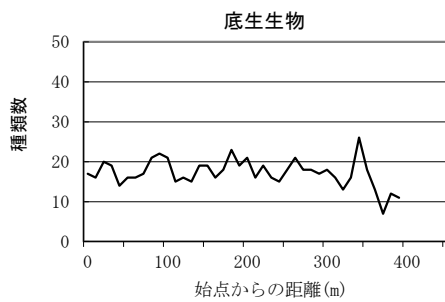
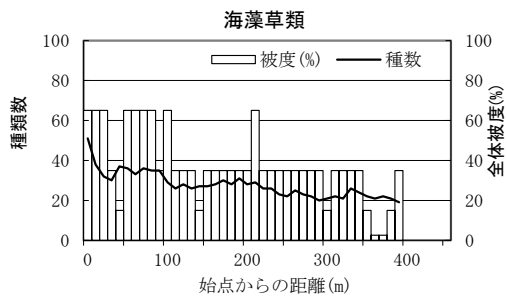
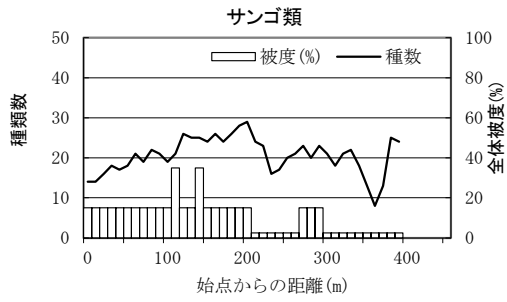
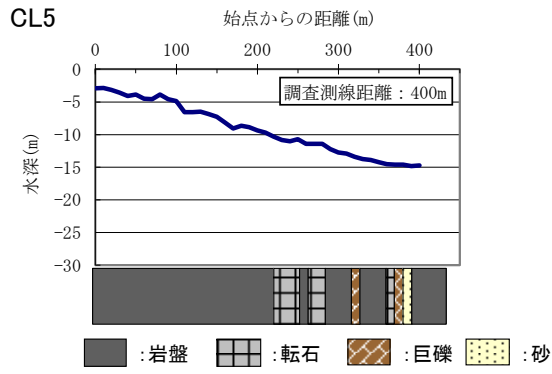


図-6.12.25 (3) 調査測線の断面模式図 (サンゴ類・海藻草類ライン調査: CL5) 秋季

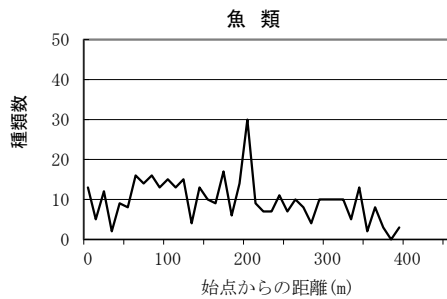
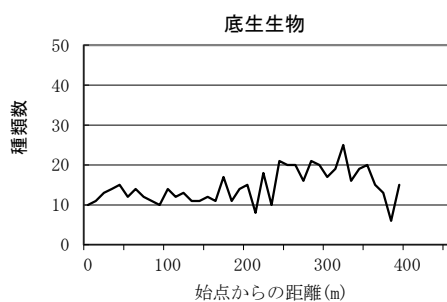
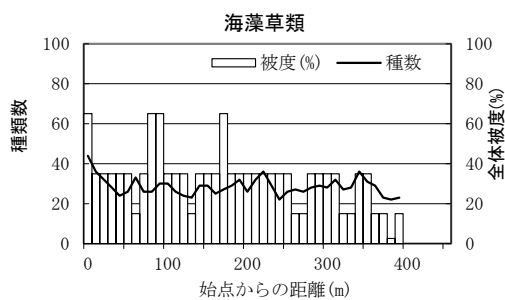
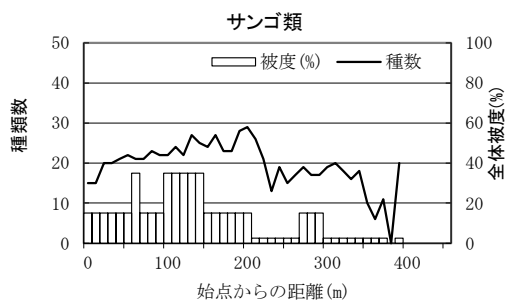
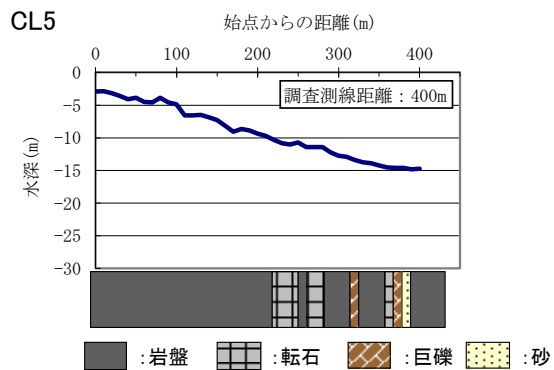


図-6.12.25 (4) 調査測線の断面模式図 (サンゴ類・海藻草類ライン調査: CL5) 冬季

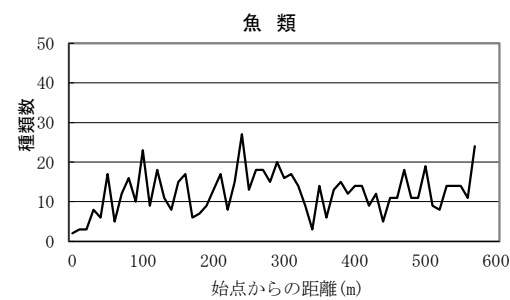
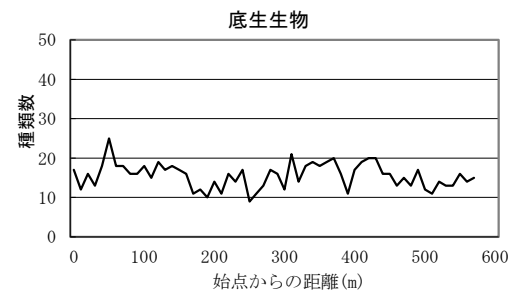
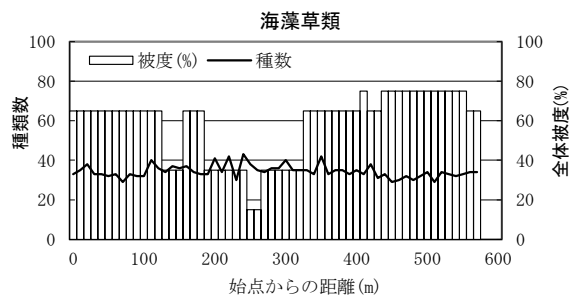
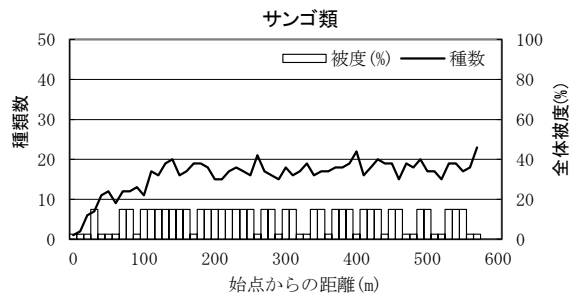
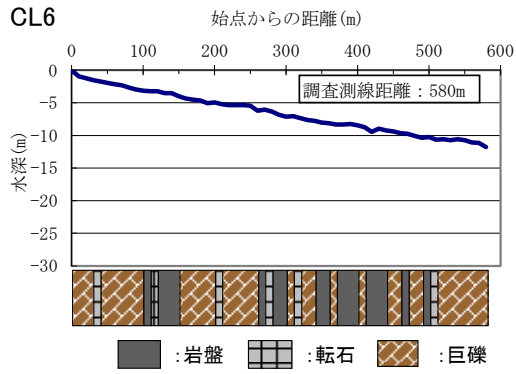


図-6.12.26 (1) 調査測線の断面模式図 (サンゴ類・海藻草類ライン調査 : CL6) 春季

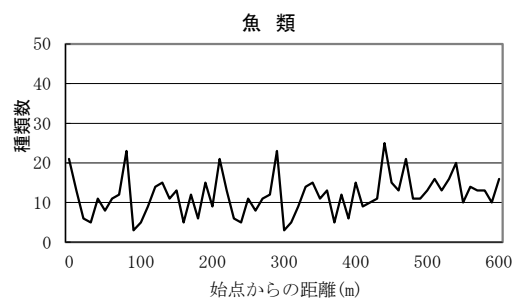
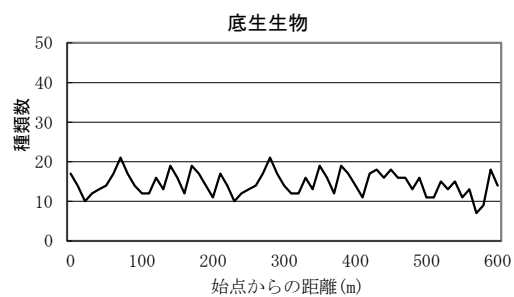
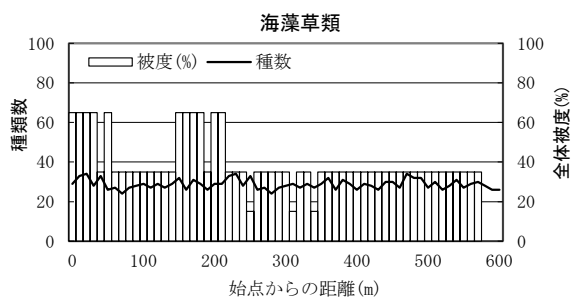
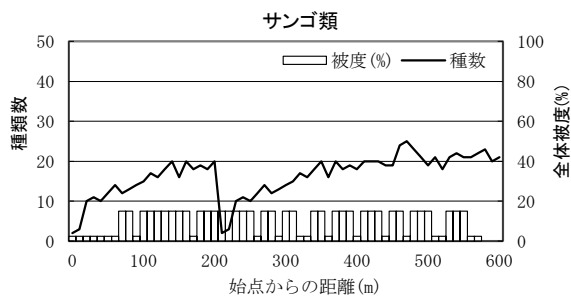
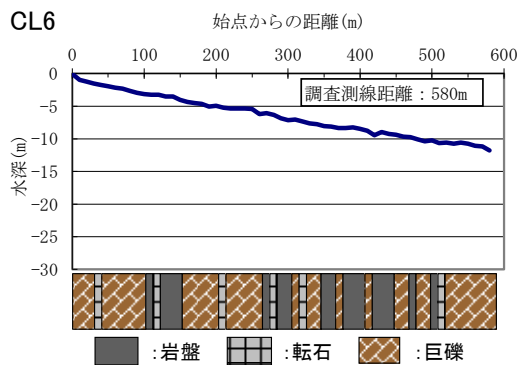


図-6.12.26 (2) 調査測線の断面模式図 (サンゴ類・海藻草類ライン調査: CL6) 夏季

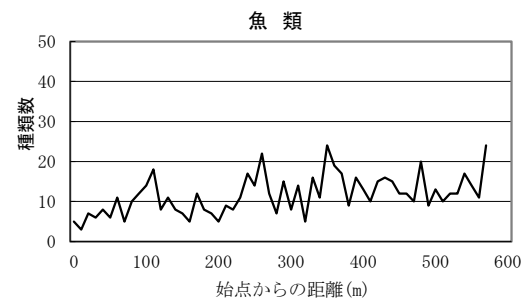
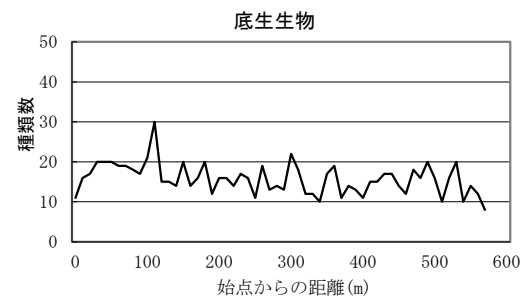
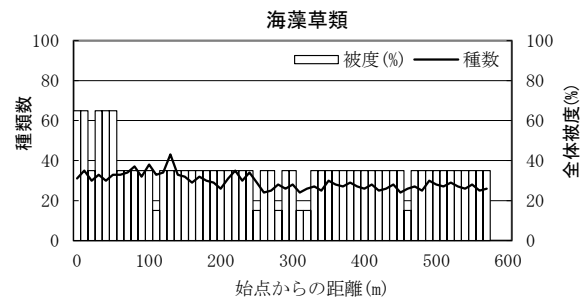
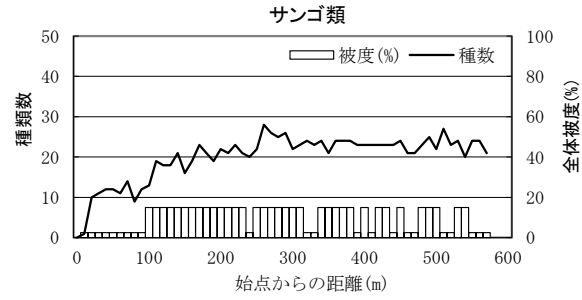
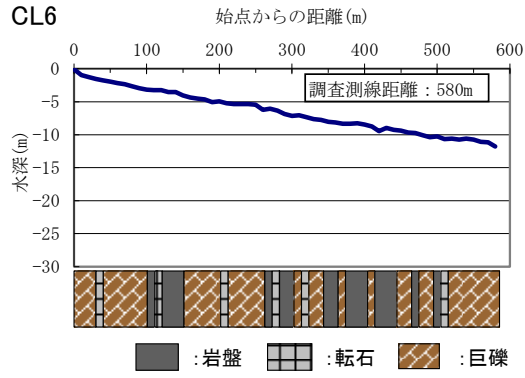


図-6.12.26 (3) 調査測線の断面模式図 (サンゴ類・海藻草類ライン調査: CL6) 秋季

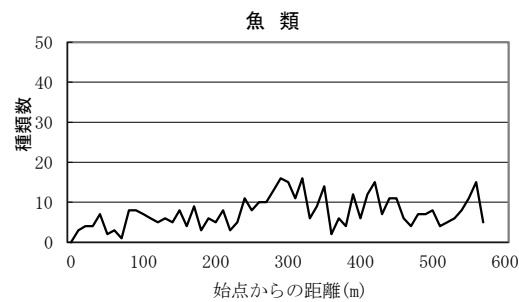
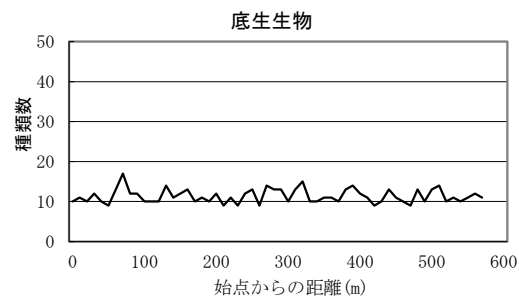
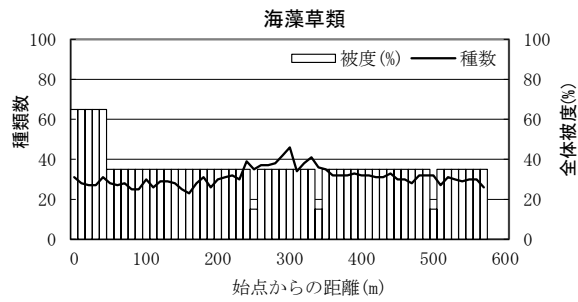
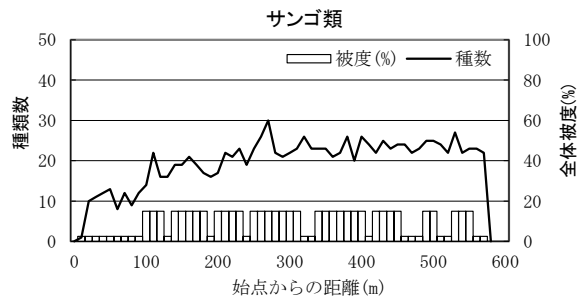
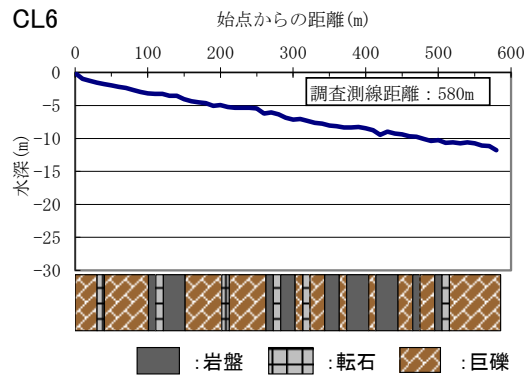


図-6.12.26 (4) 調査測線の断面模式図 (サンゴ類・海藻草類ライン調査: CL6) 冬季

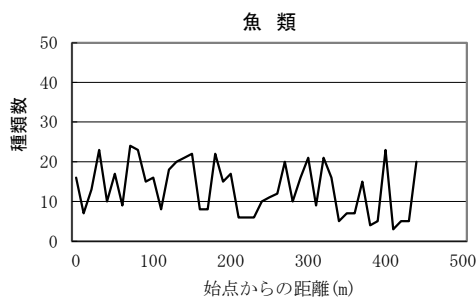
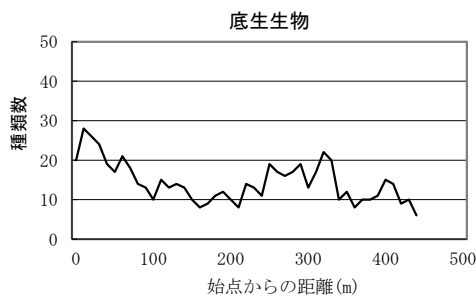
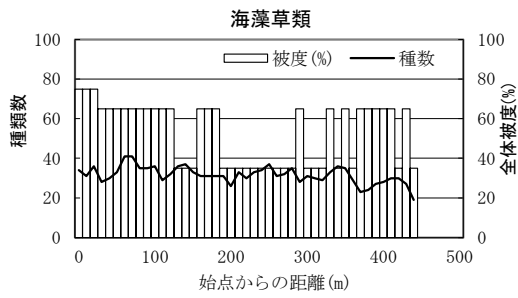
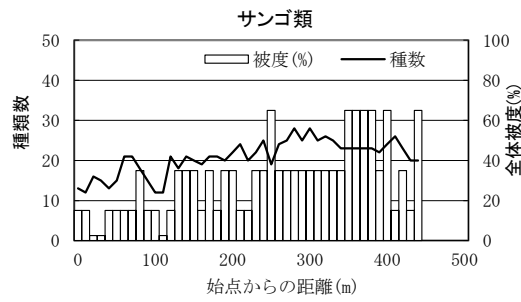
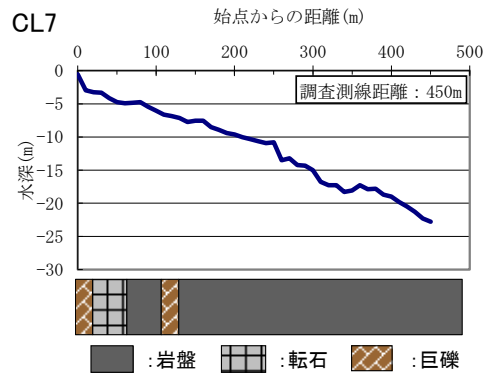


図-6.12.27 (1) 調査測線の断面模式図 (サンゴ類・海藻草類ライン調査: CL7) 春季

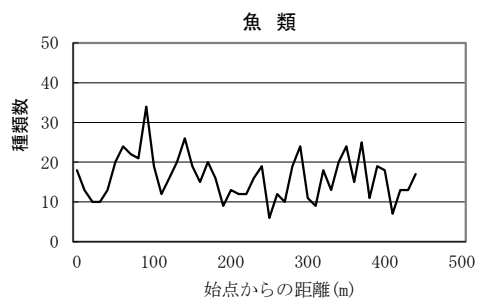
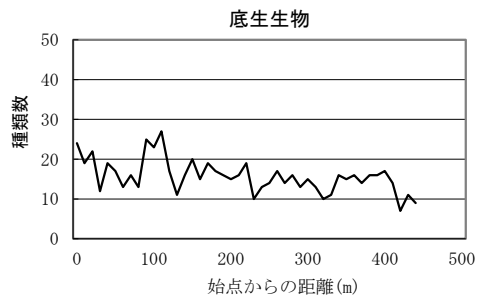
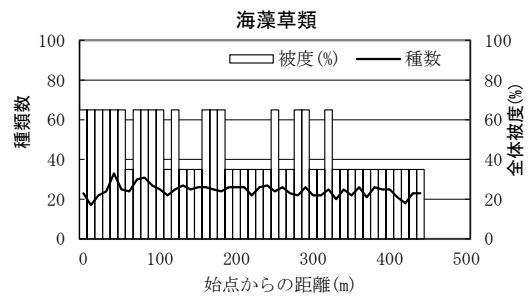
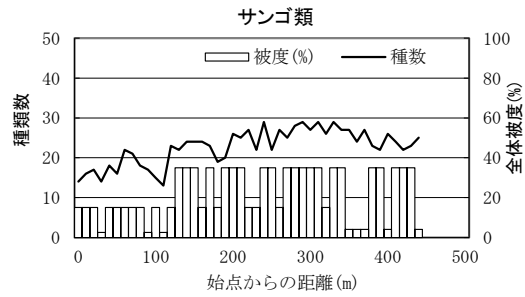
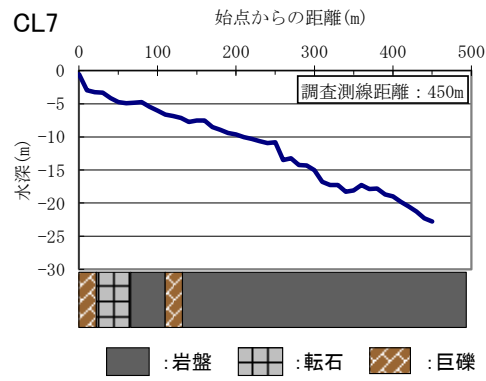


図-6.12.27 (2) 調査測線の断面模式図 (サンゴ類・海藻草類ライン調査：CL7) 夏季

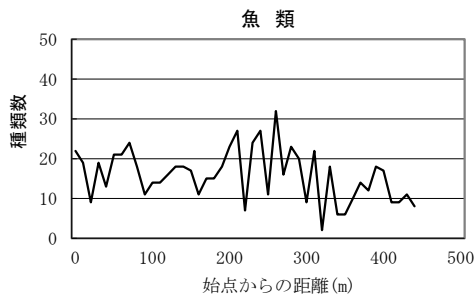
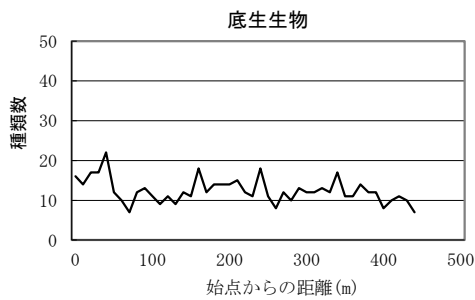
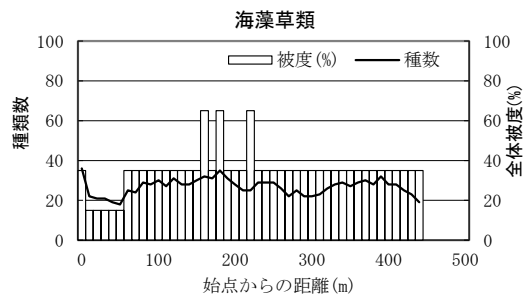
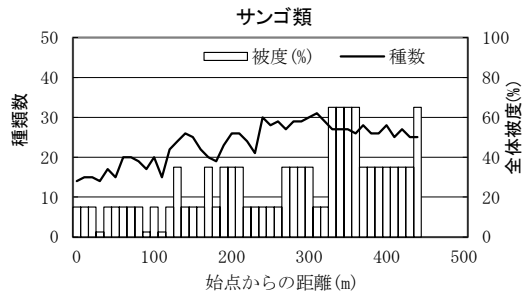
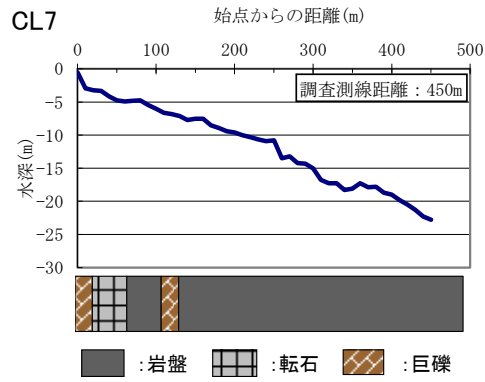


図-6.12.27 (3) 調査測線の断面模式図 (サンゴ類・海藻草類ライン調査: CL7) 秋季

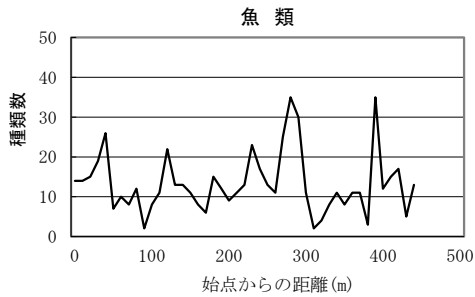
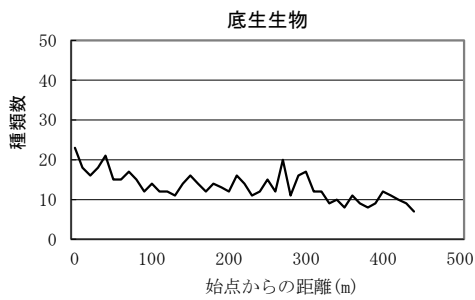
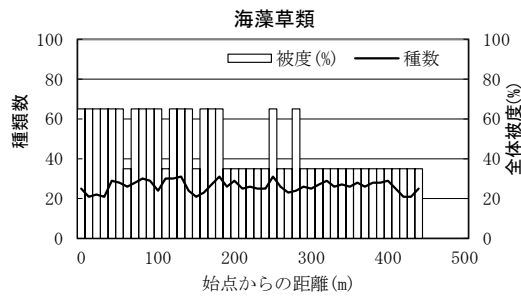
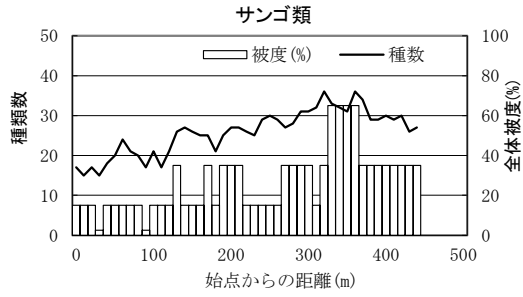
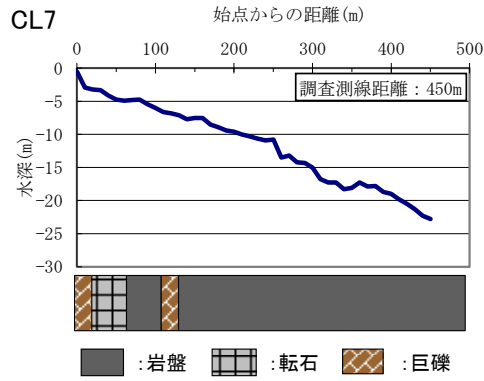





図-6.12.27 (4) 調査測線の断面模式図 (サンゴ類・海藻草類ライン調査: CL7) 冬季



※重要な種の保護の観点から、
確認位置については表示しておりません。

凡例

-  対象事業実施区域
-  対象事業実施区域(港湾施設)
-  ハナガスマカノコ

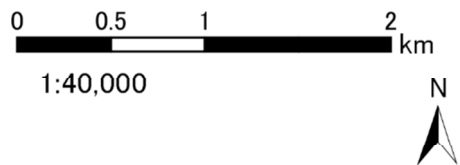





図-6.12.28 (1) 重要な種の確認位置 (底生動物)

※重要な種の保護の観点から、
確認位置については表示していません。

凡例

-  対象事業実施区域
-  対象事業実施区域(港湾施設)
-  カヤノミカニモリ

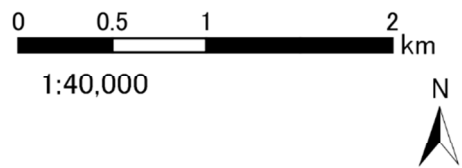





図-6.12.28 (2) 重要な種の確認位置 (底生動物)

※重要な種の保護の観点から、
確認位置については表示しておりません。

凡例

-  対象事業実施区域
-  対象事業実施区域(港湾施設)
-  リュウキュウウミニナ

0 0.5 1 2 km

1:40,000



図-6.12.28 (3) 重要な種の確認位置 (底生動物)

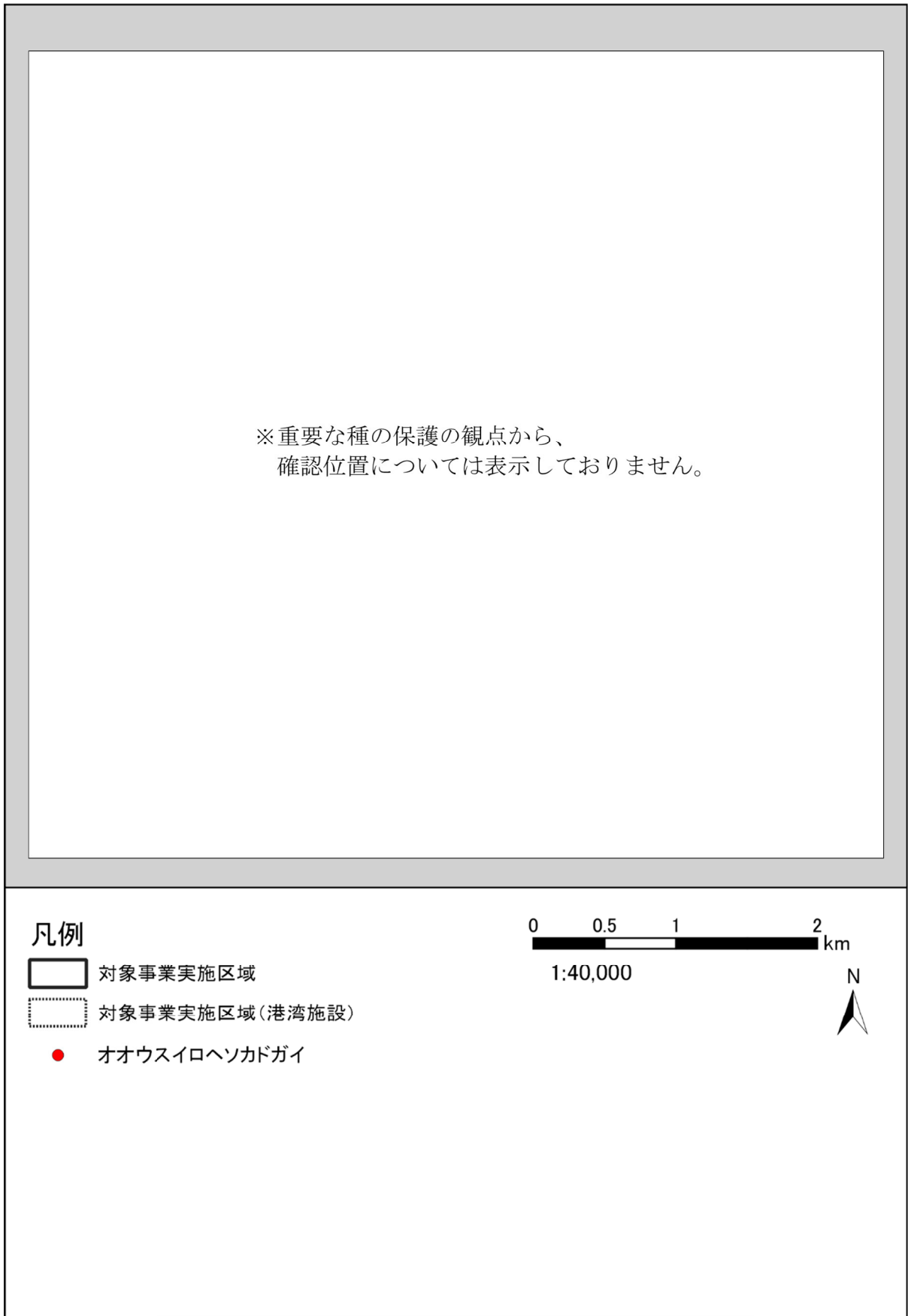





図-6.12.28 (4) 重要な種の確認位置 (底生動物)

※重要な種の保護の観点から、
確認位置については表示していません。

凡例

-  対象事業実施区域
-  対象事業実施区域(港湾施設)
-  クビキレガイ

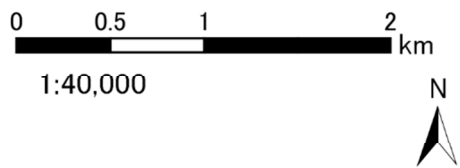





図-6.12.28 (5) 重要な種の確認位置 (底生動物)

※重要な種の保護の観点から、
確認位置については表示していません。

凡例

-  対象事業実施区域
-  対象事業実施区域(港湾施設)
-  ヤマトクビキレガイ

0 0.5 1 2 km




1:40,000



図-6.12.28 (6) 重要な種の確認位置 (底生動物)

※重要な種の保護の観点から、
確認位置については表示していません。

凡例

-  対象事業実施区域
-  対象事業実施区域(港湾施設)
-  コベソコミミガイ

0 0.5 1 2 km

1:40,000



図-6.12.28 (7) 重要な種の確認位置 (底生動物)

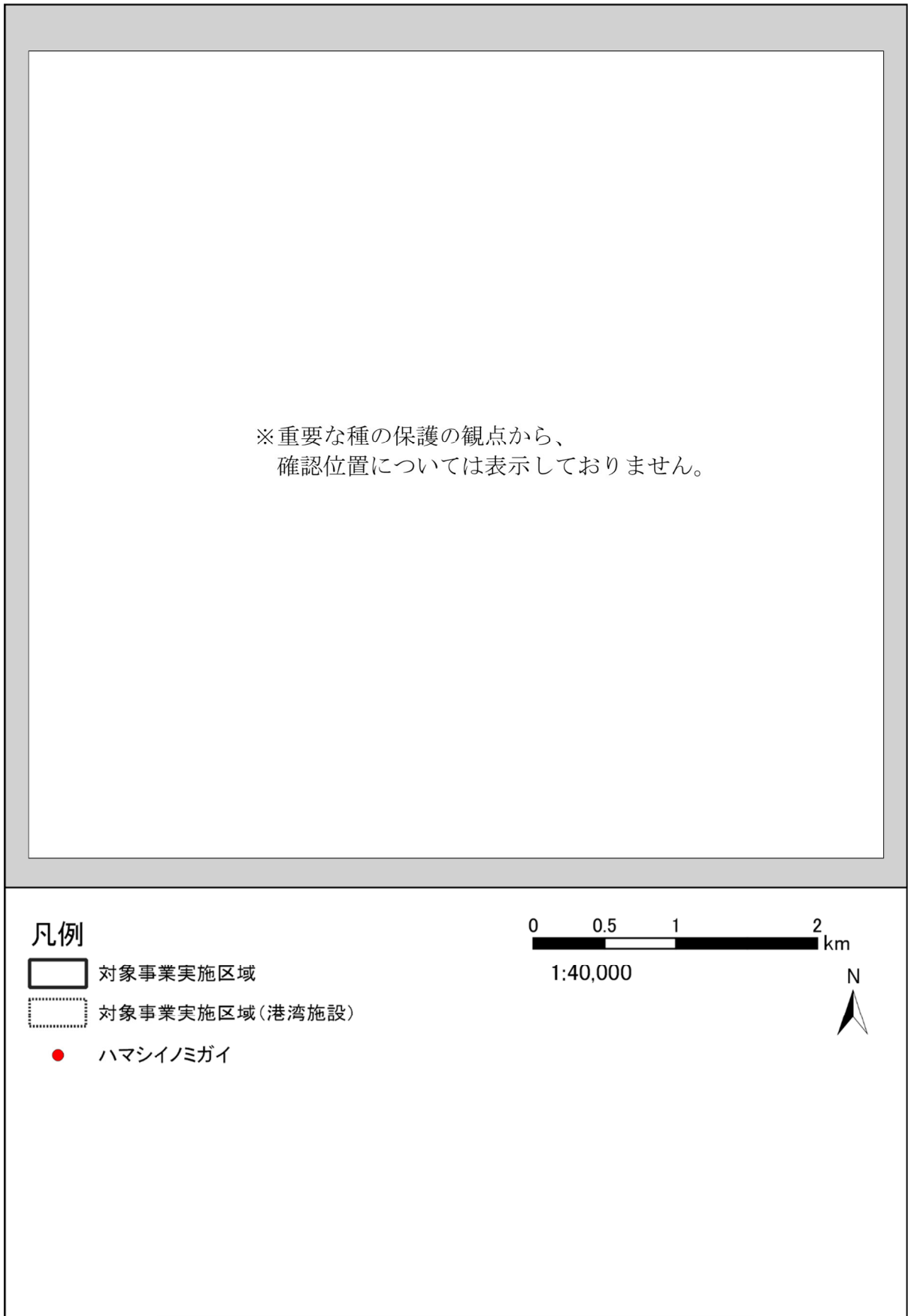


図-6.12.28 (8) 重要な種の確認位置 (底生動物)

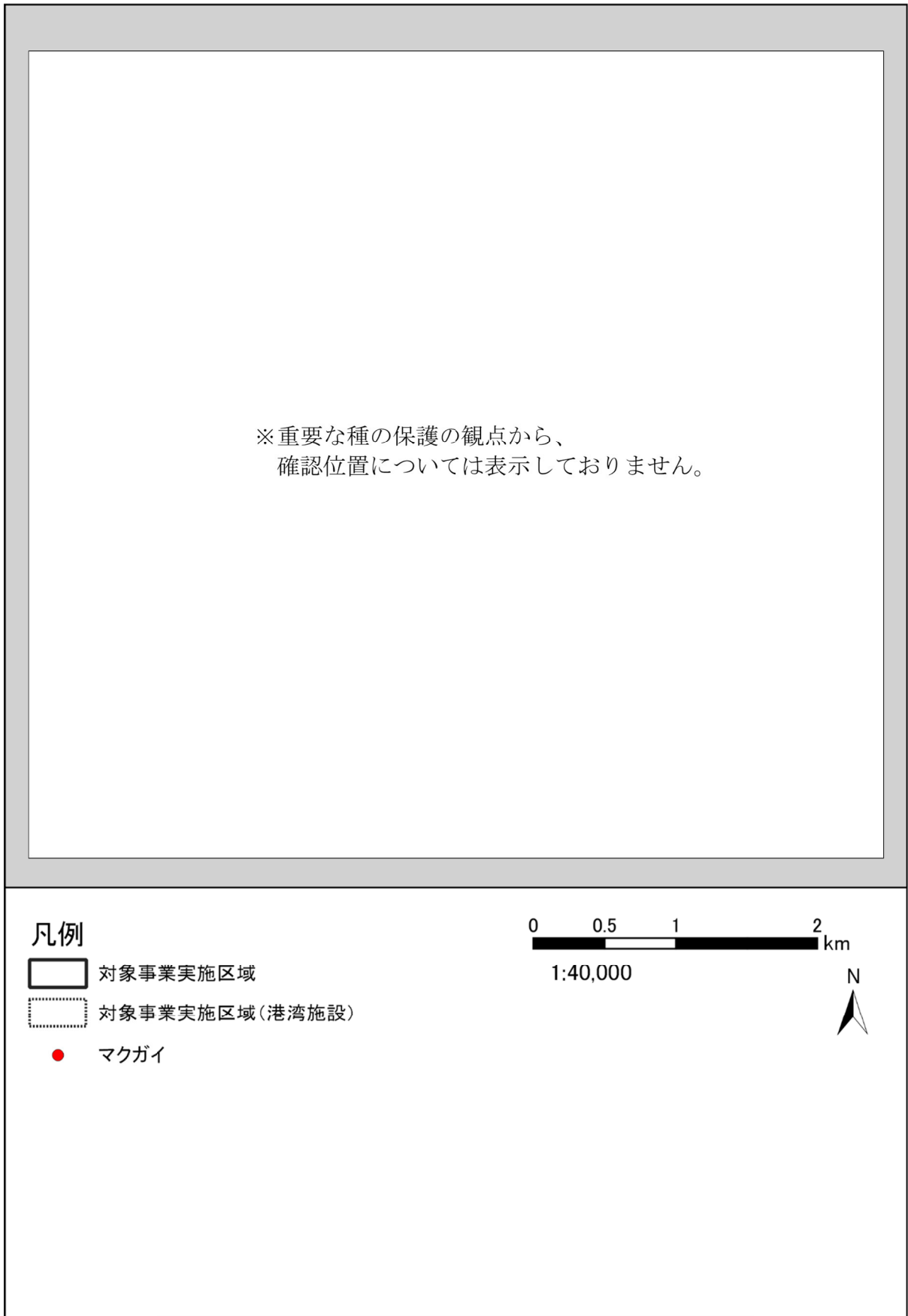





図-6.12.28 (9) 重要な種の確認位置 (底生動物)

※重要な種の保護の観点から、
確認位置については表示しておりません。

凡例

-  対象事業実施区域
-  対象事業実施区域(港湾施設)
-  コハクマメアゲマキ

0 0.5 1 2 km




1:40,000



図-6.12.28 (10) 重要な種の確認位置 (底生動物)

※重要な種の保護の観点から、
確認位置については表示していません。

凡例

-  対象事業実施区域
-  対象事業実施区域(港湾施設)
-  タガソデモドキ

0 0.5 1 2 km




1:40,000



図-6.12.28 (11) 重要な種の確認位置 (底生動物)

※重要な種の保護の観点から、
確認位置については表示しておりません。

凡例

-  対象事業実施区域
-  対象事業実施区域(港湾施設)
-  スジホシムシモドキ

0 0.5 1 2 km




1:40,000



図-6.12.28 (12) 重要な種の確認位置 (底生動物)

※重要な種の保護の観点から、
確認位置については表示していません。

凡例

-  対象事業実施区域
-  対象事業実施区域(港湾施設)
-  アマミスジホシムシモドキ

0 0.5 1 2 km




1:40,000



図-6.12.28 (13) 重要な種の確認位置 (底生動物)

※重要な種の保護の観点から、
確認位置については表示していません。

凡例

-  対象事業実施区域
-  対象事業実施区域(港湾施設)
-  スジホシムシ

0 0.5 1 2 km




1:40,000



図-6.12.28 (14) 重要な種の確認位置 (底生動物)

※重要な種の保護の観点から、
確認位置については表示しておりません。

凡例

-  対象事業実施区域
-  対象事業実施区域(港湾施設)
-  オオサカドロソコエビ

0 0.5 1 2 km




1:40,000



図-6.12.28 (15) 重要な種の確認位置 (底生動物)

※重要な種の保護の観点から、
確認位置については表示していません。

凡例

-  対象事業実施区域
-  対象事業実施区域(港湾施設)
-  ブビエスナモグリ

0 0.5 1 2 km

1:40,000






図-6.12.28 (16) 重要な種の確認位置 (底生動物)



※重要な種の保護の観点から、
確認位置については表示していません。

凡例

-  対象事業実施区域
-  対象事業実施区域(港湾施設)
-  ユビナガホンヤドカリ

0 0.5 1 2 km




1:40,000



図-6.12.28 (17) 重要な種の確認位置 (底生動物)

※重要な種の保護の観点から、
確認位置については表示しておりません。

凡例

-  対象事業実施区域
-  対象事業実施区域(港湾施設)
-  オカガニ

0 0.5 1 2 km




1:40,000



図-6.12.28 (18) 重要な種の確認位置 (底生動物)

※重要な種の保護の観点から、
確認位置については表示していません。

凡例

-  対象事業実施区域
-  対象事業実施区域(港湾施設)
-  アカテガニ

0 0.5 1 2 km

1:40,000






図-6.12.28 (19) 重要な種の確認位置 (底生動物)



※重要な種の保護の観点から、
確認位置については表示しておりません。

凡例

-  対象事業実施区域
-  対象事業実施区域(港湾施設)
-  ベンケイガニ

0 0.5 1 2 km




1:40,000



図-6.12.28 (20) 重要な種の確認位置 (底生動物)

※重要な種の保護の観点から、
確認位置については表示していません。

凡例

-  対象事業実施区域
-  対象事業実施区域(港湾施設)
-  ミナミアシハラガニ

0 0.5 1 2 km




1:40,000



図-6.12.28 (21) 重要な種の確認位置 (底生動物)

※重要な種の保護の観点から、
確認位置については表示しておりません。

凡例

-  対象事業実施区域
-  対象事業実施区域(港湾施設)
-  ヒメヒライソモドキ

0 0.5 1 2 km




1:40,000



図-6.12.28 (22) 重要な種の確認位置 (底生動物)

※重要な種の保護の観点から、
確認位置については表示していません。

凡例

-  対象事業実施区域
-  対象事業実施区域(港湾施設)
-  タイワンヒライソモドキ

0 0.5 1 2 km




1:40,000



図-6.12.28 (23) 重要な種の確認位置 (底生動物)

※重要な種の保護の観点から、
確認位置については表示していません。

凡例

-  対象事業実施区域
-  対象事業実施区域(港湾施設)
-  ヨツハヒライソモドキ

0 0.5 1 2 km




1:40,000



図-6.12.28 (24) 重要な種の確認位置 (底生動物)

※重要な種の保護の観点から、
確認位置については表示していません。

凡例

-  対象事業実施区域
-  対象事業実施区域(港湾施設)
-  ヒメカクオサガニ

0 0.5 1 2 km




1:40,000



図-6.12.28 (25) 重要な種の確認位置 (底生動物)

※重要な種の保護の観点から、
確認位置については表示しておりません。

凡例

-  対象事業実施区域
-  対象事業実施区域(港湾施設)
-  フタハオサガニ

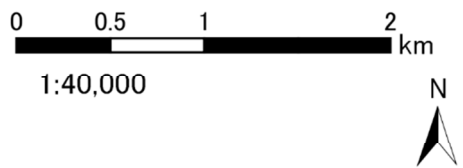





図-6.12.28 (26) 重要な種の確認位置 (底生動物)

※重要な種の保護の観点から、
確認位置については表示しておりません。

凡例

-  対象事業実施区域
-  対象事業実施区域(港湾施設)
-  ナンヨウスナガニ

0 0.5 1 2 km

1:40,000



図-6.12.28 (27) 重要な種の確認位置 (底生動物)